

政治資金規正法違反被告事件（平成 22 年特（わ）第 195 号等）被告人：石川知裕外 2 名
東京地方裁判所刑事第 17 部御中

平成 23 年 2 月 2 日 被告人石川知裕弁護人吉田美穂子
被告人石川知裕に対する平成 22 年 5 月 17 日に行われた

検察官による取調べの録音データの反訳書

録音日時 平成 22 年 5 月 17 日

取調べ検察官 田代政弘検事

取調べ室内での田代氏との会話

（以下、田代検事を「田」、石川知裕を「石」、検察事務官を「事務官」と略す。）

00:02:49	石 失礼します。 田 どうぞ、どうぞ。 田 石川さんさ、録音機持っていない？ 石 大丈夫です。 田 大丈夫？ 田 この前もさ、そういうこと言ってとった奴がいてさ、それ（携帯）、まあ、電源切ってもらって（携帯機を閉じる音）
00:03:09	田 石川さん大丈夫？ 石 はい。大丈夫です。 田 大丈夫？下着の中とか入ってない？（録音機が） 石 大丈夫です。 田 エッへへ（笑） 田 これじゃ、あの、名前買ってもらって。 石 はい。 石 大久保さんは明日ですよ。 田 大久保さんはね、多分、明日だとね、思うんだけど。正確にはちょっと…（不鮮明）。 田 よいしょっと。どうですか、その後は。 石 まあ…。 田 なんかあれか。飲み物買ってくるか。 事務官 ええ。今、あの一。 石 まあ、あの一、ま、出て、色んな後援会の方とお会いをして、まあ、とにかく辞めるなど、いうことだったんで。ただ、次の衆議院議員選挙で任期満了だと、おそらく最高裁までと間に合わないだろうと思うんですよ。現職のまま戦うっていうのは、その前に出たらですね、分かりませんが現職のままであれば当然戦ってたとえ、2年半これからかかって、

	田 任期満了まであと？ 石 あと3年… 田 3年 石 いや、あと3年半ありますね。 田 3年半ある。 石 はい。 田 衆議院の任期満了まで。 石 はい。 3年半切ってるか…。 4年。あの、去年の9月ですから、8月30日ですから。投票日は。 田 うん、そうだよな。 石 だから一、そうすると、まあ、ちょっとわかりませんが、まあ、現職のままであれば、当然戦って…。 田 うんうん。 石 戦って負ければ、それは仕方ありません。 田 うんうん。 石 ただ、事務所（不鮮明）に戻れるには、選挙を経ないと現実的にはありえないんで。 田 うんうん。 石 まあ… 田 間に合わないっていうのは？ 石 あの、判決が出て、あの一、失職の、可能性が高いですよ。 田 はいはい。 石 公民権停止の。 その時はまた、第二の人生を考えなければいけませんから。 田 うんうん。 石 5年出ると、その時点で、その時点で5年出ること、2回出れないってことですから。 田 うんうん。5年になればね。 石 はい。 田 あれ、執行猶予期間、執行猶予が付くと執行猶予期間じゃなかったっけ。 石 そうです。執行猶予期間です。
00:05:13	田 だからそれを3年になるような、努力をしないとねって…話をしたよね。逮捕されたときねえ。 石 はい、 まあ、それがどういふあの、努力をしたら、

	<p>石 それが、どういう努力をしたら、3年になるのか、ぼくはちょっとわからないんですけど。</p> <p>田 それはもう、情状面だからね〜。うーん。</p> <p>石 ただ、もう〜</p> <p>ただ、言うべきところは言っただ、後はもう裁判長の判断に任せるなりして、まあ、だけど、もう、ね、ざっくばらんな話、無罪になるわけではないですから。</p> <p>(笑)</p> <p>田 (笑)</p> <p>石 それは百も承知ですから。そんなことは。無罪になるわけではないんですけど、ただ、あの〜、やっぱり、検事ともやり取りして、自分でもやっぱり、もうちょっとここ、あの一補足すべき点みたいなのあったらっていうところはなきにしもあらずなんで、それをどう法廷で、特にあと、自分の名誉としては…</p> <p>田 うん、</p> <p>石 水谷建設の件ですよ。</p>
00:05:56	<p>石 びっくりしましたよ。やっぱり、調書読んで、なんで川村こんな…</p> <p>田 川村の調書ね？</p> <p>石 川村の調書。</p> <p>田 なんか。うん。</p> <p>あれ、額をちっちゃく言っただよ。多分。多分ね。</p> <p>石 いやだけど5000万はないでしょ。</p> <p>田 いや、その金額はちょっと分かんないけども、</p> <p>石 いや、俺、びっくりして、</p> <p>田 うーん。</p> <p>田 だから、いや、結局ね、ほんと、とってない？大丈夫ね？</p> <p>石 大丈夫です。</p> <p>田 いや結局さ、大久保さんが認めてるのは…</p> <p>石 私がこんなこと言ったら大変じゃないですか。もらってたって言ってたって。</p> <p>田 そのさ、やっぱり目撃者がいるところは認めてるんだよね。山本潤が同席しているから、で山本はこっちでかっちり押さえてるからさ。</p> <p>石 あー、しかし、俺、山本が許せないのはね、山本は俺と、あの飲んだ、水谷がいる席で飲んだって言ってるでしょ。あの、調書に書いてあるでしょちゃんねとね(石川氏が机をたたく音)、石川さんがいたのに間違いないから！あいつは！(再び石川氏が机をたたく音)。</p>

	<p>田 その、花泉の接待はさ、山本の</p> <p>石 はい、</p> <p>田 山本の調書には入っていないと思うよ。石川さんがいたっていうのは、僕はね、調べ官から報告を受けているのは、</p> <p>石 はい。</p> <p>田 川村は石川さんを接待したって</p> <p>石 はい。</p> <p>田 言ってるって、それは知ってるよね？</p> <p>石 はい。</p> <p>田 だけど、山本さんはね、頑として、いや石川さんはいなかったと思うと、言う風に言っただって報告受けてるんだよ。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 だから調書にも入ってるんじゃない。山本の調書には。</p> <p>石 いや、山本ね、違うんですよ。石川さん…</p> <p>田 別の所で飲み食いしたっていうのはあったかもしれないけど。</p> <p>石 違うんですよ。別の所で3人ではやっているんですよ。</p> <p>ただね。確かにね。大久保さんのあれ見て。うん。</p> <p>確かにね、(笑)お金もらってたってね、</p> <p>あの、吉田さんが思うのも、仕方ないなどは、自分で思いました。</p> <p>あれ、900でしょ。大久保さんの。</p> <p>田 そうだね。全部でね。</p> <p>だから、多分さ、最初のさ、その、いわゆるま、5000かどうかは別としてね。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 一番最初のあれも、大久保さんなんじゃないかなって可能性もあるよな。</p> <p>確かに。</p> <p>石 だけど、小沢さんに無断で1億もらうかなあ？</p> <p>田 だから、それはさあ、タワーに入ってるんじゃないの。やっぱり、タワーの金庫に(笑)</p> <p>石 いやあ〜。そんなことはない〜。</p> <p>だって、小沢先生は水谷嫌いですからね〜。</p> <p>田 う〜ん。</p> <p>石 だってあの、あまりにも危険でしょう？</p> <p>田 まあね。</p> <p>ただ、当時からそういう危機意識があったかどうかだよな。</p> <p>今はさ、もう、水谷からなんか、誰ももらいませんよ。</p>
--	---

石 だけど、あの、野党でね。野党で16年。
いくら岩手に力あるからって、それで5千万、2回なんて持っていくなあ？

田 うーん。
まあ、あの一、それまでに付き合いがないからね。
小沢事務所と水谷建設はね。

石 はい。はい。
田 そりゃ、ま、鹿島とか、大成とかね。
石 はい。
田 あーいうところから言われてさ、
石 はい。
田 あー、あの、ま、行っただ。
ちゃんと挨拶しとけよという言い方をされて行っただ。
石 はい。
田 でも、彼らはさ。(笑)水谷建設、挨拶に行けっというのはさ、イコールお金を持って行けっということだからさ、彼らの解釈はね。
石 はあー。
田 彼らの解釈はね。金持って行けっと言われてないだろってと言われてもさ、いやだけど、子どもじゃないんだから、挨拶に行けっと言われてさ、こんにちは、って挨拶に行ったら、どう思われますかと。それはちゃんと手土産もっていでしょっという。っというのが、彼らの解釈なんだよ。
石 うーん。
田 だからそれで、多分持って行って、受け取ってもらったか受け取ってもらってないかっていうのは分からないけども。うーん。まあ、大久保さんも、当初は一切そういう金はありませんでしたと。そりゃ先生だっであーいうふうに言ってる通りですと、いうふうに言っただけどもまあ、最終的にはさ、色々、まあ供述だけでなくね、色んな証拠があっただ、そりゃ、まあ認めざるを得なかったわけだよ、うーん。
石 いやあ〜そうだったのかと思っただ。
田 うーん。うーん。
石 最後に、一番最後に、私が山崎の件、疑われましたよね。
それで、調査一個取っただ、その、預かっただ、預かっただ、戻したっただ記憶はあるような気がするんですよ。あれと別にですよ。あれはだっただ、あの。
田 あれは、一千万位っただ言っただんじゃん。あれは。
石 どの件ですか？
田 あの一。東京赤、東京プリンスで、山崎建設と、なんかラウンジで会っただ渡したっただ。

石 うーん。
田 なんか渡したっただいうやつがあるっただ、話したよね。
石 それで、池田の名刺だっただあっただ。
田 そうそう。
石 その時は違っただときに、300持っただきて、あの、預かっただ、大久保さんが戻して来いっただいっただ、戻した記憶はあるんですよ。ただ、それもはっきりとした記憶じゃないんですよ。相当前なっただ。
だから、私が、あの一、扱っただいるっただそれ位なっただですよ。
田 そんなときはさ、山崎建設の誰が持っただきたか覚えてんの？
石 いや〜
田 全く覚えてない？
石 はい。
田 その業担の川端っただいうやつか、社長かだと思っただけど。
石 社長ではありません。
そしたら、川端さんですよ。
田 川端。
石 社長とはそんな、会館で会っただようなことはありませんから。
田 川端は知っただんですか。もともと。
石 いやあ、でも私、顔が分かんないんですよ。
田 うーん。
石 それで、あの、私が直接受け取っただわけではないんですよ。
置いっただあっただですよ。確か。
渡して、うーん。
確か〜。
田 うーん。
石 いやあだから、そっただ、これ、大久保さんと水谷っただこんなに親しかっただんだあ、思っただ。
田 そりゃ、やっばりさ、あの一。
高橋嘉信の頃からの付き合いだからね。水谷建設はさ。
高橋嘉信には大分入れ込んっただるわけだよ。
水谷功が。
石 あー。
田 それで高橋から、もう、俺は今後はね。あの、もう、仕切れなくなっただきたから、あー、この、胆沢のこの今問題になっただいる本体工事とかね、原石山工事の前に、基礎掘削工事っただのがあっただんですよ、前田建設が獲得したね。

石 そんなときまでは、高橋嘉信が、色々やってたんだけど、水谷功は、もう、あの掘削工事を最後に、もう、今後は一緒に仕事はできないからと。あと
 はもう、大久保ってやつが、あの、やると思うからと。
 石 しかし、高橋さんと大久保さんは、そんなスムーズな、ことやるかなあ。
 高橋さん。
 田 いや、だから、そんな引き継ぎとかじゃなくて、
 石 はい。
 田 結局、大久保に乗っ取られたみたいだね。
 石 いやまあそれだったら。正確です。
 田 だから、俺ははじき出されたんだよ、みたいな。
 石 あーなるほど。それだったら正確ですね。
 石 しかし、5千万は、大久保さんはないって言っているんですよね。
 田 うーん。
 石 それは、ちょこちょこもらってたのはあっても、
 5千万2回は、それだけは絶対ないっていうんですよ。
 田 (笑)ちょこちょこもらってたっていうのは言ってるの？石川さんのその。
 今回の。
 石 いやいや、私と大久保さんは、だって話せないじゃないですか。
 田 あーそうかそうか。
 石 直接話せないじゃないですか。いや、その、あの、弁護士から聞いた話で
 すよ。
 南さんから聞いた話を。
 田 うーん。
 石 だって、もう供述調書に取られちゃってるじゃないですか。
 田 そうそうそう。
 石 あれは、比較的早い段階から、話してみたいだけだね。
 石 そんなで、検事言ってたじゃないですか。私に。
 大久保さん、その件になると、いやいやそんな、それは言えませんか。
 田 少なくとも、僕が調べてた時には、あの一、まだ逮捕する前だったし、
 あの一金、そういう不正なお金は一切受け取ってないし、
 石 はい。
 田 盆暮れについてもね、もう、盆暮れもはっきり言って、川村がさあ、彼
 の自宅に行ってね、金と松坂牛持って行ってさ、家にあがらせてもらって
 お茶飲んだっていうことも、押さえられてるわけ、証拠で。だってさ、で
 なきゃさ。川村は彼の家の間取りなんか、知る由もないんだからさ
 石 はい。

田 だけど、川村さんなんて来たことがありませんとかね。
 あ、1回来たけど、自分の留守で、名刺だけ置いて帰ったとかね。
 石 そんなこと言ってたわけだよ。で、お金も預かってないし、ま、手土産位
 置いてったかもしれないけど、松坂牛なんか、そんな高価なものもらつて
 ないとかさ、うーん。その頃は全然一切。
 一切そういう不正なものは、盆暮れも含めて受け取ってないって、言っ
 たから。
 石 いや、俺なんで、吉田さんがね。私に、5千万そんな執拗にもらっている
 はずだっていうのが私分かんなかったわけですよ。はっきり言って。
 田 ははは(笑)
 石 だけど、それ、出て。証拠開示になった後、大久保さんの供述調書と川村
 とか、山本とか水谷功とか読んで、あ、こういうことで、私からすると、
 固められてるんだんなあと。だって、私に渡したところだけ、あいまいな
 わけでしょ。
 田 うん？あいまいってのは？
 石 私の顔がよくわからない、覚えてないから、なんとなく印象の薄い顔だっ
 たので(笑)…って。
 田 あはは(笑)
 石 私に声掛けてね、あんなところで、石川さんですかって声かけてたなんて。
 田 5千万も持ってて(笑)
 石 だいたいね、そんな5千万の受け渡しをね、おい、石川、おれちよっと行
 けなくなったからって、お前行って来いなんて、常識で考えて下さいって
 私は言いたいわけですよ。
 田 うーん。そこはさあ。
 石 今日、本件とは関係ない話で、伸ばしてすみませんね。
 田 その、裁判では弁護人はどういう方針なの。そこは、そこは主張させない
 っていうか、そういう。
 石 それは、否認ですよ。
 田 うん、で、否認で…。普通のパターンでいけばさ、あれだけ言っただか
 ら、多分、その、
 証明、検察官の主張としては、あーその、水谷建設から5千万が行ってて
 ね、それが、石川さんが受け取っているだよ。
 石 はい、
 田 っていうふうには認定できるっていうふうな主張すると思うんだよ。
 石 はい。
 田 それに対して、弁護人は、当然否認するから、あー川村の供述調書も不同

	意になって。
石	はい。
田	それじゃ、川村を証人尋問すると。
石	はい。
田	で、検察官は多分、川村の証人尋問請求すると思うのね。
石	はい。
田	うん、で、それに対して弁護人は、ま、あの、じゃ、川村やって、法廷で黒白つけましようという態度も取りうるし、または、その、5千万が、どうかっていうことは、この本件の虚偽記入の、虚偽記載の事実とは、
石	はい。
田	全然関係ないでしょと。
石	だから、不同意にして、それで呼ばれて、もし呼ばれた場合は、徹底的に戦うしかないですよ。
田	うーん。うーん。その、いやあのさ、じゃ石川さんの弁護士の立場からすると。
石	はい。
田	川村が法廷に出てきて、たとえ嘘でもね、あることないことしゃべられること自体、不利益じゃないですか。
石	そうですね。
田	だから、もう法廷、証人として採用してくれるなど。裁判所に。えーなぜなら、その本件の、この4億円の不記載と。
石	はい。
田	その、5千万があったかどうかは関係ないでしょと。成否に。だからその立証させないでくれと。
石	はい。
田	という主張をすることもできるんですよ。
石	そうですね。
田	そこはどっちを選択かするの。
石	いやあ、そこまで、まだちょっと話固めてません。
田	あー。
石	まだ、あの。
田	いや、個人的には多分呼んで、白黒つけたらいいという…んでさ、思うよな？
石	私は、そう思ってます。
	はい。私は法廷でどなりつけてやろうと思ってます。本当に。
田	(笑) 法廷侮辱とかかって他で現行犯逮捕っていうね(笑)。
石	いや、ほんとに頭にきますよね。

	で、あの保釈の日に、したら、あの一、会ってはダメな人、5人位書いてあって、川村って書いてあって、私営ってたじゃないですか、御覧車で乗り付けますよって(笑) 三重県にって(笑)
石	これから、裁判で、秋位ですよ。初公判。
田	うん、ま、選挙終わって、そうでしょうね。秋、9月位ですかねえ。うーん。
石	こんなこと言ったらまた、あれですけど。やっぱりま、外に向かっては言えないですけど。やっぱり有罪は覚悟してますけど。それが、いつ出たのかってそれは気になりますよね。
田	うーん。そうだね。
石	それとまた、これ、ね、報告・了承？相談ほんとにあったのかとかね、これはきついですよ。私も。あとは小沢さんの認識だけですから。
田	それは、あといくら石川さんに聞いてもしょうがないことで…。
石	はい。
田	その、仮に、認識してると思ってたって言ったところだね、向こうがしてないよって言われればそれだけの話だから。
石	はい。
田	そこんとは、もう、しょうがないよね。だから、そりゃ小沢先生、昨日もね、あの一そんなこと、報告なんか受けた記憶ないし。
石	はい。
田	ってふうに言ってるんでね、そりゃもうそれで、いや記憶あるだろうって言ったって、水掛け論だから、しょうがないんで。
石	私、記憶あるんだろうとは言えないですよ(笑)。
00:17:25	石 一番大事なものは、ま、その時期を、今日、検事さんに話したいなと思ったのは、ま、調査にも取られてることですけど、時期をずらすのがね、やっぱり最大の目的で、小沢から借りた4億円を隠す、隠すっていうのが第一じゃないわけですよ。 小沢一郎から借りたっていうのを完全に隠したいのであれば、やっぱりあそこよりそなから4億円って書くべきなんです。検事は、いつもその、あの一個人の4億円とりそなからの4億円、それはすなわち、りそなからの4億円ってことですけど、あの一、やっぱり一番大事なものは収支報告書への記載を1年ずらすっていうのが、1番の目的なんで、だから、小沢さんが…、あの、収支報告書の作成過程で、だいたい、大久保さんに合わせましたけれど、12月の報告で終わってますからね、3月、2月、なんてのは、実際、ま、西松との兼ね合いがあるから、そうしましたけど、

	<p>だから、大久保さんが、だから、明日呼ばれてどういうふうに言うのか分かんないですけどもね。</p> <p>田 うーん。ま、あの、そうだね。まあ、そこところは、まあさ、あの一細かいことを多分、今からも一回詰め直してもね。多分真相なんか分かんないし、それに…。</p> <p>石 今日、調書取るんですか？</p> <p>田 今日は、そりゃ調書取れて言われていますよ。</p> <p>今、現在の石川さんのね、その、あれからしばらく時間が経って、</p> <p>石 はい。</p> <p>田 えー、で、ま、外ではさ、ま、うちの幹部からすればさ、威勢のいいことを言っていると、映っているわけよ。私はね、いやそれはね、あの、そりゃ、表面みればそうだけど、</p> <p>石 はい。</p> <p>田 実際はね、そりゃ、色んな事情があって、言ってることだし、それは、もう逮捕中から言ってたことで、想定内なんですとよ、うん、あの一、ということを言っただけど、ま、なかなかそりゃね、あの、あれだけ見ればさ、結局～供述を翻しているとかね、えー、威勢がいいことを言っているとかさ、いうふうに解釈もされるわけだけれど、だから、そこのところを、今現在どうなのかと、いうのを、ま、よく聞いて、</p> <p>石 はい。</p> <p>田 うーん。そこところは、ま、調書にすることのものが、一つの今日のミッションなんだけれども。</p> <p>石 なるほど、わかりました。</p>
00:19:40	<p>田 あの一、基本的にはさ、どうなのかな、その、これさ、検審のね、うちが、ま、起訴するかしないかっていうのも、もちろん、これからの判断だから、そこにもかかわってくるんだけど。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 仮に、ま、起訴せずということになって済んだ場合には、今度は検審の議決があるでしょ、そこでまた起訴相当がでちゃうと困るわけで、えーそこをなんとか、そのさ…。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 あ、ま、11人中8人が起訴相当を出さなければさ、起訴強制にはならないわけで、ハードルはかなり高いことは高いんだよね。ただ、この前は全会一致らしいからね、今度5人それが残っちゃうってなると、ま、非常にきついことはきついんだけど、それでもま、8人ってハードルは相当高いんでね、そこのところを意識して。</p>

	<p>石 はい。</p> <p>田 えー石川さんも、ま～なんていうのかな、自分のことっていうよりも、むしろ、小沢先生のことですよね。だから、一つありうるのはさ、あの、ま、これまでの自分の供述は、自分が供述して、えー調書を作ってきたことについては、ま、これはもう、間違いありませんと。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 それは今になったってね、供述内容は変わりませんと。ま、それで後は、小沢先生が認識していたかどうか、どう解釈してたかどうか、それは私には分かりませんと。ただ、事実はお話した通りですと、というのがまあ、一つの選択肢としてあるよね。で、もう一個、ある程度は予想してるのは、小沢先生から圧力掛けられてね、今日来てさ、今までのが全部、事実じゃないですと。報告も何もしてませんと。小沢先生は一切、預りしないことですよ、いう、だから私が全部独断でやったことですよというふうのが対局にあるというかな。うーん。</p> <p>石 今までのを全部翻すことにはならないでしょ。</p> <p>田 ま、それはね、もしそれを、僕はまそういうことには多分ならんだろうなとは思ってたけども、仮にそういうことを、するとすると…。</p> <p>うーん。</p> <p>でもね、そういうふうだね、多分、石川さんは小沢先生からねじまかれてきてね、弁護士からねじまかれてきて今までの供述を多分全面的に否定するだろうと、</p> <p>石 はい。</p> <p>田 って、いうふうな想像をしている人は結構いて。</p> <p>石 あー、そうですね。</p> <p>田 結構いるのよ。</p> <p>石 あーそう。</p> <p>そんな気はないですね。</p>
00:21:55	<p>田 だけど、それをやっちゃうとさ。やっぱり、その、なんていうのかな。あーそのま、いわゆる強硬な、ね、考え方の人達の思うツボっていうか。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 もしそういうふうにしたらさ、それを読んだ人はどういうふうに思うかっていうのさ、容易に想像つくじゃない。うちの幹部にしてもそうだし、検審にしてもそうだよ、なぜそういう供述になったのかっていうのをさ、みんな色々想像するよね。</p> <p>石 そしたら、また絶対的権力者の話を裏付けることになるんですか。</p> <p>田 ほら、やっぱり絶対的権力者じゃん、あの、背景っていうか、あの先入</p>

	石	観があるとさ、有る限り、やっぱりさ、結構きついわね、その部分がね、うーん。なんかヤクザの事件、ま、検事も言ってたけどね。あの一。石川さん、ヤクザの事件と同じなんだよって。(笑) だけど、指導弁護士さんっていうのが、それをしたわけですよ。ヤクザの例を出したわけですよ、共謀共同正犯というのは。
00:22:49	田	うん、うん。まーそのあれ？アドバイザーが？
	石	はい。
	田	どーなのかねー。あそこの共謀のところは随分議論になったらしいけど。うちはほら、要するにさ、ぼくはあの、石川さんに対してね、ま、色んな技をさずけて、調書にした部分もあるけども。
	石	はい。
	田	結局、やっぱり法律家であれば、やっぱり共謀の認定っていうのは、ま、認めてはいるんだけど、それじゃ、ちょっと共謀の認定としてはきついわねっていう、位の話はしたじゃない。
	石	はい。
	田	で、うちの方は、ま、なんていうかな。うまい具合にさ、そこは、ね。要するにそこは想像したとおりになったわけですよ。うん。だけど、そここのところがやっぱり、検審の、その法律家じゃない人には、ま、理解が多分しづらいところなんじゃないかと思うんだよな。うん。だから、それはなんで、その、大久保にしたってさ、収支報告書に書きませんよっていう言葉で報告したわけじゃないしね。
	石	はい。
	田	うーん。それで時期も少し離れてるわけだしさ。ただ、ま。やっぱり背景には、やっぱり、絶対的権力者っていうのは、調書とか何とかってところには一つも出てきてない言葉だから、それをさ、あーいうふうに議決書に書くっていうのはさ、やっぱり、あれ、一つのキーワードになっちゃってんだよな。向こうの議論の中で。うん。だからその、ヤクザの事件で、子だけに責任負わすのおかしいでしょと。
	石	はい。
	田	というのと、おんなじだよ。うーん。
00:24:28	石	そうですね。上の方では、私に来て、全面否定すると、
	田	うん、だからそれを…。心配にしている人もいるし、逆に楽しみにしている人もいるっていうかさ。だから、否認、その全面否定したらね、全面否定した内容の調書とっちゃえと。それでその一、なんでその供述変わったのかと、聞けばさ、そりゃ、小沢先生に言われてとは言えないだろ、口が裂けてもね、そうすると、合

	石	理的理由なんて説明できるわけがないんだから、そりゃ説明できませんと取っちゃえと。そうすりゃ、分かるもんね。読んだ人は、どういふふうにするかは容易に想像つくからね。うん。
00:25:04	石	威勢のいいことって言ったって、水谷建設からもらってないもん、当たり前じゃないですか、そんなもん。
	田	そりゃいいんだけどさ、そこは誰も気にしてないのよ。
	石	はい。
	田	あの一、やっぱり、吉田正喜がさ、
	石	はい。
	田	言ってるのは、ま、議員辞職しないっていうこととさ、
	石	(笑)
	石	そりゃ、だけど、その時から容易に想像できたじゃない。吉田さんに私、したいけれども、出たら、やっぱり分からないとは言っていましたよ。
	田	でも調書取ったときはさ、
	石	はい、はい。
	田	議員辞職しますっていうさ(笑)
	田	ま、それはそれでいいんだけど、辞職は別にうちがどういふもんじゃないから、そりゃあの。
	石	だけど、あれは、あの証拠開示で出てないですよ。
	田	そりゃだって、吉田正喜のあれ、隠し玉なんじゃないの。
	石	あー。
	田	(笑)
	石	だけど、あれ、議員辞職しますっていうのは■■さんの件ですよ？
	田	■■さんの件。
	石	あー。
	田	あの、まあ、政治活動に関してお金をもらってましたからそれは賄賂と認識してますっていう、で、こういったもののお金を受け取った以上、その、しかるべき時期に、議員辞職しますみたいなの、内容の調書があったじゃない。
	石	はい。
	田	ま、それは本件と関係ないし、うん。
	田	ま、それとあと、あれだよ。その一。そこは、ま、ともかくさ、
	石	はい。
	田	あと、ま、その報告・了承はしてないとかっていうのかさ、あとその一、自分の虚偽記入について、その、意図してやったことではないとか、毎日新聞に出たじゃない。

	石 はい。
	田 そこんところはね、多分、カチンと来てると思う。
	石 はい。
	田 うん、で、別に報告了承してない…報告了承ってというのは、なんかさ今さ、凄くマスコミで一人歩きしててね、その、10月の時点で、その、代表選がありますから、あー、その土地のことで、土地を16年の収支報告書にあればすると、代表選に影響しましたと、だから、それずらしたいですと。
	石 はい。
	田 で、先生からの4億についてもね、またマスコミが騒ぎますと、いう風について先生がおうそうかと、先生がま、そうしてくれと。いいましたと。というところはさ、そりゃま、突き詰めていけばあの供述調書にもなっているけども。
	石 はい。
	田 表に出せないっていうことはすなわち、公表しないってことであってそれはすなわち、すなわち、収支報告書に載せないっていう意味なんだけど、
	石 ま、あの一。
	田 意味です、と調書にとってあるんだけど。
	石 はい。
	田 それをさ、明示的にやり取りしてるわけじゃない。
	石 はい。
	田 先生との間で。
00:27:15	石 だから、一番は、あの一、不動産購入したことが、あの一、明るみに、明るみってか、その、ま、明るみに出るんですけど、不動産購入したことがドンと出るっていうのが、あの、痛くもない腹を探られるってことなんで、その4億円を隠すためっていうのは、やっぱり、あの一。その時に、それが先に考えてたことかどうかっていうと、そうじゃないっていうことだけですよ。もし今日、あの一、改めて、言いたいとしたら、その一、一切報告もしてません、あの一、見せてません、記憶にありません、ということはありません。
	田 うん。うん。 あの一。ただその担保貸付、不要なね、預金担保貸付を受けて、というところは、やっぱりその一、原資を、先生からの4億というのを。
	石 はい。
	田 そのまま、正直にしておきたくないっていう、ことの一つの表れだよ。ね。
	石 ま、ただ、あの一借りた4億円、小沢さんから借りた4億円で不動産を払ってますよね、そのま、払ってますよね、だからまあ、政治、あの一、

	預金担保をして、えー政治資金で、本来であれば、あの一、預金担保貸付やった分、あの一、払って、あと、あの一、運転資金、それも分からない形で、小沢さんから借りたのをあてれば、あの一、よかったっちゃよかったんですけども。
	田 そうだね。
	石 それやっつれば全然。でも、あーそれでもやっぱり捕まったのかな？
	田 (笑)
00:28:52	田 いや、だから、別にそれでもさ、ちゃんと12月に出頭してればさ、もっと前に、捕まってないんだから…。(笑)
	石 (笑)
	田 あそこで、対決姿勢を示さなければ。(笑)
	石 (笑) ま、あれで在宅起訴でしたかね、あれで。
	田 ま、在宅だったらよかったんじゃないの。分かんないけど。
	石 これやっぱり、議員辞職しますっていう調書もやっぱり法廷で出されたら、私も結構大変ですよ、ま、いずれそうなるかなと思っているんですけど。
	田 ま、要するにあの調書は、■■さんから金をもらって、それを賄賂だと認識してました、つてなってるからね。うん。そりゃ、もうそんなの出したら大騒ぎだよ。また。
	石 はい。
	田 ま、それは、あの一、現状でいく限りね、そりゃそんなものは世に出そうなんていう気はないと思うけれど、うーん。これが、また変な方向へ。
	石 はい。
	田 対鈴木宗男みたいにさ、徹底抗戦みたいになっちゃうとさ、じゃあ、やれるものはやれと。
	石 はい。
	田 うー、というまたややこしい話に、なっちゃうからね。
	石 はい。
	田 6月には国会終わるだろうとかさ、うふふ(笑)
	石 なるほどね、でもそこで逮捕されるのもすっきりするかな。もう。
	田 そんなの勝手だって(不鮮明)。 そんなの付きあってらんないだろ。また、自分の社会復帰が遅れるだけなんだから。その分。
	石 あーまーそうですけどねー。
	いや、そこで逮捕されたら、人生すっぱり。
	田 (笑)
	石 すっぱり、それこそねー、汚い人間だったって断罪されてね、あともう、

	どっか行って暮らすのも一つの手かなと思いますよね。
田	ま、そうならないようにさ、ずっと逮捕されてきてからやってきたし、だけど、ま、なかなか、吉田正喜もなかなか執念深いし(笑)。
石	(笑) あ、吉田さんが威勢のいいこと言ってるって言ってんですか。
田	いや、吉田さんはね、やっぱり、カチンときてるのよ、結構。
石	うーん。
田	自分の罪とか、小沢さんに対する報告了承までね、やっぱり否定してるし、議員辞めないみたいなこと言っているじゃない、だから、そこのところはさー。やっぱり。
石	まあ、辞めることを信じてますよとは言っていましたけどね。
	だけど、それは、吉田さんもね、それは、出たらなかなかつらいだろうと、俺は言っていたんですよ。
田	うーん。ま、あの一、そうだなー、ただ、ま、それはな、あの一、うーん、色々言うけど。
石	はい。
田	それは、なんていうかな、有権者向けっていうかさ、なんていうの、こう地元の支援者向け？なんですと。っていうとこを調書に入れとくか？
石	(笑)
田	いや、そうすりゃ、納得するよ。
	で、そりゃー、表に出すべきじゃないし、そりゃ、裁判でさ、全部ひっくりかえすとなれば、出るだろうけど、そうでもない限り、別に表に出るもんじゃないから、
石	うん。
田	多分一言、あーマスコミ向けにね、自分の罪や小沢先生への報告などを訂正するようなことを発言していることもあるけれど、それはまあ…。
石	小沢さんへの報告了承を否定するっていうのを私、やりました？
田	報告了承してませんっていうのは、一貫してないじゃない。
	だからそこでいう、報告了承とマスコミのいっている報告了承がね、同じ意味か、違う意味かっていうのはわかんないのよ、読んでて、正確には…。
	彼らはいかにもさ、ほんとの、がちがちの共謀があったような
石	だから、私が毎日新聞で答えたのは、細かいことをね、あの一全てね、報告して、それを了承っていうのはしてないと。
田	うん。うん。
石	それは言ってますよ。ちゃんと。
田	そこは、うまくすりかえて答えてるんだね。
石	はい。

	そこはそうですね。
田	自分の言ったことを否定しないようにしながら、でも相手、その報告了承はしていないというような。うーん。
00:32:44	石 検察審査会が不起訴不当を出してくれれば、おれもこんなに苦労しなくて済んだのになあ。
田	だからここんところさ、その一あれだよ。その、検審、ま、うちの方針もそうだけど、多分その一、石川さんが、今までの話を維持してきちつとね、あの一、話をしている限り、多分その一、起訴だということにはならないんだろと思うんだよ。うちの判断は。そりゃ、前回しているわけだから。
	で、ここで、また全部ひっくり返すとかっていうことになると、
石	はい。
田	また変わってくんだけど…
石	はい。
00:33:21	田 今までの供述はきちんと話をしていますと、在宅になっても話してますとなると、多分うちの判断は変わらないと思うんだよ。今度、向こうに行くと、検察審査会が。
石	今日の調書は検審も見わけですよ。
田	見るよ。見ます見ます。
	だってそのために取るわけだから。それで一、その、それを見せたときに、見せて、検審がその絶対的権力者であると、いうところにどれだけ、疑問をもつかっていうかさ。
石	うーん。
田	だからその、絶対権力者とか言われてるけども、きちんと別になんていうのかな、話をして、逮捕されている時と同じ話をして。
石	はい。
田	別に小沢先生とね、口裏合わせをしたり、圧力をかけられてね、言うことを後退させたり、そういうことはしてませんと、
石	はい。
田	というふうに、解釈をしてくれて、
石	はい。
田	で、11人中8人だから、
石	だいたい、私ね、保釈以来、会っても、電話で話してもいないですからね。
田	うーん。
石	疑われるから。この間帯広市長選、終わって勝ったあと、候補者連れていこうかと思ったんですけど、検察審査会で起訴相当出ちゃったもんで、そ

	<p>れでやめたんですよ。</p> <p>田 うーん。</p> <p>石 会うなら、表で塗々と。</p> <p>田 ま、あの。しかしさ、世の中の人色々勘ぐるから、我々もそうなんだけど、直接会ってなくても弁護士通じて色々できるからさ、みんな思うわけじゃない。</p> <p>石 ただ、圧力はかかってません。今日もあの一。</p> <p>あの、自分の思いを、やっぱり、変えようと思う部分を変えたらいいってことだけですから。</p> <p>田 うーん。だからそれで、11人中8人だから、まあ3人、4人？</p> <p>11人だよな？検審は？（検察事務官に聞く）13だっけ？11だよな？</p> <p>そうだよな？11だよな。6が過半数だから。な。だからその、4人さ、4人、ま、起訴するまでもないだろうと。そりゃ、不起訴は不当かもしれないけど、不起訴っていうのはただちに承服できないけど、うーん。ま。強制起訴にね。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 うーん。今度の判断って重いからね、やっぱり検審のね、そこんとこで、やっぱり強制起訴まではね、不要だろうと。</p> <p>石 はい。</p>
00:35:32	<p>田 っていうことを4人言ってくれれば、それは不起訴不当で、それでもう終わるわけだからね。うーん。</p> <p>石 まあ、先に出した、5人の人がまだ残っているんでしたっけ。</p> <p>田 そうそう。</p> <p>石 まあその人達も変えてくれればいいですけどね。</p> <p>なかなかね。</p> <p>田 ま、だから、それは、最初に言っているように、ここで全部否定することは、逆に火に油を注ぐことになるよね。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 ここで維持することが、彼らの気持ちをどう動かすかだよ。</p> <p>石 はい。</p> <p>石 それはあの一。いや、ここにきて、全部、その、吉田さんにも言っておいてください。毎日新聞どういうふうに読んだかわからないですけども。私は細かいこと、全部いっても、こうしますから、こうで、これを報告して了承したということはないっていうことですから。</p> <p>田 うん、うん。</p>

	<p>石 だから、あそこにも、書いてあるはずですよ。大まかなこと、その収支の大まかなことを報告して了承されたと。</p> <p>田 大まかには、それは伝えていたけれども、細かいことについて、いちいち、報告もしてないし、了承もない。そんなようなくだりだったと思うのね。</p> <p>石 それに、4億円のことについては、10月29日のことですから、それを年末だとか3月だとか、小沢さんだって、そんなの頭からすっぽり抜けるはずですよ。</p> <p>田 うん、うん。</p> <p>石 それが、なかなか伝わらないんでしょうね。いや、そんな大金をついていうことなんだろうと思いますけど。</p> <p>田 だからそれはさ、小沢先生に任せればいいのよ。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 石川さんの方が、先生だって忘れてるはずですよとって言っちゃうとき、またかばってとかね、それは黙ってればいいのよ。あとは、小沢先生の方で、それは10月の時点でね、それは色々報告はあったかもしれないけれど、記憶にないと。で、仮に報告受けたとしたって、ね、そんなの3月に出すまでに半年あるんでしょと。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 そんなことね、報告書のことばかり考えてれば別だけど。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 そんなことは、はっきり言ってさ、自分の仕事じゃないわけだから、そりゃ、もう記憶にだって残ってないし、っていうのはもう自分の方で説明してもらえばいいんじゃない？</p> <p>石 はい。</p> <p>田 まあ、基本的には、従前通りでいいのかな。そうすると。</p> <p>石 まあ、私は、あの一、そういうつもりで来ましたけどね。</p> <p>田 それに対して、小沢先生が、それをどう記憶したとか、解釈したとかってのは、先生の方で説明してもらおうしかないもんね。</p> <p>石 はい。</p>
00:38:10	<p>石 ただ、あの、取得の、あの不動産取得、ま、その、あの、調書用語でいうと「発覚を恐れ」とか、なんかすごく物々しい言葉になりますけど、ま、あの、司法書士に聞いて、1月に登記してもそれはいいよと、だから支出をやっぱり、1月に回そうと、いうのが、一番の念頭にあったのであって、そもそも、もらった4億が、あの痛くもない腹を探られるから、あの一露見しない方がいいっていうことではありますけれども、執拗な隠ぺい工作</p>

	<p>っていう書き方になると、ちょっと違和感あるなっていうのは、感じてますけどね。今でも。</p> <p>田 うん。うん。うん。ま、でも別に。そこのところは、従前の調査だってさ、別にその執拗にね、あの一要素に代表路線があるからこれは表に出したくないということを取っているだけで、そのなんていうのかな、闇から闇に葬る金だとかね、執拗な隠蔽工作だとかね。そら、隠す、隠すためとかっていうのは取ってるよ。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 だけど、その隠すっていうのは、すなわち公表しないことですって取ってるけど、そんなに執拗な隠ぺい工作みたいにはなってないよね。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 うん。それはそんな心配しなくてもいいと思うんだよね。</p> <p>石 10月29日の時点でね、やっぱり報告をして、ただ、それが12月の、12月のときは、要は、前も言いましたけど、小沢さんとしては、その今年、あの一個人献金や企業献金やパーティがどのくらいあったかっていう一覧表ありましたよね。あれの報告を12月にして、実際3月には収支報告の報告なんてしてないわけですから。やっぱり、そこのところをきちんと伝えたいなって気はしますよね。</p> <p>田 うんうん。</p> <p>石 だから、報告で2点ですよ、問題になっているのは。報告で焦点になっているのは。10月の時点と12月で、あの一、収入支出の総額を、あの総額を、総額っていったって主に収入ですけども、それをきちんと報告して、だから、あの一、小沢さんとしては、その、10月のことについては全く覚えていないということですよ。で、12月のことについては、ただ、そういうも、聞いたかもしれないけど</p> <p>田 概要を</p> <p>石 概要を聞いたかもしれないけど、そのことは覚えていないと、それはほんと、そのとおりです。だから、10月のことについて、私が今日ここに来て、いやそんな報告、実はしていませんでしたなんて言うつもりは、ない。</p>
00:40:32	<p>田 そこはさ一、あの、身柄の時に一回整理してうまくまとめたところだよ。10月にそういう報告をしましたと。それで、3月はそういう報告はしていませんと。</p> <p>石 はい。はい。そうです。</p> <p>田 なぜなら、もう私は10月に報告しているんだから、その既定路線として当然小沢先生はそれを了解してくれるものだと思っていましたと、石川さんの認識としてね、あと小沢先生がどう思うか、それは関係ないから、と</p>

	<p>いうふうにして、うまく、だから逃げてませんよということ。そこでさ、自分は報告してないし、小沢先生もわかってないなんて言うかね、そういうこと言うともた言い訳がましくなるから、自分としては10月にも報告していることだから、その既定路線としてね、そんなことは報告しないで、別に概要だけをいっただけで、この3月の時点であの4億とかあの土地とかね、そんな具体的なことは一切報告していません、ということで確かうまくまとめたんだと思うんだけどね。うん。だから、そこは、たぶん小沢先生との間に齟齬はないんじゃないかな。だから10月の、いろいろないや、記憶はないって小沢さんは言ってるわけです。</p> <p>石 そうなんだ。そりゃでも、それは仕方ないよね。記憶は、そんな事実があるとかないとかという客観的な話じゃなくて、記憶がないって言うんだから。うん。</p>
00:41:49	<p>石 いやーでも、吉田副部長やっぱ怖い人ですね。取調べの時は怖かったけど、蛇のような男だ…。</p> <p>田 はっはっは。あれ、俺言っていないからね。</p> <p>石 あー見えてね。それもね、言ってたよ。</p> <p>田 それね、言っといてください、俺、一言も言っていないですからって。</p> <p>田 はっはっは。分かった。言っとく。</p> <p>石 あれはね、サンデー毎日の青木っていうのが勝手に書いたの。</p> <p>田 あ、そう。</p> <p>石 私、だから、個人の田代さんにしても吉田さんにしても、個人の検事は人間的にいい人だ以外言っていないから。一言も。</p> <p>田 くっくっく。</p> <p>石 あれだから、サンデー毎日の青木って奴に、抗議したんですよ。私。</p> <p>田 あ、そう。うーん。でもみんな、確かになって言ってたよ。はっはっは。</p> <p>石 はっはっは。それ、吉田さんにね。</p> <p>田 本人だけは否定してたけど、周りのやつはみんなそうだよなって言ってたよ。</p> <p>石 それはね、おもねるわけじゃなくて、事実言っていないことだから。</p> <p>田 ほんと。じゃ、言っとく。それは。</p> <p>石 うん。</p> <p>田 本人、かなり心外だって言ってたから。</p> <p>石 私はだから、個人の悪口は一つも言っていないんだから。だってみんな組織でやってるんですから。組織にいるからやっている人でね、もしどっかほかで知り合ったら。</p> <p>田 ま、もうちょっと仲良くなれた感じだよ。はっはっは。</p>

	石	ま、もしかしたら。しかもあれ、吉田さんの家族のことなんか、彼が知ってるから勝手に書いているだけで。
	田	うん。うん。あっ、その記者が？
	石	そう。
	田	あー。
	石	彼がそれだから、去年も週刊誌載ってたでしょ。家族に問題があって現場離れていただけで復帰してきたって。それで向こうが話してきたから、いやまあそういうね、お互いの家庭事情のこともそりゃ、長い取調べの中で話すこともありますよつったら、なんかそしたら、検事は自分の家庭のことを持ち出して、この揉柔してきたとか書いたんで、あれ全部作り話ですから。あれ、ちゃんと正確に言っといってください。びっくりしましたよ、ほんとに。
	田	はっはっは。
00:43:43	石	だけどもあ、失職に向けてもう、やっぱりカウントダウン始まっているわけですけどね。ま、吉田さんに言っといってください。こりゃもう、地元の人たちの思いを考えたら、自分から辞めるってなかなか言えないんで。
	田	そりゃ、毎回言ってるよね、だけどさ、やっぱりさー、その一、曲がった、もう偏見を持っている人にはさ、全てがさ、偏見でしか見えなくなっているから、例えば石川さんがさ、拘留所で髪をそっていることまでさ、そのさ反省していないとかね、その、元気になっているとかね、調べが甘いんじゃないのかとかね、言う人がいるわけだよ。うん。
	石	ああ。
	田	全てがさー、やっぱそういう風に映るわけなのよ。だから結局議員辞職していないことだって、もうもともとする気がなかったんだとかね、ただ方便でね、するとか言っって、言っただけなんじゃないかとか、でもそんなこと言われたらさー、もう反論のしようがないし、そうじゃないなんて証明できないわけなんだから。
00:44:39	石	離党、大変でしたよ。
	田	あれなんかさー。出たときの記者会見で、あれだよ、最初の記者会見で次の日になんか、訂正かなんかしたのあったよね。
	石	あれ、安田さんにコメント文出してもらって、安田さんと木下さんとまた南さんとの、これじゃだめだって話になって、それで訂正文出したんですよ。安田さんに、あの一出たときの記者会見どう言ったらいいかって言っって、コメント文を送ってもらったら、完全否定のコメントで大丈夫かなあって思ったんですけど。
	田	はっはっは。で、それ読んじやったんだよね。

	石	それ読んじやいました。それで、次の日、南さんと木下さんがこれ訂正した方がいいってなって。それで2週間くらいかかったのかな、安田さんとどうするかって話になって。2、3週間くらいかな。で、結局、私、安田先生のところに行っって、安田先生、今回、主任というか弁護団おられてもらうように、ほんとにお世話になりましたけど、やはりその方針じゃ無理だった南さん言うんで。
	田	でも、身柄とられている時は安田さんが一番ねー、お世話になったっていうか。
	石	いや、今でもそう思っていますよ。ただ、小沢弁護団の方で安田、安田さんはだめだっていう。
	田	うん。うん。なるほど。あれ、やっぱり、あの中で今の、面子の中で方針とかいろいろ仕切っているのはやっぱり、木下さんなのかな。
	石	うーん、そこがまた微妙なんですよ。ねー。までも、木下さん、南さんと相談しながら進めていますよね。
	田	その背後にやっぱさ、もっと大物OBみたいな人がいて、例えば則定さんとかね。
	石	はい。
	田	いてー、その人たちも会議には出てきてアドバイスとかはしているのかな、ちゃんど。
	石	あの一、私は、その弁護団会議出たことないんでわかりませんけれど、南さん、木下さんだけで全部は決められないんじゃないんでしょうか。たまたま、その則定さんに、あの一聞いているみたいなことをマスコミが言うじゃないですか、ということはどっかでやっぱり接触あるんだと思います。でも、そこは、私には見せません。
	田	あ、そう。なるほどね。
	石	弁護団会議っていても、私は南さんか木下さんと会うだけですから。
	田	というのは、石川さんの弁護人というのは、木下さんが主任弁護人で、あとは誰だっけ。
	石	吉田さんという女性と、あと札幌で高橋さんというラサールの先輩がいて、その3人です。
	田	あの金沢問題を処理した人。
	石	そうです、そうです、そうです。
	田	うん。なるほど。高橋さんとでも、木下さんとは、全然面識ないんですよ。
	石	そこはもう、無理矢理くっつけたんですよ、木下さん結構ほら、もう、言っちゃうし、私の意向とかあんまり関係ないから。
	田	そうなんだよな。全面的にまかせられないんだな。

	石	ちょっとは私の意向を主張してくれる人を。
	田	なるほどね。
00:47:33	石	辞職できるなら辞職したいですよ。
	田	うん。ま、でも一、あれだよな。
	石	もうでも、最高裁までいったって2年ちょっとでしょ、2年半ぐらいでしょ。
	田	そうねー。だけど石川さん辞めるとさー、じゃあ幹事長はなんで辞めないのって話になるでしょ。
	石	結局そこなんですよ。
	田	自分の元秘書だけ辞めさせてね。
	石	そこに尽きるんですよ。
		だから、離党も大変だったんですよ。出たときに。結局私が離党したら、全部小沢さんのところに行くからって話で。
	田	そうだよな。うーん。それはでも、それは先生了解したんですか。その、離党することは。
	石	あの、先生はもう、鈴木宗男さんががんばっちゃって。絶対に離党だめだって。
	田	うんうんうん。徹底的に争えって言ってるもんね。今でもね。はっはっは。
	石	鈴木宗男さんががんばっちゃって。
	田	で、それは何。宗男先生もあの、納得させたの。
	石	うん、そうですね、だから、大変でしたね5日間くらい。いや、10日くらいかかりましたか。離党。2月5日に出て、最終的に確か離党会見でしたから。もうだって、離党。逮捕・起訴されている議員をね、党に留めるなんてこと絶対ないと思っていましたから。
	田	うんうん。え、離党したのはいつでしたっけ。
	石	2月15日ですね。9日に最初記者会見して、離党も辞職もせずって言って。
	田	うんうん。そうだね。
	石	あっさり離党しちゃうと、すぐ辞職、圧力が高まるだろうと。そうすると、私辞職して、小沢さん何で辞めないんだと。
	田	なるほどねー。
	石	はい。当時まだ大久保さんも公設秘書していましたしね。もう、4月から辞めましたけど。
	田	大久保さんはなんでやめたの。お金もらったから。
	石	いやー、大久保さんからやっぱり言ったみたいですよ。先生に。
	田	なんて、お金もらいましたって。

	石	いやーその理由は聞いていないけど、もうやっぱり辞めますっつって。私も辞めた方が良くと思いましたもん。
	田	うん。なるほど。あれ、当然さー、先生はお金もらったこと、知ってんだよねー。今は、今はもうわかってる。当時は知らなかったかもしれないけど。
	石	今、当時は知らなかったかも知らないですけど、今は分かっているんじゃないですか。
	田	それ、それに対してはどうなの？
	石	どうですか、ただ、証拠開示あってからも、先生に言ってるのかなー、それー。
	田	言っていない可能性もあるわけ。
	石	サンケイには載りましたよね。ちょっと。
	田	載った載った。ちょっと載ったねー。でも、あーいうの先生いちいち全部見てる？見てないでしょ。
	石	見てないですねー。いやー、今日もまた、読売にずいぶん調書が出回っていますね、検事ー。
	田	あれ、何なのかな。
	石	あれー、いやだけど、こっち側で出すわけじゃないですもん。やっぱり。
	田	だって、検察庁が調書を出すって言うのはさ、ちょっと俺も、俺の感覚からしても考えられない。あれさ、でもさ調書が手元になけりゃ書けないよな。
	石	書けないです。
	田	ような記事だったよね。
	石	あと、ちゃんと検事が石川さんいつも、おお、おおと。
	田	おおって何だっけ。おお分かったか。はっはっ。そうか、そうしてくれ。
	石	そう、それしかないから、そうしてくれ。もうちょっと書いてくれとか、なんか終盤のころあったじゃない。
	田	はっはっは。そのとおりだね。
	石	それだ。おお分かったままででているということは、誰かが認み上げているか。
	田	まあ後はまあ、検審にはもちろん調書行ってんだけど。検審から漏れるって可能性がどのくらいあるのかね。ただ、議決が10、ぜんかいいってた（聞き取り不能）なんかいうのは、ほんとは漏れちゃいけないことが漏れているから、そこがどれだけ秘密が守れるかってわかんないから。
	石	あー。
	田	ただ、うちももちろんね、うちじゃ絶対ないよということは、もちろん言

	<p>い切れなくて、もちろんその現場の検事があんなのものを、大体調査をもっている検事っていうのは、僕が主任検事か副部長か部長しかいないから、あの一少なくとも俺は濡らしていないし、主任が濡らすとも思えないから。だけど上に上げていくわけですよ。さらに。</p> <p>石 田 そう、上には上がって行くから。</p> <p>石 田 高検、最高検には上がっていくわけですよ。</p> <p>石 田 上がってる上がってる。そこまでいくともうね、あの一、なんていうかな、犯人が際限なくたくさんいて、で、あーいうのが出ると、上の方が俺たちに誰が濡らしたんだって怒ってくるからね。</p> <p>石 田 あー。はははは。</p> <p>石 田 うーん。</p>
00:51:42	<p>石 田 最近やっぱりヨーロッパから戻って来てから寝れなくて。また、時差で。</p> <p>石 田 いやー、最初時差かと思ってたんですけど。</p> <p>石 田 こっち呼び出しされてから。</p> <p>石 田 やっぱり。呼び出しされる前までは、時差で寝れないって思っていたんですけど。やっぱり検審出してから、向こうでは、ここが4月29日に行ったんですよ。5月6日戻ってきて、7日、8日、結局週明けでしたよね。呼び出しあったの。</p> <p>石 田 えーっと。</p> <p>石 田 10日でしたっけ。あつ、今日何日でしたっけ。</p> <p>石 田 今日は17日でしょ。</p> <p>石 田 確か10日か11日くらいですかね。呼び出しあったの。</p> <p>石 田 11日くらいじゃないかなー。</p> <p>石 田 11日くらいですよ。だから、たぶんその前後から、うーん。</p> <p>石 田 うん。うん。</p>
00:52:24	<p>石 田 あのさ、小沢先生はさ、やっぱりこの先のビジョンはどういうふうを考えているわけ。もちろん起訴されないのが一番ベストなんだけど。</p> <p>石 田 はい。</p> <p>石 田 その、最悪のシナリオとしては、ま、検察から起訴されるというリスクと、あと検察が起訴、もう一回不起訴の判断をしたとしても、検審で強制起訴になるっていうリスクは当然ある。ね。</p> <p>石 田 そっちの方が高いですよ。</p> <p>石 田 あるわけで一、その場合は、どういう一ふうにしようと考えているの。要するに強制起訴して、強制起訴しても、最終的に裁判で…僕ね、起訴されちゃうとね、なかなかやっぱ無罪っていうのは難しいと思うんですよ。や</p>

	<p>っぱり、そうすると、もう後は、そのとにかく裁判で争って、えー、なんていうかな、あとは時間をかけて、政治家人生を全うするという感じかな。</p> <p>石 田 うーん。そういう考えじゃないですかねー。</p> <p>石 田 まー、徹底的に争ってね、全て隅から隅まで争えば、そりゃ何年もかかるからね。先生だって、もーあとそれはどうなの、政治家、残りの人生10年ぐらいカウントしてるの。そんなにしないでしょ。</p> <p>石 田 いやー68ですかねー。もう、あと1回出るか出ないかでしょう。</p> <p>石 田 そこまではやるつもりは多分ないわけね。</p> <p>石 田 そうするとその中で、ま、ちょっと裁判は重荷にはなるけれどもー。うん。ということなんだろうね。多分ね。</p>
00:53:49	<p>石 田 いやー、やっぱり検審で、1回起訴相当出てますから、相当やっぱり、次も、可能性は高いと思いますね。</p> <p>石 田 ま、それで、供述変わってないみたいだからね。先生のね。</p> <p>石 田 恐れはやっぱりありますよね。</p> <p>石 田 だから、ほんとにこれ一、ウルトラCだったんだけど、ま、僕は先生の調べやるわけじゃないからあれだけど、例えば、今までの供述で先生は完全に否定をしてたけども、検審はそれに信用性がないっていつてるんだよね。</p> <p>石 田 はい。</p> <p>石 田 で一、信用性がなくて、絶対的権力者なんだから、そんなことはあるわけがないって。いつて、だから起訴相当だって言ってる訳なんだよね。それに対してさ、もう1回同じこと言ったって、たぶんまた判断は同じになる可能性が高いよね。</p> <p>石 田 はい。</p> <p>石 田 だとすればさ、逆にね、報告を受けて了承してましたって認めちゃった方がね、認めて、ただ自分としてはそんなにその意識的にやったことじゃなくて、そこに不備があったけどそれは申し訳なかったと。ただ、ちゃんと、石川、池田からはちゃんと報告受けて、私は責任者としてね、それを了解してたのであって、そりゃ責任は私にあって、彼らに責任はありませんと、とでも言えばさ、そらー11人中4人くらいはさ、起訴相当からこっちへころがつてね、起訴不相当にするんじゃないかなって、俺はね、ちょっと思ったんだけど。</p> <p>石 田 あー。</p> <p>石 田 ま、それは僕が調べたわけじゃないし、そんなアドバイスは多分先生に検事はしてないと思うんだけど、言ったとこでそんなこと先生聞かないと思うけど。全く同じことやっても、また一なんかさー、神経逆なでするだけっていうかさー。</p>

	石 うーん。 田 そういう手もあったかなと思うんだけどね。でも、そうしたら、またマスコミに、小沢氏認めるみたいなのが出ちゃうとなー。 石 まーそれは無理でしょうねー。 田 また困るんだよなー。
00:55:47	石 選択肢としては、ちょっとないでしょうね。しかし、私に来て全否定するって、相当の人が思っていたっていうのはちょっと意外でしたね。 田 だから、なんていうかな。そうに違うないって、要はそれも偏見の1つなわけなんだよ。結局、石川さんは、小沢先生にねじ巻かれてくるに違いないと。否定するに違うないって。 石 あー。 田 なぜなら絶対権力者とその子分だから。うん。 石 はい。 田 だからそれはね、絶対否定するに違いないと。で、だからそれを一、なんていうのかな、良心的な人はさ、もしそうなっても、それはまずいよって。石川さん、ちゃんと説得をして、話をしなきゃだめだぞと言う人もいれば、あの一良心的じゃない人は否定したら否定したで調書とつちやえよと。 石 吉田さんですか。 田 はっはっは。吉田さんはそうでもないのよ。 石 あー。 田 吉田さんは、あれ、カチンときていろいろ怒ってんだらうけども、やっぱり石川さんに対しては愛情を持ってから。 石 どうかなー。愛情持ってんのかなー。 田 いやいや、持ってんのよ。だから何とかしてあげなきゃいけないって思ってるのよ。本当に。うん。だから、それは、吉田さんはどっちかというところちゃんと説得して、そりゃまずいよというふうに教えてやらないとだめだぞって言うてるのよ。 石 蛇のような人で、言っていないって、言っといってください。せっかく愛情持って頂いているのに。また、吉田さん、俺の取調べ、好きだったもんなあ。 田 今日、貸してくれるっとか言って来てさ。 石 もーあの時間が、あの時間が一番辛かった。 田 あの1番の電気がついてるとな。 石 あの、曲がろうとする時、刑務官から電話かかってきて今日は1番ですよって。 田 直進ですよって。

	石 直進ですよかあ。ひな型はもうできてるんですか、検事。 田 できてない、全くできてない。だって、何て言うのかわかんないから。 石 あ、そうか。 田 だからね、もし、その一供述を維持するというのがあれば、だけど、あと一つあれしなないといけないのは、昨日、取っている小沢先生の調書ってのがあるわけだよ。 石 はい。 田 そこでもやっぱり自分はね、石川や池田から報告したことはないし、報告受けたことは記憶にないと、というふうに言ってるんでね。えー、当然その、今日、今日普通に考えられる調書としては、あの一、まずあれだよな。 石 はい。 田 今日はまあ任意だけでも、取調には応じますってのが最初に来て、その後私これまでね、16年の収支報告書について、えー小沢先生に対して自分は報告して了承を得たということも含めてね、お話ししてきたことには、事実間違いありませんと、それは現在でもその供述に変更、変わるところはありませんと。とした上で、で、後その内容について、まー従前の供述を、これこれ、まあそこは石川さんの説明というのか、それか私が問いでこれこれこう言ってるけど間違いはないか、間違いありませんということになるかもしれないけど。
00:58:43	石 調書を全く取らないという選択はないんですか。 田 それはあまり意味がないよねー。 石 あー。 田 だって、検審の方で調べやっとうなのってことになるから。うん。 石 あっ、そっか。あー。 田 それは間違いありませんと。また、踏み絵みたいになっちゃうけども。その一、小沢代議士は、その一、石川・池田から報告を受けて、受けた記憶はないのかな、ちょっとそこは確認するけども、記憶がないと言っているけどもどうなのかという問いに対して、先生がどう記憶しているかは私には分かりませんと。ただ、私は、私の記憶に基づけば、私の記憶によればね、そのこれまでお話したとおり、先生には10月の時点で、えー、こういうことをお話して、先生はおーそうかと言ったというのが自分の記憶だし、で、3月の時点では、10月を規定路線として、あえて報告はしないけれども、自分としては了解しているものだ認識してたんですよと。まあ、そんなとこかな。
00:59:39	石 ま、そうですね。その了解って言うのが、その、結局、4億を載せる載せないって言うのは、全く、検事、やってないわけですよ、小沢さんにそん

	<p>な収支報告書にいちいち4億載せる載せないなんていうのは。ただ、不動産の公表をずらすっていうのは、報告しています。</p> <p>田 うんうんうん。だから、そこのところはさ、前の、その一、調査だと・・・</p> <p>石 その強硬派の嫌な人の名前を教えてほしいものです。ほんとに。</p> <p>田 そういう人に個人的な圧力がかかって、お前ばらしたろってことになるから。はっはっは。</p> <p>石 はっはっは。ま、いろんな検事さんいますからね。</p>
01:00:23	<p>田 そうだよ。(舌打ち) この代表選挙もさ、1年最初間違えたもんだからさ、未だにさ、嘘だ嘘だっていう。</p> <p>石 えーそれはもう、全く自信持って言えます。嘘を自信持って言えるわけないじゃないですか。だって、そんな4年も5年も前のことですから勘弁してくださいよ、ほんとに。</p> <p>田 いや、僕はね、あれはあれでまあその通りだなと思うのよ。</p> <p>石 いや、もうその通りですから。</p> <p>田 だけどさ、それがねー、やっぱりねー、いやほんとにだったら1年間違えるはずがないとかね。だって、はず、1年まちが、ほんとのことを言ってるのになんで1年間違えるのかとかさ、ま、おなじじいことか、言う人が。</p> <p>石 だけど、結局、不動産の登記をずらすってことは、公表をどうするかというわけです。あの時点で、あの一、私が言ったことっていうのは、確か1年、うん、17年と18年を間違った、間違っただけですけど。</p> <p>田 そうそう。で、最初17年だっていうふうにしたもんだから。あの一、17年は臨時代表選で16年の時点ではまだ予定されていなかったはずだと、だから嘘なんだと。うん。</p> <p>石 だけどそんなことも、あのあたり代表選、何回もありましたからねー。</p> <p>田 そ。で、だから従って、やっぱり胆沢ダムのね、工事とね、お金のやりとりが話だったんだって。そこは飛躍しとるわけだよ。</p>
01:01:52	<p>石 その飛躍は論外ですね。私からすると。その飛躍は論外です。</p> <p>田 いやおれもたださ、16年を17年にずらしたって、17年も工事あるからね。あんま意味ねーんじゃないかなって思うんだけどさ。</p> <p>石 やっぱり大久保さんがもらってるから、あの一やっぱり工事にみんな結びつけちゃうんですか。</p> <p>田 まあそうだろうね。大久保、実際だから川村、まあそら川村供述というのがね、まあ一番大きいけども、それを裏付けるように、いろんな人が、水谷建設のいろんな人が、あの、話をしてて、でーその大久保さんにしてもね、小沢先生にしてもだよ、あの一そういうお金を一切もらっていないと、従前は否定してたけども一、結局大久保、3回ももらってんじゃないと。お</p>

	<p>金を。だから、そういう風になってくると、やっぱり、その一、どっちかって言えば、やっぱり水谷建設側の言い分の方がさ、やっぱり信用性が高いんじゃないのっていうふうになっちゃって、で、そのだから石川さんもね、5000万もらって、でもただあればね、もうその一、口が裂けても當えないところだから否認するだけじゃないのと。</p> <p>石 いいやー。</p> <p>田 ていうふうになっちゃうわけよ。</p>
01:02:56	<p>石 いまでもここで逮捕の瞬間、覚えていますよ。なんで最後逮捕の時に、水谷だけ聞くのか、私分かんなかったですもんねー。で10日目から副部長来て、結局水谷だけでしょ、聞いてたことって。あと私の個人のこと、来たけど、最後やぶり捨てちゃってね、全部ね、こんなはサイドストーリーだともう怒り出しちゃって。こんなことどうでもいいんだっつって。</p> <p>田 あ、そう。はっはっは。</p> <p>石 ねえ、長岡さん見てたもんね。</p> <p>田 何、メモをやぶっちゃったの？</p> <p>事務官 そうですね。</p> <p>田 調査になったら。</p> <p>事務官 はい。</p> <p>石 できれば調査もやぶいてほしかったんですけどね。</p> <p>田 はっはっは。調査は大事にとったんだ。</p> <p>石 いざというときのために。</p> <p>田 そうそう、はっはっは。</p> <p>石 言ったんですよ。だから、個人も、■■さんのことがばれたらそりゃもう辞職しよう。ただ、それをね、あの一隠したいがために水谷の5000万を認めるっていうことはないんで。</p> <p>田 そんなことする必要ないよ。事実でなければね。そんなところでまた嘘をつけばさ、また話がおかしくなるからね。うん。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 前のときはさ、あのこの2月2日の時、次期代表選前に今年の収支報告書が公表される可能性がありますと。このままでは3億4千万円の土地購入や先生からの4億円の借入れが出てしまい、またマスコミが騒ぎになりますと。登記をずらして土地の取得を来年に回した方がよろしいのではないですか。先生に用立てて頂いた4億円が表に出ないように、土地代金を銀行からの借入れで決済したという外形を整えたいので、陸山会が先生経由でりそなから4億円の借入れをしたいのですが、したいのですがと、陸山会名義で定期預金を組み、それを担保として融資を受けたいと思いま</p>

	<p>すと。というふうに、まあ、これはあれか、預金担保貸付けを受けることについての供述だね。うーん。まあだからあれだよ、言葉はともかくとしてさ、その、4億円の収入不記載と支出の不記載、両方あるわけだから、それについては石川さんもさ、別に争ってないわけだから。そのところはまあ、このくらいの言葉で両方ともやっぱ網羅しとかなないと、こっちの方はどうなんだと法律家だったら気づくからね。うん。</p> <p>石 はい。うーん…。</p> <p>田 だから基本一番ベスト、ま、あの一、一番波風がたたないのはさ、今までの供述は供述としてそれはもう事実ですと、先生がそれに対してどう解釈したか、また先生の認識については私は分かりませんと。で、まあ、近いとこ、先生は最近もこうこうこういう供述をしているけども、私は、私は自分の記憶に基づいて事実を、ありのままをお話しているのであって、しているんですということが一番波風たたないし。まあ、要にその、小沢先生の圧力があるんじゃないかと、そういうことは勘ぐられないで済むんじゃないかなと思いますけどね。</p>
01:06:15	<p>石 今回の調書は、また法廷にも出るんですか。</p> <p>田 ま、法廷には…。そりゃ、全部ひっくり返すとかそういうことがあれば、たぶん出すっていうことに最終的にはなるかもしれないけども、基本的には出さないんじゃない。あの一、今までの調書があるわけだし。それに対して、石川さんも法廷でどういう態度とるかだよ。私、例えばさ、私はそんな供述はしてませんと、それなのに検事が無理矢理作文して署名しろって迫ってきて、手を持って、名前書かされましたと、その時はもう逮捕されてたしどうしようもなかったんですって仮に言えばさ、あんた在宅の時でもこんな供述してんじゃないという話には、そりゃなるよね。まあそういう主張になればね。しかしそんな主張する気ないでしょ？全然。</p> <p>石 まあそこまでは戦わないですよ。</p> <p>田 大体俺が手を持って名前書いたなんて嘘だからなあ。</p> <p>石 そんな戦いはしないですよ。ただ、未だにね、結局、私も考えるのは、収支報告書に小沢一郎から借入れ4億円って載ってるわけですよ。小沢からの4億円を隠したい隠したいっていうことで調書取られましたけれども、私の意識の中にそれがどこまで強かったというのは、やっぱりそんなに強い、あの一、結果として、りそなからの4億円にするじゃないですか。それであれば。</p> <p>田 だから俺は思ったんだけどね、あの後こう整理したんだけど、最初さ、石川さんさ、先生からの4億で土地代金払おうと思ってたでしょ。</p> <p>石 だから、あの一、だから、あの一払ってましたよ。実際払ってましたけど。</p>

	<p>田 実際払ったんだけど。最初からね、おそらくあの4億を先生から借りて、も一もらったね、その4億で払えば済むと思ってたんだよ。たぶん。今回は先生からの4億はあるわけだから。ところが、あの一、決済の、残代金の決済の少し前になって、おそらく樋高からお前ちゃんと定期組まなきゃだめだろうと。</p> <p>石 いやー、人の名前は出せないっすよ。</p> <p>田 これは俺の想像だよ。こう一連のことを考えてみるとね、ちゃんとお前担保出して、組まないと、また痛くもない腹を探られるぞというふうに言われて、あわてて前日に預金担保貸付けを受けたいとすることをりそなに申し込んで、りそなからまあいいですよといわれて、もしそんなことをさ一、最初から多分分かっていれば、そんなあんな当日に、俺、先生から署名もらいに行ったりバタバタしないと思うんだよ。</p>
01:08:46	<p>石 まあ、政治資金は政治資金でいずれ戻すって、だから政治資金のお金で預金担保作るってなってますよね、結果的に。1億8千万、それも不記載で私、罪になってますよね。</p> <p>田 そうそう。</p> <p>石 だから、私は結局不動産の取得の発覚の年をずらす、発覚というはおかしいか、明るみ、明るみもなんか悪い言葉だな、なんて言うんだろう、公表か。</p> <p>田 だから、不動産取得の年月日を、ま、ごまかすということだね。</p> <p>石 でも検事ね、未だにごまかすっていう意識がないんですよ、あの一、司法書士に聞いてね、この日に取得するけど、あの一、本登記を次の年でも大丈夫なかって聞いてたらそれでもかまわないうことだったんで。</p> <p>田 だからさ、それはさ、あの一、要するに、違法なことをするという観点からすると、ちゃんと聞いてんだからということになるけど。</p> <p>石 そうです。</p> <p>田 だけど、ごまかしているというごまかしているんじゃない。</p> <p>石 だから、吉田さんがね、故意に意図的にやってないというのを否認していると、その故意、私の故意じゃないっていうのは、犯罪を、こんなことしたら犯罪だけやってしまっただけか、思ってたんじゃないということ、公判で主張したいってことですよ。だって、法律の専門家に聞いて、それであの時一番最初の取調べの時、それは対抗要件であってと検事からよく、結局、その、政治資金規正法というのは、その年に取得したことをちゃんと載せなきゃいけないということだから、それはもう、違反は違反ですよ。</p> <p>田 そうだね。</p>

	石	今、それはきちんと飲み込んでいます。飲み込んでいますけど、その時は、本登記を次の年にできるということであれば、あの一、支出も次の年にしてしまおうという考えだったんで、まあ、あの一犯罪を犯そうと思ってやってたわけではないことを言いたいですよね。これはものすごい犯罪だけどこれをやってしまったら大変だと思って、ああいう作業をしたことじゃないっていうのが何とか公判で伝えられたらなって思いはありますね。
	田	まあそれは主張してもいいんじゃない、別に事実関係争うわけじゃないんだからさ。
	石	4億小沢さんから借りて蓄かなかったというのは、それまでは否認できないですからね。
01:11:14	田	ま、それで、ちょっとさっきね、話に出てきたけどさ、その一、あわてて定期を組みましたと、でそれ以降はたぶん石川さんは定期を組んだ、で、りそなから借り入れたお金で残代金を決済しようと思ったんだけど、思ったんだけど、期限が迫っていたんで残代金の決済までに間に合わなかったと、入金。だから先生の手持ちのお金ではらっちまったと。そういうことなんじゃないかと俺思ったんだけど、そうでもない？
	石	ま、誰かから言われたとかそういうのは別にして、ま、もともと先生のお金で払おうと思っていましたけど、政治資金でやっぱり買って返す、最終的に小沢さんから借りた4億戻さなきゃいけないじゃないですか、パーティーとか、個人だとかでお金儲けて、だから基本的には政治資金で借りて、政治資金で返すという形をきちんと整えてやっておかないといけないなって思っていましたよね。
	田	で、あれさ、りそなからの借入れを小沢先生経由でする必要なかったわけだよな。あん時は、りそなは貸してくれるから。
	石	りそなは貸してくれますからね。
	田	だからりそな銀行からの借入れ4億円とあそこを書けば、陸山会が直接借りてね、書けば、あー、よかったんじゃないの。
	石	まあ、そうなんですけどね。
	田	言われなかったんじゃないの。先生からの4億円を借りて、それは運転資金に使って他から金を集めて、担保定期組んで4億借りて、その4億の入金よりも遅い時間帯に残代金の決済をすれば。
01:13:04	石	まあ、だけど、銀行から大きいお金借りているってのはあまりイメージよくないのかなというのがあったと判断したのかもしれない。ただ、今、検事が推察したりいろいろされてますよね。なんか俺もなんでこんな事で逮捕されたのかなっていう。はっはっは。

	田	なんかさ、俺ももっとやりようがいくらでもあったんじゃないかっていう。俺の立場で言うのも変なだけだね。
	石	みなさんもそういわれるし、中には会計士の人が複式簿記で言えばこれが罪なのかっていうことを書いてらっしゃる方もいましたけど。
	田	そう、細野さんねえ。
	石	だけど、私も、じゃ、俺、どんな悪いことしたんだろうって、やっぱり思いますよ。ほんとに。
	田	はっはっは。だからちゃんと、最初から任意の調べにいっぱい応じとけばよかったんだって。はっはっは。
	石	まあ、仕方ないですけどね。
	田	でさ、あの一、10月29日の残代金の決済午前中に決まっていたじゃない、あれを午後にはずらすことはできなかったの。時間帯として。
	石	いやー、今となっては記憶ないですね。
	田	あれは結局さ、あの一、午前で、入金より先だからさ、やっぱり結構、おやっと思ってちゃったんだろうな。捜査機関は。結局先生の金で払ってるじゃないと。なのに、同日同額の借入れ金は何であるのって。
	石	まーでも、銀行の。うーん。未だにねー、その隠すというのはいちよっとしっくりこないんですけどねー。小沢さんから借りるの隠すのであれば、収支報告書に4億円って載せる必要ないですよ。りそなからだけにしてあげればいいですよ。検事言うとおりにね。
	田	うーん。まあ、ただ銀行は隠したくて、それを小沢一郎4億円となったときこれは何なんだとマスコミから追及されたときに、別に、あの、先生経由の借入れ、金融機関からの借入金でって説明できるよね。で、かつ金融機関の名前は隠せるよね。そういうメリットはあるんだよ。やっぱり、小沢一郎4億円と書いてあっても。だって。
	石	あーなるほどー。はい。
	田	後はその、なんていうかな。法律的に、その今の郷原さんが言っているように、いや4億書いてあるでしょということが出来るよね。まあそこまで考えてやった事じゃないと思うけどさ。
	石	今となってはほんと、これで一生、捧にふっているわけですからね。
	田	でもさ、これがよかったのかもしれないし、わかんないよ、それは。
	石	そうですねー。
	田	だってー、そりゃやっぱり、あのとき議員辞めてよかったなってふうに思うことがあるかもしれないよ。それはだから、これからの石川さん次第っていうかさ。議員じゃないとできないこともあるけれど、あの一身柄の時も言ったけど、議員じゃないとできないこともあるけれどさー、議員じゃ

	できないこともあるわけで。
石	うーん。まああの一、ほんとつらいですよ。でも仕事もしていかなきゃいけない。元気になってかなきゃいけない。裁判も戦わなきゃいけない。
01:16:12	田 今大変だよ。なんかねー。国会内の暴力事件で、あの一。はっはっは。
石	いやー三宅…。三宅雪子ね。どう見ても触ってないですよ。
田	俺もそう思ったんだよ、ビデオ見て。
石	いやー、あんまりねえ、いい女性じゃないんですよ。
田	そうなのか。
石	よく知ってますけど。
田	なんだー、今日真相石川先生に聞いてみましょうって。
石	ちょっとわざとらしいですよ。
田	ちょっとわざとらしい。でもさ、自分で転んだにしては、転び方がすごいんだよな。あれ。うん。
石	もっと直接、前の男性の方がもっと押されていますよね。直接的に。
田	前の、前にいる男、あれ誰だかわかんないけど、あの人とこうやっているよね。
石	中塚、なんつったかな。
田	それがぶつかって女の方いったのかねー。
事務官	ですかねー。
田	でもそうにも見えないんだよね。突然転んでいるんだからね。
石	いやー、だからあれ、抜き差しならないとこまで行かなきゃいいですけどね。決定的な角度からビデオ撮っている人がいたりすると、ちょっと。
田	自作自演だと言われるよねー。
石	大げさじゃないですか、あんな車いす乗って。もう。
田	そうそう。車いす乗ってさ、あとなんか、松葉杖でさ、階段からこけたりさ。
石	休んだ方がよかったんじゃないかって、1日くらい。
01:17:35	田 どうすっかなあ。
石	どうしょー、どうしたらいいのかなあ。どうしたら（聴き取り不能）になるのかなー。
田	（物音）特別だ。今日は。
石	ちょっとトイレ行ってきます。
事務官	じゃ、ついて行きます。
石	あ、そうすか。じゃ、来るまでは、私がもう、全面ひっくり返してそういう供述は認めません、みたいな。
田	いやー、そういうことを言うんじゃないかっていう人もいるしさ、そんな

	ことをしたってね、あの一火に油注ぐだけって事はちゃんと分かっているでしょと。だからそら、従前の供述は維持するんじゃないのと。で、別に小沢先生と一緒に何かしたとかさ、そういうことじゃなくて、別に石川さん側の事情を言ってるだけで、あとそれを認めるか否認するかは小沢先生の側の問題なんだから、石川さんは石川さんで従前通りの供述を維持するのが賢明だって事は分かっているでしょかという人もいるし。うん。
石	だから、あの一だから今日、もしね、あの一変えろとしたらね、やっぱり4億円を隠すってう意図が一番先にきていたわけではないっていう、それぐらいですよ。
田	そこはさ、だからどういう風に言うの。その、4億円を隠すつもりは毛頭ありませんでした、というまた姿になっちゃうからね。
石	4億円を隠したい、あの一4億円を隠すために、あの一時期をずらした、ということではないっていうことですよ。
田	それ、でも、根幹にかかわるとこなんじゃないの。根幹にかかわるって言うかさー、そこを否定すると、なかなか難しいんじゃないの。
石	そうですかね。だって時期をずらすっていうのが念頭にあったんで、10月29日のときは。
田	そこはだって、ワンセットだから、支出と収入ってのは、
石	あー。
田	で、現にそのやっぱり、4億円については、そういう偽装と思われるようなね、ことを一方でやっているわけだから。こっちは関係なかったんではないってのは変だよ。
石	ぎ、ぎ、偽装（笑）。
田	それが、何て言うのどこまで偽装としての意味があったのかということは一、極めて疑問なんだけど、でもそれは不要なことをやっているということは、間違いないよね。
石	まー、政治資金で戻そう、ま、それは、当初から言っていますけど、政治資金で買ったものは政治資金で戻せるように。やっぱり、あの一、そうしておいた方がいいと思ってましたんで。
田	うん。
01:20:13	石 あんな、あんな土地、買わなけりゃよかったです。
田	はっはっは。
石	あんな土地、買わなければよかった。また、ここで取調べ受けるとは思わなかった。
田	はっはっは。
	（扉の開く音）

	(沈黙)
01:21:56	(ノック音) 田 どうぞ。 (扉の開く音) 石 結構みんな、変わってますね、検事さん。 田 うーん。結構、変わってますよ。うん。私は(聴き取り不能) 石 検事、何年目ですか。 田 2年目。金融庁、ここに来てからってことでしょ。あの、去年の4月だから。その前3年間、金融庁にいて。その前もここにいたんだけど。ここにいて、金融庁にいて、(聴き取り不能)からはまだ2年だから。
01:22:45	石 私にとって今日できる事って、何なんですかね。 田 そりゃ、一番、一番無難なのは、さ、従前の供述を維持しちゃうことが一番無難だって。それは。 石 その後、また法廷で、あのー、もう一回、あの今話したようなことを。 田 うんうん。 石 吉田部長、副部長、怒るかもしないけど。 田 だからさ、一言さあ、うちの幹部の精神安定剤として、最後に具体的にね、あの発言はどう、この発言はどうなんて全然言う必要ないから…私はマスコミ向けにいろんなことしゃべってるけども、それはあくまで支援者向けのことでですのでご了承下さいと。 石 あーわかりました。まーあのー、議員辞職のやつっていうのは、もうあのときはほんともう一番精神状態辛い時でしたね。もうやめようと思ってましたし。それは嘘じゃないって吉田さんに言っておいてください。 田 そりゃあもう調べた本人がわかってるし。こっちもわかってるし。それはさー、もともとそんな辞める気はないのに適当なこと言ってたんだってってるのは、調べてもない人が言うことでさあ。うーん。 石 もうあの時点ですっぱりやめてねー、もう一回立候補するんでもすっぱり辞めた方がいいって発言する人もいましたからね。出た後、いやーでも、あの集会開かれたときにね、とても辞めれないなと思ったんです。 田 はっはっは。 石 1500人ぐらい集まりましたもんね。 田 あ、そう。ふーん。あれ保釈になって帰ったのいつ帰ったんですたっけ。 石 あれは9日に初めて帰りました。ずっと羽田のホテルに潜伏してました。 田 ふーん。でも、先生にも挨拶せずに？ 石 せず。これは嘘ついてません。樋高さんが先生の隣にいて、電話かけてきたんですよ。次の次の日ぐらいだったかなあ。かわるかいって言ったけど、

	いやいいですって。石川、よりつかねーんだけどって言ってるって、 田 はっはっは。 石 だけどもう、行く時は、表で行こうって思ってたんで、そしたら検査出ちゃったから。 田 うんうん。まあでもここまで今現在起訴されてないし、起訴にもなってないわけだから。一応なんていうかな、あのーまだ望みは捨てない、捨ててない、捨てる必要もないし、一応だから我々の作戦は功を奏しているというふうに考えていいと思うんだよね。もっと早い段階で、そら、起訴になっている可能性はいくらでもあったわけだから。
01:25:23	石 吉田さん、検察審査会のこと、盛んに言っていましたよね。 田 言ったの。 石 で、検審最悪の時に出るよって。(聞き取り不能)さん、ね。 事務官 はい。 石 だったらここで水谷認めた方がって。いやそれは違うんじゃないかなって俺は思ってたよ。これを秘書の罪にしちゃえてって秘書がもらって、秘書が。私は、大久保さんが900万円もらってたって知らなかったんで、何で吉田さんがあんなこというのかわからなかったんですよ、私は。秘書がもらった罪で…。秘書ってきれいに…。 田 だけど1億はどうするのよ。もらっちゃって、秘書が…、秘書がもらっちゃってー。 石 いやでも俺、大久保さんでもそこまで悪どいかなって気がするんですよ。俺、これは本当に、本当に思うのは、先生がそんな水谷からそんな危ない金もらうのかなっていう気は、すごいあります。 田 あれさあー、タワーの、タワーの金庫にこっそり入れることはできないんですよ。 石 それはもう絶対、絶対できません。だってその鍵持ってるの、先生だけですもん。 田 うんうん。チュリスの金庫は。 石 できません。そんなこと。ああ、こっそり入れるのはできますけど。それは私じゃないとできない。 田 チュリスの金庫の鍵っていうのは、石川さんが机に入れてたんだっけ？ 石 そうです。 田 じゃあそこを机を開けて鍵を持ち出そうと思ったら持ち出せるわけ。例えば大久保さんが。 石 できます。できますけど、大久保さんがー。 田 まあお金4億入ってたら気づくもんな。金庫に。突然。ああ4億じゃなく

	て1億か。 石 いや、ありません。だってその前に、大久保さんなんかチェリスの鍵持っていないでもん。まあでもそれは誰かに借りればいだけの話ですけどね。 (沈黙)
01:27:11	田 じゃあ、ちょっとタバコ吸って、休んで下さい。ちょっとじゃあ、一応概要だけ。 事務官(?) はい。 田 全面否定しませんよと。ただ、ま、ちょこっただけ、ちょっと伝えてくるよ。 事務官(?) はい。 (扉の開く音) 石 まさかこんなまた取調べ受けると思わなかったですもんねー。 田 まあ別にいいじゃん。久しぶりに会えて俺も楽しみだったし。はっはっは。 石 はっはっは。いやまあ私も、まあ。 田 人が変わってたらどうしようかと思ったけど。はっはっは。 石 今日またホテル泊まりなんです。帰ったら囲まれるし。 事務官 ホテルどちらに? 石 今日は新宿の方です。 事務官 新宿の方ですか。 事務官 (聴き取り不能) どうでしょうかね。 石 いや、その辺で降りしてもらって後はタクシーで。 事務官 タクシー乗ってももう有名人ですからね。顔も… 石 いやあそんなことないですよ。うん。そんなことないです。思ってるほどみんな気づきません。 事務官 あ、そうですか。 石 え、そんなに何か幹部怒ってるの? 事務官 え。まあ、一部の、一部の過激派っていうかなんていうか。 石 大鶴さんとか? 事務官 あ、まあ。はっはっは。 石 だけど起訴された後で、こうやって呼ばれてまたそういう話を聞くと嫌ですよね。 事務官 そうですねえ。 石 恐ろしいですよ。 (沈黙)
01:29:34	石 あれ、持ち物はなかなか返ってこないんですか。 事務官 はい?

	石 持ち物… 事務官 持ち物ですか。持ち物。 石 名刺ファイルだとか… 事務官 そうですね、この前… 石 ちょっとは返ってきましたけど、名刺入れがね、一番不便なんです。よ。 事務官 ええ。この前確か、あああれはコピー、あれは帯広の事務所の分でしたか、全部コピーしましたけど。 石 はー。なんか初公判の時にまた騒がれるだろうなあとは思ってましたけど、その前にこんなにまた修羅場があるとは。 (沈黙) 石 はー。修羅場ばかりだなー。 事務官 向こうの方にはどれくらい行ってらしたんですか? 石 滞在したのは6日間です、で行き帰りで2日間、で、6日間ですね。気力を、国会議員として気力を維持していくの大変ですよ。ふー。 事務官 何か参考になることとか、ありましたか。 石 そうですね。 (沈黙)
01:33:34	石 まあもう鈴木さんの場合もう起訴されて、もういちいち事件についてほじくり返されるってこともほとんど今ないじゃないですか。 事務官 そうですねえ。 石 はー。もういつまで続くのかなあと思って。吉田さんは公判担当副部長でしたっけ。 事務官 はい。 石 そうすると、この今までのまた部屋は別の部屋になるわけですか。 事務官 そうですね。 石 でもこういう部屋なんですか? 事務官 いや、えーっとどうなんですかね。ここは調べ室ではないですよ。 石 本当に俺に愛情なんかあるのかな 事務官 まあやっぱ、ねー。そのー。何日間か一緒に過ごしましたからね、やっぱそういうのあると思いますよ。 (沈黙) 石 もうだけど私が外で何を言っただけで、もう起訴されているわけだから… これまでの調書を元に裁判を進めていくわけですよ。 事務官 うーんまあ…
01:35:41	(扉の開く音)

	石	お怒りでした？大丈夫ですか。
	田	いやそれは大丈夫。全然。大丈夫。はあー、よいしょ。まだ結婚しないの？
	石	こんな裁判抱えてできるわけじゃないですか。こんな裁判抱えて。だけど、失職になったときのことを思うと本当に寝れない時ありますよね。
	田	うんうん。どうするんのがいいんだろうねー。失職・・・
	石	それは、やっぱり吉田さんとも会って話してみたいですけどね。話してみたいっていうのはその辞職したいって思ってたのは事実だし、あの、獄中記、獄中日記。2月1日にあれ調書取られたのかな、1月の末だったかな。辞職。■■■さんのこと。
	田	あれは1月の29日かな。
	石	もうやっぱ、辞職しようって日記に書いてますもんね。
	田	うーん。
01:36:56	田	結局ね、あの■■■のおやじもあのまま逃げちゃったからー、それで吉田さんはそれも気に入らないんだよ。
	石	あー。
	田	うん。
	石	でも78か、80になる人ですから。
	田	でも元気だよな、それにしてはね。
	石	ええ。元気ですよな。
	田	全然ないの、接触は。
	石	あいやいや、■■■さんはありますよ。
	田	■■■さんはある。
	石	■■■さんはあります。だから、あのエタノールの件っていうのは本当にあの人はもう、自分の最後の仕事だと思ってやってるんで。うーん。なかなか難しいんですよ。
	田	この前ね、セイフフードの社長からもね、電話あったよ。
	石	あ、そうそうそうそう。
	田	石川さんに会ってもいいですかって。でも僕は会ってもいいとか悪いとかいうふうなことをいえる立場じゃないから、それはあの一、社長がね、判断すればいいことだとは思うけれども、まあ報道されているとおり、今ちょっとこうやってまたね、再捜査したりして微妙な時期だから、もし急ぎでなければもう少し様子みてからの方がいいんじゃないですかって。
	石	はい、それは私と稲垣さんに関する人がいて、あの、聞いたので。分かりました。
	田	なんか別に急ぎなわけではないんですよ。
	石	いや、違います。もうずっと会ってないんで。石川さんも苦労したいって。

	田	あれ三宅雷子ってマスコミなんですか？あれ。
	石	フジテレビです。
	田	ああフジテレビなんだ。
	石	はあ、稲垣さんに本当に迷惑かけたなあーいや、田代さんのことは本当に信頼していますよ。そうじゃなきゃ電話もかけてこないですしね。
	田	まあ相当厳しくやってるんだけどね。1週間ぐらいずっと連日ね、本当へろへろになってたからね。
	石	稲垣さん本当じゃないですもん。だって、そんなことするような人じゃないですすし。証拠持ってって、もう調べられて。ただ、なんでしたっけ、稲垣さんが、あのやっぱりその不明な出金、そりゃ、当然、企業の経営者だからあるんでしょうけど、あの人はその一、会って、小遣いくれるとか、そういう人じゃないです。
	田	うーん。
	石	吉田さんお怒りなのか一、じゃあ、蛇だとは言ってませんって言っついて下さい。
	田	言っつとく、言っつとく。今日ちゃんと言っつとく。
	石	個人の尊厳を傷つけるような発言は絶対にしてない。またそんなことされてないですすしね。
	田	だからその蛇のような男だったとは言っていないっていうのと、あと家族のことを持ち出して懐柔したとかそんな話もしてないし。
	石	してません。
	田	あとはまああの一、報告、小沢先生に報告なんかしてないとか、あとその一、不記載だって意図的にやったものではないとか色々言ってるけど、でもま、そら一事情があって言ってることですからと。ご理解くださいと言っていましたと。
	石	そう、あの何ていうんですかね。預金担保のことについて報告したのかわってね、やっぱりマスコミから聞かれたときに、公判で明らかにしますって。あの毎日新聞も全部に、私、そう答えていますから。
	田	相変わらず来るんだマスコミが。そういうのしつこく。
	石	いやあ来ますよ。
	田	どこが…毎日がしつこいのやっぱり。
	石	いえいえ、やっぱり、読売ですね。
	田	読売・・・
	石	読売はただけどね、取材を申し込まないんですよ。勝手に書いてるんですよ。読売と東京新聞がまたちょっと、久々に来ましたよね。この調書はほんとですかって。

	田 ぼー。
	石 もう答えないって。今日東京新聞に載ってるんじゃないですか。昨日の夕方までが回答期限だったので。でも土曜日に来て日曜日に答えるですからね。
	田 うーん。とんでもないねえ。それで今なに、あの赤坂の議員宿舎にいるの。
	石 もう、これだけやられたら、もう大変でしたよ。今日だってもうすごい張ってますしね。だからアパート借りようかと思ったんですけど、そしたら秘書がもう私が入ってる間に宿舎借りてたんで。空いてるって、応募あるからってやってくれてたみたいで。もうやっぱりマスコミが…
	田 結構家賃高いんだろう、あそこ？
	石 9万2000円です。でも本来なら高いって感じです。
	田 高いよね。うーん。
	石 あ、あのカチドキのバッグとか返してくれないんですかね。あういうの。
	田 いや返すよ返すよ。もちろん。全部返すよ物は。うん。
	石 名刺入れたとかやっぱり困ってるんですよね。
	田 うーん。
	石 あと、北海道のパソコンなんて何も入ってないですから。
	田 うーん、あの2台あったやつね。
	石 はい。
	田 一個なんかエロビデオが入ってたって。
	石 一個エロビデオ。エロビデオは、あの地元の、あの…
	田 あのおじいさんか、ちゃうか。
	石 あ…違う違う。私はでも入れてないね。
	田 石川議員のハメ撮りかと思って一応全部見たけど違った。はっはっは。
	石 はっはっは。あああそうですか。エロビデオ、俺入れてたかなパソコンに。
	田 パソコンに入ってたよ。
	石 いやぁ私じゃないな。パソコンじゃなくて、1個だけ東京電力の友達が、あの一、持ってきたエロCDは、何か、あの一、CD っていうかエロ DVD、DVD は、何か袋に入れていたやつを押収されましたけど。
	田 パソコンのは裏だからね。
	石 あー。それ、私じゃないですね。じゃああれだな、カミムラかな、したら。
01:42:54	田 はっはっは。これあれだねとかいって。誰かに石川議員に裏ビデオでも買わないかっていう持ちかけられましたっていう調査をとれば、わけせつ物販売目的所持でも再逮捕できるねって言ってたんだよ。はっはっは。
	石 はっはっは。勘弁して下さいよ。
	田 はっはっは。

	石 だけど、田代さんとか吉田さんは、私もまー■■さんの件ありましたけど、もっと色んな議員がもっと色んなもの持ってるわけですよ。
	田 うんうん。
	石 すごいですよね。
	田 弱みをもってこと？
	石 はい。
	田 あー。はっはっは。
	石 すごいですよね。
	田 でも別にそんなことを知ってたからって、どうこうっていうことじゃないじゃない。そんなことアピールしたら大変なことなるし。参議院選挙、大丈夫ですかね。
	石 いやあ、負けるでしょう。
	田 厳しいよね。
	石 はい。
	田 でもあれでしょ。あの、前回勝ってるから、それほど今回負けても、とにかく過半数割るとかそういうことにはならないでしょ。
	石 いや、なるかもしれないです。
	田 なるかもしれない。
	石 はい。
	田 そんなに負ける可能性もあるの？
	石 やっぱりありますよね。一人区でとれると思ってたところがとれなくなってきてるでしょ。前とった、例えば四国なんか全部勝ちましたけど、そんな形にはならないかもしれないです。
	田 うーん。で、二人のところは二人立つだろうしね。
	石 はい。
	田 ま、前原さんとの、対立しながら、あれ押し切ってるよね？
	石 そうです。そこは原則、原理原則。
	田 うん。
	石 いや結局、小沢さんが政界引退、仮にしたとしたらですよ、もう誰もはつきり言って過去の人に騒がなくなっちゃうんですよ。だから、これだけ私も追われるということは、私が議員であるからというよりも、小沢さんがやっぱりあの一、突き進んでいるからですよ。そのうち議員辞職もできなければ、何もできないですよ。
	田 うんうんうん。
	石 やっぱり、党全体のことを考えると、あの時点で辞職ってことはもう全然、出た後、雰囲気そういう雰囲気じゃなかったですよ。

	田 うーん、うん。そうだよな。
	石 吉田さん自身が言っていましたよ、だって。はっはっは。
	田 はっはっは。
	石 いやなんか、あの一、議員辞職の調書取られて色々追い詰められたと。でも考えてみたら貴方が辞職するってことは小沢さんも波及してくるからこれできないよねーとか言ってる。
	田 はっはっは。分かってんね。でも小沢先生だってさ、もうやめたって言ってやめちゃうのが一番楽なんだよね。ご本人もね。
	石 そうなんですよね。もう功成り名を遂げたわけですから。
	田 ただそれをね、自分がやめてね、鳩山なり何なりに任せて、本当にできるのかってところが、やっぱり疑問があるわけでしょ。
	石 うん、それは。
	田 自分がやらなきゃって気持ちがあるわけでしょ。
	石 あと外国人参政権にしろ、小沢さんは、山岡さんに結構はっばかけてましたけど、政権交代っていうのはやっぱり法律を変える、あの一、今までの流れを変えるっていうことだからそれをできるのは今の教持っているときしかないと思って。あの矢継ぎ早に交代した後やってっと思うんですね。
	田 うん。
01:46:24	石 いや、いつもね、本当に、また逮捕されるのではないかとおびえながら生きてますよ。
	田 なんかねー、ま、ほんとに、そうならないようにしたいと思っているし、そんな具体的な動きがあるわけではないからね、それほど、別に、普通にやっておけばね、あの一、そんなことにはならないと思うんだけど。
	石 はい。
	田 そこんところがやっぱり気持ち悪いのは分かるよ、本当に、気持ち悪いのはね、分かるけどね。じゃなんか本気でやる気になってね、じゃ、検察が石川議員再逮捕しようと組織として本気になったときに、全くできない話かっていうとそうでもないわけじゃない。実際のところ。それは気持ち悪いよね、すごくね。
	石 はい。すごい嫌ですね。
	田 だからまあ一つは、本当はね、自分の裁判を、もう早く確定させてしまうのがね。やっぱり確定してるのとしてないのでは全然違うからね。
	石 はい。
	田 いいんだけど、まあかといってすんなり確定させるというのはまた難しいんでしょ。
	石 それは難しいですよ。自分はもう有罪だと思ってますけど、やっぱり中身

	わかってない人がほとんどじゃないですか、支援者の人って。無罪信じてるって言われると。私は有罪無罪っていうよりも、俺そんなに何か、悪質なとやっつたのかなっていうのはすごいあります。
田	やったのかなって。だから最初にやっぱりボタンの掛け違いなんだよ、これ。何度もいうけどさ。だから石川さんがな、あの時点でな、俺を信用してくれればな。
石	いやいやそーそれは。だけど、南さんも絶対立件はないって言ってましたもんね、12月時点で。権藤さんあたりもそういってたっていう…
田	いやそれは、何を根拠にいったかだよな。
石	だから3月に西松事件があったときに、うーん、西松事件があったときに、あの一、私はやっぱり土地の件が一番気になってたのでどうしたらいいんですかって言ってる、樋高さんは早く修正申告出した方がいいんじゃないかっていってたんですけどね、今出すとまた騒がれるからってことでやらなかったんですよ。でもこの土地の件はだけど、3月に資料全部押収してるじゃないですか。なん、なんでいきなりこの9月ぐらいから怒濤のように調べ始めたんですか。
田	去年の？
石	はい。
田	ちよつと僕はこの捜査に入ったのは去年の7月だから、それまでは別のところに応援に行っていて。7月だからそのへんの3月ころのいきさつは分からないんだけど、やっぱり押収した資料を分析する中で、あの4億円がちよつとおかしいんじゃないかということに気づいたんだろうね。3月の時は気づいてなかったことを。もし3月の時にはっきり分かっていたら当然追及されているはずだし。
石	はい。
田	だって前の調べはそんな話ないでしょ。
石	ないんですよ。だから私どうなのかなって思ってる。で、南さんも預かった金、結局戻していることだから、戻してなかったらどうなんだっていう話にはなるけれども、何も大きなことをしているわけではないし。だけど報道見るとね、20億円の不記載って。もー。
田	足し算だね。
石	もー足し算になって。何かもうー、すごい報道のされ方になっちゃってますよね。
田	そうなんだよねー。
01:50:14	田 あれ、だけどあれだね、僕なんかこう、まあこれは別に、確たる証拠があるってことじゃないんだけどさ、やっぱり一あの4億円を、要するに水谷

建設からもらった5000万円をそのまま入金したのではないかと。

石 はい。

田 という石川さんの話をね、倍じるとして、4億円先生からまるまる渡されたんだって言う話を信じるとして。

石 はい。

田 そういう前提でいくとさ、やっぱりあの金っていうのはさ、あの、あれだね、改革国民会議とかさー、あっちの方が、お金が行った可能性が高いって、俺はみてるんだよ。

石 うーん、あの…私がわかっているのは、バックになった4億円そのままもらった、預かっただけですから、だからバックになっているものをどっから持ってくるかってことがあるのであれば、そういう可能性は否定できないぞよ。でもそこはもう、先生と八尋さんしか分かんない世界ですよ。

田 うん。でもさあ、俺もちょっとこの前、物見せて気づいちゃったんだけどさ、あのー、あの同じ時期にさ、あの少し前にさ、あのー各銀行に八尋名義の口座が立て続けに開設されてて、で石川さんも立ち会ってるよね、開設に。

石 いやあ、記憶にないです。

田 で結構、誠山会で八尋の印鑑を買ったりしてるのね。

石 それ、私、銀行に行ってることになってます？

田 銀行に行ってる、のもある。

石 私が行ってます？

田 行ってないのもある。けれども、あと、銀行員と連絡をとったりしてるよ。銀行の記録によると。

石 ああそうですか…じゃあ、それ、すっぱり頭から抜けてますね。

田 開設についてはね。

石 それはでも、全然隠してません。本当に、頭からすっぱり抜けてます。それで私が口座開設しに行ってるんですか？

田 あの…あの人の、阿曾さんとか、あ、八尋さんと一緒に行ってるのかな？阿曾さんかな。

石 いや、でも、その時八尋さん、あのー、動けない…

田 あ、じゃあ阿曾さんといってるのかな。いや、阿曾さんとかかもしれない…

石 あー…

田 まあ、あのー、そんなこと今更ほじくり返してどうこうするつもりもないし。そんなこと報告もしてないんだけど。水谷5000万で頭凝り固まってるからさ、ゼネコン関連さんで凝り固まってるからさー、別に言う必要もないんだけど。なんか、真相はそんなとこかなって感じは、俺はしてるんだよ。うーん。

01:52:32 石 そうそう、でもそれ銀行に口座作りにいったってのは記憶ないですね、具体的に日にち見してもらって、ってなったら記憶よみがえってくるかもしれないですけど。

田 まあいいよ。いやそれはもうほじくり返してもしょうがない話だしさ。

石 改革国民会議も、やっぱ、あのー、結構捜査補充になってましたもんね、あの、やるまえから、私が逮捕されたあたりから。

田 うんうん。うん。そうそう、あれの動きは全部掴んでるんだけど。

石 吉田、あのーマミコ…そうそう、あれがね全日空の吉田さんだったんですよ。

田 吉田マミコってやつね。はっはっは。

石 全日空の担当者の吉田さんだったんですよ。アナ吉田っていうのが、俺ずっとわからなくて。

田 10月15日のアリバイないの？

石 ない。

田 ないの。(聴き取り不能)も。

石 ない…だって10月15日のアリバイあったら、僕だって一発で…ねー…自分のアリバイが示せるわけですから。

田 うんうん。うん。そうだなー。まあ一佐渡出張もちょっとずれてるしな。だけど15日、だけ東京にいたことは間違いないんだよな？

石 そうです。はい。

田 じゃあ、そこんところはもうあれか、もし主張されればそんな事実はないと…っていう…まあ何というかそう言うしかないよ。

石 はい。

田 なぜならこんなアリバイがあるというところまではなかなか難しい。

石 はい。はい。またねー、世間は、私がもらってると思ってるわけでしょ。

田 いやでもさ、最近あんまり新聞の書き方なんかもさ、なんていうか水谷も、ちょっとわかんないよねみたいな論調になってるよね。うん。

石 はい。

01:54:31 田 さて、じゃあちよつとずつ調書作っていかうか、ねえ。

石 はい。

田 早く帰りたいでしょ。

石 はい。はい。そのとおりです。まあまあ、雑談しているうちはいいけど、そうもいかないし…。

田 いや別に今日、新たに何か厳しく追及しなきゃいけないっていうことじゃないからさ。

石 はい。

	<p>田 よいしょ。ちょっとじゃあ、従前のとりあえず供述を前提として、一回調書をまとめて、で、どうしよっかなあ、こんな感じ、石川さんとやりとりして、これくらいだったら、これくらいだったら、もしこんな内容でいいです、というのであれば、それで一回報告して了解とった上で、それで、えー、調書をもう一回まあ確認してもらってそれで署名してもらおうということで、それで終わりにしましょうかね。</p> <p>石 はい。はあー。</p> <p>田 なんで。なんで、ため息つくの。</p> <p>石 いやあ、なんかまたね、マスコミにね、小沢さんと供述食い違いとかやられるのは非常に辛いですね。</p> <p>田 まあそれはしょうがねーな。だけどもちろんね、我々はどうも本当に漏れないように最大限努力しますよ、ただそれでもこれまでね、もう漏れてきちゃってるから漏らしませんかとはなかなか100パーセント保証しますとはいえないじゃない。ただ漏れたときにさ、別にその、食い違いなんてのは今まで散々言われているんだからー、うん。ここでその小沢氏に供述合わせるなんてね、いうふうに、書かれるよりは全然いいんじゃない？</p> <p>石 うん。</p> <p>田 食い違いなんて今までも言われているわけだから。うん。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 で食い違ってるかどうかっていうのは別にマスコミの評価なんだからさ。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 あ、ごめんごめん。あれだな、あの一、被疑者調書にしておいて、今日、</p> <p>事務官 はい。</p> <p>石 まあ黙秘したりはしませんよ。</p> <p>田 そうそう。参考人だと黙秘権を告げたというのが出てこないの。黙秘権もあるから。</p> <p>石 私、今日被疑者と呼ばれたんですね。</p> <p>田 まあ実質的には参考人なんだよね。だって自分の、自分の事件は起訴されてるから。だから被告人でしょ、もうその意味では。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 だから参考人なんだけど、参考人調書にすると黙秘権というくだりが出てこないの…</p>
01:57:02	<p>石 今回、あの一今回、応じないっていう線もあったんですね。選択に。</p> <p>田 あった。あったけど、それはもう一番最悪のあれだよな。</p> <p>石 検審に対して。</p> <p>田 うん。検審に対して。あと、うちにとっても。</p>

	<p>石 でも、これでも、小沢さんが起訴になったら、それはそれで複雑ですよ、ね、心境としては。私も。</p> <p>田 うーん。</p> <p>石 いやー、検察内で、ですよ。</p> <p>田 あ検察が起訴した場合？でもこれは…石川さんが供述を維持する限り、それはできない。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 うん。だって、前と状況が変わってないんだから。何で、前回不起訴で今回起訴なのって言われたら、検審がそういうからとしか答えようがないですよ。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 そんなことできないよ。やっぱり。うん。前と事情が変わったんですって説明するしかないじゃない。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 例えば、組織的に口裏合わせにはってます、とかさ。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 あの一、やっぱ、そういった、何か説明、説明のしよう、説明ができないと起訴するという判断に変えるのは難しいよね。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 だからこそ、否認を期待している人がいるわけですよ。うん。</p> <p>石 うーん。</p> <p>(沈黙)</p>
01:58:33	<p>田 えーっと。「私は」起訴だったのは、2月4日だよな。</p> <p>石 4日です。</p> <p>田 えー「平成22年2月4日」点、えー「政治資金規正法違反の事実で起訴されて」えー、「被告人という立場にあり、したがって」えー、「取調べに応じる義務がないということは」これ、弁護士さんから説明あったでしょ？</p> <p>石 はい。</p> <p>田 「ということは、弁護士から説明を受けましたし」えー、「本日」点、「検事からも同様の説明を受けて」点、「その内容を理解しました。」えー「しかし」えーっと。うーんと。「しかし、先日」点、「東京地検が不起訴にしていた」、そこ点にしておいて。「東京地検が不起訴にしていた小沢一郎衆議院議員の政治資金規正法違反事件について」、えー、「先日、検察審査会が起訴相当の議決を」おー、「議決をしたようですので、本日」点、「任意に」えー、「小沢先生の」、任意の後に点いれといて。「任意に、小沢先生の関与に関する点を中心に再度」おー「お話しいたします。」と。議決は、処分に対する</p>

	<p>議決だよな。</p> <p>(沈黙)</p> <p>「しかし」の方がいいな。「しかし」ま、そこちょっと削って、「小沢議員の政治資金規正法」えーっと。うーん。え、「東京地検が行った不起訴処分に対し」。検察審査会が起訴相当の議決をした…。それでー。おもしろ。</p> <p>(沈黙)</p>
02:05:02	<p>(ステープルを留める音)</p> <p>石 ー。</p> <p>(沈黙)</p> <p>田 あのさー、ごめんなさい。ちょっと。いつべん調書とは離れちゃうんだけどさー。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 平成17年の4月のさー、あ、3月か。の4億円ってあるじゃない。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 あの一、先生から預かって、分散入金して、出してまとめて返したっていう。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 あれ、あれをさー、先生から受け取ったというふうになってて、調書でもそうなってるんだけど、そのところは間違いないの。先生から受け取ったということで。</p> <p>石 あの一、まーどうだったかなー。本当に記憶ないんですね。ただ、銀行が4億持ってきたというのは、何となく、検事から言われて記憶あるんですけど。</p> <p>田 うん。うん。</p> <p>石 さっきのその、八尋さんの口座を阿曾さんと作りに行ったのも、私、やってるわけですよええ。その、あの時に言ったと思うんですけど、取りに行ったのが、あの一、改国なのかどこなのかっていう記憶がないんですね。</p> <p>田 先生からっていうのは間違いないの。</p> <p>石 あー。もーあの時の4億とダブっちゃって、あの、16年の4億とですねー。ほんとに、あの時の4億は記憶はないんですね。あれも検審にかかっているんですね。</p> <p>田 いや、あれば別に石川さんが、あの一、なんていうか被告人じゃないですよ。16年は。だからいいんだけど。ま、調書はね、あの、先生から受け取って、あのチェリスに保管しとくのはちょっと問題があったんで、入金をしようと思ったんだけど、ま、そういう表に出せないお金かもしれないから、分散入金をしましたところ、4月の末ごろ、先生に返せって言われたん</p>

	<p>で、えー一つの口座にまとめて、りそなに持ってきてもらいましたって、さらっとなつてんだけど。だから、16年の話のように、どこで、どういう風に渡されたっていう細かい話は取ってないんだよ。</p> <p>石 その記憶は、もう全く飛んでますね。はい。</p> <p>田 うん。僕の生の記憶だと、まあ、確か同じタワーで、に取りに行つて、ただ16年とちょっと重なっちゃうんで、はっきりと間違いないとはいえないんだけどー。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 まー、同じようにタワーに取りにいって、チェリスに持ち帰って入金したんじゃないかなーって話をしたと思うんだよね。</p>
02:08:03	<p>石 はい。もう、行くとしたら、タワーか改国しかないんですね。</p> <p>田 改国に取りに行くことも、行くこともあったわけ。</p> <p>石 それはありますねー。</p> <p>田 そうすると、お金は、何、あそこから八尋が渡してくるの？</p> <p>石 ま、そういうことになりますね。</p> <p>田 うん。</p> <p>石 麻痺してたって言ったらおかしいですけど、だから、記憶がダブるっていう。</p> <p>田 うん。</p> <p>石 そういうことがあったから。</p> <p>田 うーん。うん。結局さー、16年。</p> <p>石 16年のは、はっきり覚えてます。</p> <p>田 うん。うん。その一、例えば4億なんかのさー、その、例えば、その4億の内容についてね、報告したところかさー、例えばさー、どういう機会か、えー、どういう機会かチェリスに先生が来た時だとかね、同席した人がいるのかいないのかとかかっていう具体的なことは、ほとんどちょっと覚えてないってことだから、調書にもしてないんだけど。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 それはやっぱりあれでしょう。先生と毎日のように会ってて、えー、常にいろんなやりとりをしているから、あー、なんていうかなー、特別記憶に残ってないっていうことなんだよねー。</p> <p>石 はい。っていうのは、朝、7時半に、秘書って行って、毎日報告するんですよ。</p> <p>田 うんうんうん。</p> <p>石 だから私、チェリスにいるから、来た時に報告して。だから、いつ、どこで、どういうことをしたかっていうのは、やっぱり、あんまりないんですよ</p>

	ね、記憶。
田	うんうん。
石	世間の人から見たら、その、17年の3月の、なんでそんな大金を覚えてないんだって言われますけど、小沢さんもほんとそれ記憶にないって言うんだから、そうなんだと思いますね。
田	うん。
石	だから、南さんから、この4億どうしたのって言われて、お前そんな覚えてないってことないだろうって。
田	はっはっは。言われた。
石	ほんと覚えてないんですね。だから、日中至誠基金に、前も言いましたけど、日中至誠基金に入れたっていう記憶はあるんですね。日中至誠基金なんて使うことないですからね。
田	うん。あの、日中至誠基金と誠山会と、あと、あれか。陸山会か。3つから4つ、あー、4つに分散してんだよね。
石	額が大きいんですね。
田	うん。そうだよ。1億、1億、1億、5000、5000ぐらいだな。
石	はい。それも、また問題になってるんですか。
田	いや、そこのところは、なんで具体的に調査と、と、取ってないのってこの前聞かれたんでー。
石	はい。
田	いや、僕の記憶でね、そこは確か、石川さんは被告人になってないし。
石	はい。
田	あとー、あの一何だっけ。記憶がうろ覚えで、しっかりしてなかったから、まー、彼の記憶の範囲内で、先生から受け取って、分散入金して、また先生にお返ししたと、の事実関係だけを、さらっと取ったんですけどね。
石	はい。なんか、4億円を銀行員がチュリスに持ってきた記憶はあるんですけどね。
田	うんうん。それはりそなのその人も言ってるから。
石	ただ、それをどこに持って行ったかは、ほんと記憶ないんですね。
田	うーん。それはだから改革国民会議とかじゃないの。場合によってはね。
石	改国はでっかいんですね。金庫が。
田	改国とか。うーん。
石	チュリスに置いてくってことはないと思うですよ。4億、入らないですから。3億までしか、縦にしか入らないですから。
田	うんうんうん。うん。その、ばらせば4億入るっていうのは間違いのないの。大丈夫なの。それは。

	石	はい。大丈夫です。間違いありません。
	田	そこでさー、その4億、まーこの先その金庫に4億入るかどうか検証するなんてことになるかならないのか、分かんないけど。
	石	はい。
	田	4億入らないということになると、先生から4億預かったこと自体の信用性もぐらついちゃうから。
	石	はい。そこは全く心配りません。
	田	そこは大丈夫なの。
	石	はい。
	田	えっとー。そしたら…。
02:11:59	石	あ、そんな検証なんかもするんですか。
	田	いや、ほんとにーそのー、話が信用できるかできないかっていうことになつたらー、やっぱり、裁判官としては、その金庫に4億ほんとうに入るのか入らないのかって確かめたくりますよねー。
	石	はい。それはほんと、全然問題ない。
	石	確か、最後の1本が縦に入らなくて、ばらしたり、これを横にして、こうして、1千万単位で、入れた記憶なんですよ。
	田	ま、たぶん、本当にそういうふうにやった人しか、そういうことは出ないから、ま、たぶん、僕も大丈夫だろうとは思っただけど。感じからしてね。
	石	はい。ま、だけど、もう、4、5年、4年も5年も前のことですからねー。
	田	うん。
	石	また、それで逮捕されたら大変ですな。
	田	え。どれで。
	石	え、その4億円で、17年の。
	田	はっはっは。それはねーだろー、いくらなんでも。でもあれか。収支報告書の、まー、理屈を詰めていけば、あれなのか。でも…
	石	17年の収支報告書、立件されてるわけですよ。私は。そうですね。
	田	あれは起訴にしたんだっけ。あれは不起訴になったんだっけ。
	石	確か…
	田	逮捕事実には、17年も入ってたんだっけ。
	石	17年の収支報告書に、あの一、4億、17年は、だからプラスして書いたってことですよ。実際は16年分に書くものを、17年に書いてあるから、16年分の収入にうそ、支出にうそ…
	田	16年のうそもあるよね。で、17年ない支出があると書いた。
	石	はい。
	田	それ、でも、それも逮捕事実、逮捕事実に入ってたんですけど。俺の記

	<p>憶も定かでないんだけど。</p> <p>石 あ、そっか。17年。私、責任者じゃないから。</p> <p>田 そう、責任者じゃないから、もちろん共犯者っていうのはあり得るんだよ。共謀共同正犯だよ、いわゆる。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 でも、入っていないんじゃない、石川さん、16年だけだったんじゃない。</p> <p>石 私、確か9億8000万なんですよ。確か。10億にいったいんですよ。</p> <p>田 巨額、巨額政治資金規正法違反事件だね。</p> <p>石 そうなんですよ。</p> <p>田 はっはっは。</p> <p>石 4億入れているのと、4億出したのを記載してないっていうので8億。あと1億8000万、政治団体から集めたっていう。</p> <p>田 じゃあ、16だけだよ。うんうん。</p> <p>石 はい。</p>
02:14:31	<p>(聴き取り不能)</p> <p>田 ま、じゃあ、ちょっと従前のあれだよー、取ってるところと、齟齬がないようにするからね。耳が痛いと思うけど。</p> <p>石 はい。耳、痛いなー。</p> <p>田 はっはっは。隠すためとか出てくるからさー。</p> <p>石 耳、痛いなー。</p> <p>田 はっはっは。えーっと。「私は、これまで、陸山会の平成16年分の収支報告書に」えーっと。あー。虚偽記載と、虚偽記入のものもあるのか。虚偽記載と。うーん。(聴き取り不能) どういうふうにしようかな。えー「収支報告書に必要なことを記載しなかったり、嘘を記入した理由」えー点、「そのことについて小沢先生に報告して了承を得ていたこと」点、「陸山会で深沢八丁目の土地を購入するに当たり」うーん、点。えーっと。</p> <p>(沈黙)</p>
02:17:26	<p>田 (聴き取り不能) にすると、えー、「定期預金担保貸付を受けた」、「受ける」、えー、「受けることについて小沢先生に説明して了解を得たこと」えー、平成「陸山会の平成16年分の収支報告書案が完成した段階で」点、「その提出前に」点、「小沢先生に対し」うーん、点、「その概要を説明して決裁を受けたことなどについてお話ししてきました」丸。「私がこれまで」の私はの文頭以下、「私がこれまで検事に対し」すみません。え、「お話ししてきましたが」</p> <p>(沈黙)</p>

02:19:30	<p>石 はあー。</p> <p>田 難しいよね。これねえ。</p> <p>石 結構長い調書になるんですか。</p> <p>田 いや、そんなに長くはならない。ま、概要こうで、で、一つ一つ、これまでの調書で理由についてはこうですと。で、了承・報告についてはこうですと。だから、今4点ぐらいあったよね。それについて、一個ずつ、従前の供述をもう、引き写しだよ、で、こうですと。で、最後に、問いで、小沢先生は、この点について、こういうふうにおっしゃっているけど、どうですかと。どうかと。それについて、小沢先生がどう記憶しているか、私にはわかりませんが、私が、私は自分の記憶に基づいてお話ししているの、私は私のお話ししていることが事実だと思っている、事実、事実だ。事実ですと。</p> <p>石 きついねー。その最後のへん、また。</p> <p>田 でもねー。そこはねー、いいんだよ。先生の言っていることを否定しているわけじゃないんだから。</p> <p>石 あー。</p> <p>田 先生だって、あの一、なんというのかなー、あの一、あくまで、なんだろうなー、意識してんのかしてないのかわかんない、むしろ記憶ベースで言ってるよね。</p> <p>石 うん。</p> <p>田 みんなね。で、報告を受けた事実はありませんって。言ってるのかな。でもそれは、記憶にないからってことなんだよね。結局ね。うん。だから、小沢先生がどう、どういうふうに供述されているかについて知らないんですよ。詳細は。だから詳細は、供述について詳細は知らないし、先生が、どう記憶してるかもわからないし。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 自分が、先生にお話ししたことを、先生がどう解釈したかも自分はわかりませんと。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 ただ、私は、私の記憶に基づいて、お話ししましたと。</p> <p>石 はい。それだったら、いいですね。</p> <p>田 それがいいんじゃない。先生と全面的に、石川さんが喧嘩するわけにはいかないっていうのは、その、わかるし、その、先生が言っていることをさー、真っ向から否定できないっていうのもわかるから、そこはそうやって逃げちゃって、で、最後に、いろいろ、あの一、マスコミではね、自分がなんか本件を全面的に否定されているかのようなね、報道がなされていることもある</p>
----------	--

	<p>けれどもね、それは、私もその一、支援者が一、そこは表現難しいね一。支援者向けの話って言うの。</p> <p>石 いや。そこは私も、あの一。</p> <p>田 うん。</p> <p>石 出てから思うところがあって書いてもらえるとありがたいですね。</p> <p>田 うん。その思うところってなんだって？</p> <p>石 あ一、またも一、その検事のその一。</p> <p>田 はっはっは。</p> <p>石 その追及が。</p> <p>田 理詰めでがんがん来られるって書いてあったな一。なんか。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 毎日新聞に。へっへっへ。</p> <p>石 あ一。いやまあ、まさかまたね一こうなるとはね一。ほんとに。</p> <p>田 はっはっは。</p> <p>石 また、またなんかね一。田代さんと長岡さんのセットで…。</p> <p>田 フラッシュバック。はっはっは。</p> <p>石 フラッシュバックしますよ。</p> <p>田 ま、ちょっとそこは最後に工夫しとくことにしよう。うん。うん。</p> <p>(沈黙)</p>
02:22:31	<p>田 えーっと。「お話ししてきましたが」。あ、その前「お話ししてきました」で止まるところ。</p> <p>事務官 あ、はい。</p> <p>田 えーっと。ま、いっか。ごめん。「お話ししてきました」丸。「私が」あ一、「これまでお話しした」「お話ししてきたことは」「全て私の記憶に基づくことであり」点、「その点については現在も変わりありません」。それで（聴き取り不能）いいんじゃないかな。</p> <p>(沈黙)</p>
02:24:30	<p>石 小沢先生と木村検事が、雑談なんかするんですかね。そんな感じじゃないのかな。</p> <p>田 あのね一どうだろうな一。でも、あの一木村さんは、小沢先生、小沢先生がね、全然マスコミで見るのとはね、印象が全然違ったとか言ってたよ。礼儀正しくてね。全然あの、そんなね、感じじゃなかったって。そりゃそうでしょっつったの。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 取調べでさ一、君は憲法読んだことあるのとは言わないでしょ。さすがに。はっはっは。だけどもあ、調書も結構取ってるから、ほとんど雑談するなん</p>

	<p>ていう時間はない、なかったんじゃないのかな一。</p> <p>石 2時間半ですか一。</p> <p>田 で、その調書みると、やっぱり一、問いに対して、先生の答え、で、先生結構、答えが長いよね、なんか一。</p> <p>石 いや、全然見てないです。</p> <p>田 いや、あの一結構長く答えてて、あれを見る限り、たぶんこんな雑談してるね、時間はほとんどなかっただろうなって思うよね。2時間半めいっばい使っちゃうだろうなっていう調書だよ。うん。</p> <p>石 田代さんも、ヤメ検になったら、一大事件を担当した検事でしたって（聴き取り不能）</p> <p>田 石川議員の顧問弁護士って（笑）</p> <p>石 石川議員の、そんな役に立つかどうか分かんないですけどね。稲垣さんは、少なくとも、顧問弁護士に、と思ってるみたい。</p> <p>田 はっはっは。稲垣さんが、あ、そう。うなぎ食べ放題。はっはっは。えーっと。えーっと。</p> <p>(沈黙)</p> <p>田 「まず」え一、「陸山会の平成16年分の収支報告書への不記載」飛び、ナカボツ「虚偽記入の理由についてですが」え一、「私は、深沢八丁目の土地を購入するに当たり、小沢先生から提供を受けた4億円につき」え一、「小沢先生が政治活動の中で何らかの形で蓄えた簿外の資金であり」え一、「表に出せない資金であると思ったため」点、「これを平成16年分の収入として収支報告書に記載しませんでした。」</p>
02:28:01	<p>石 ま、そのまま言います。いや、ほんとにね一検事一。</p> <p>田 うーん。うん。でもさ、突き詰めていけば、そう説明せざるを得ないんでしょ。</p> <p>石 いやー、私は、やっぱり不動産の購入、購入した不動産が明るみに、公表されるのをずらすということが一番の主眼点なんで、そこに、預かった4億円が明るみに出るのを避けるためっていうのは、今でもやっぱり、あの一、そんなことはありませんとしか言えないんですよ。</p> <p>田 あの一、でもそこはだけど、今そんな議論してもしようがないだけど一。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 あの一、その不動産をずらすというのと、4億円を蓄か、蓄かないかというの、必ずしもその一、リンクしてないよね。つまり、不動産をずらした以上、意識しようしまいと、必要であろうとなかろうと、この4億というの、自動的に不記載になるですというんならいいんだけど。そうじゃないじゃない。4億は4億で書いて、収入として、不動産は17年に買いまし</p>

	<p>たっという形にしたっていいわけだね。ね。</p> <p>石 うーん。まあそうですね。そうすると、あの一、8億円、8億円収入あるけれど、何もしていないということになりますよね。</p> <p>田 うん。そうだね。</p> <p>石 だから、あの一、3億4千万でしたっけ、土地が。結局次の年に支出しなきゃいけない、だからあの、収入も結局、次の年になきゃいけないということになりますよね。</p> <p>田 うんうん。でも、それはさー、なきゃいけないってことじゃ、ないんじゃないの。だって、支出がその年に必ず収入がなきゃいけないってわけじゃないんだから。繰り越し金にすればいいんだから。</p> <p>石 ま、そうですね。でも、そうすると痛くもない腹を探られることになりますよね。そんない。</p> <p>田 だから、まさに、自分で言っているとおりなんだよ。</p> <p>石 あー。</p> <p>田 だからその年に、16年に土地を書かない、書かないと同時に、その4億円、8億の収入というのは書きたくないわけでしょ。そうでしょ。</p> <p>石 はい。そうですね。</p> <p>田 で、4億の収入、あの4億の収入だけを書いてるんだよね。それはだから、先生からの4億というね、あの現金を、その、書いてるの見れば小沢一郎からの4億と書いてあるだけなんだけど、さらにその4億を、その4億はなんなのと追及された時のことも考えると、やっぱり貸付を受けとく必要があったんだと思うんですよ。</p>
02:30:21	<p>石 まー、今更こんな議論してもしょうがないんですけどね、俺、ほんとに、その時頭にあったのは、あの一、不動産の取得をずらすということが第一目的なんで。</p> <p>田 じゃあそっちを先に書こうか。はっはっは。</p> <p>石 うーん。ま、結局おんなじことなんですけど。だからそこが、小沢さんからの4億借りたのを隠すというのがものすごく意識にあって、あういうことをしたってというのが、自分の中でもやっぱりしっくりいかないんですよ。そういうとらえられ方をすると。</p> <p>田 そうか。そこのところはだけどさー。どうだろ。じゃ、でも、定期預金担保貸付をあの、あのタイトなスケジュールの中で、受けたことの説明というのは、しづらいよね、非常に。</p> <p>石 いや、でもそれは、政治資金ね、やっぱり、あの一、買って、政治資金で返したことにしなければならぬというのはありましたね。だから1億8000万かき集めてきて、結局、政治資金の中から預金担保組んでますよねー。</p>

	<p>田 ん。うんうん。</p> <p>石 不動産を買ったのは小沢さんの金で、政治資金で午後、午後、私そんなに午前も午後もそんなに、なんか、あの一もう、その当時はちょっとよく覚えていないんですけど。だから、あの、なんていうんですか、その出発点が、水谷建設からの5000万円が入っている、その、それをその全部ね、4億円が、いかがわしいお金だなんて、私、実際その4億がどう作られたかなんて、わかりませんし。</p>
02:31:56	<p>田 うんうんうん。だから、それはいいじゃない。水谷のところにごく興味が奪われているんだけど、そんなところは、なんていうかなー、別に4億の不記載に関係ないんだよね。ただ、4億が記載されていない、不記載にされていることがもう起訴もされてんだし、もうしょうがないでしょ。そういうところで、不記載にした理由はじゃあなんなのってなった時に、その、みんな水谷のことばかり、水谷だから書けなかったに違いないって思い込んでいるわけよ。だからそこはさー、石川さんがさ、そうじゃなくて、漠然とね、先生のそういう蓄えてきたね、なんだかわかんないんだけど、簿外の金で、表に出せないお金だと思ったから、自分は書かなかったんですっていえば…</p>
02:32:38	<p>石 換事、そこで、その不動産の支出を結局、その次の年にするって決めましたよね、そうすると、支出と収入を合わせなきゃいけないっていうのが主眼にあったんで、その、ほんとに、実際小沢さんから借りた4億が、これがものすごく怪しいお金で、これはやっぱり隠さなければいけないっていう意識はないんですよ。だからやっぱり、ちょっと信じてほしいなっていうのが。</p>
02:33:01	<p>田 ま、だから、そこはどうするかだね。その要するに、4億を隠すつもりはなかったんですけど、今、今言っても、あんまりプラスにならないよね。</p> <p>石 あー。</p> <p>田 だって、今言ったようにさ、後から、後から見ればそうだけどって思う、おれもそう思うよ、だけど、やっぱり後から見るとさー、みんな、別に収入と支出を同年度に合わせなくていいんじゃないのっていう、さっき私が言った突っ込みが、必ず来るわけですよ。</p> <p>石 収入と支出、まあまあそうですね、でも、あの買い物した年に、やっぱり収入ないって私は思ったんですよ…</p> <p>田 別に、4億先生からもらって、16年に正直に書いてね、隠すつもりがなかったっていうなら、正直に書くべきだし、で、その年は収入は8億と書いて、で、翌年、それを繰り越して、その中から、翌年、代金を払ってるっていう体裁になってるんだつたらね、4億、隠す気なかったっていうのも分かるけど、こっちは書いてなかったんだから、隠す気なかったって言ったって、おかしいんじゃないのっていうふう突っ込まれるよねー。</p>

石	うーん。でも、1月7日には決済してますけどね。全て。
田	うんうん。え、1月7日に決済。
石	1月7日に払ってますよねー。払ったことにしてますよね。不動産購入の土地を払って、でもその前に結局、池田が、その年の収支報告書を作る時に、
田	足りないから。
石	足りないから、足りないから、結局、1月5日ぐらいに移したことにしてんですかねーあれ。
田	そうそう。架空の。それもまた罪に問われてんだけど。
石	そうそうそう。それもまた罪に問われているんですけどねー。あの、隠すっていうよりも、全ての発端が、やっぱり不動産取得の公表時期を遅らせるっていうことがもう第一の出発点なんで、私が言いたいのは、出発点が4億円を隠すためっていうのがしっくりこないですよ。私は。
田	うんうん。うん。だから、それは、なんていうかなー、一個一個説明してて、今たまたま一番最初になってるからあれなんで、まず4億を隠すために隠しましたと、そして、それに従って、登記もずらしましたというような論理関係にはないよね。
石	そうです。それを言いたいんです。はい。それを言いたいんです。やっぱり、登記の、あの、不動産取得の公表が政治資金、これは、これから、あの、あの一番の私の、あの、正直な気持ちっていうのは、不動産の取得の公表の時期を遅らせるために、じゃ、どういう経理の操作をしなきゃいけないのかっていう、だから二番手なんで、だから、あの、4億預かったのを、なんとしても隠さなきゃいけないっていうのが一番先に来てないっていうことを言いたいんですよ。だから、検事が、いや、言うのもわかるんです。それが1番であろうが、2番でなかろうが、そのときの処理はこういうつもりだったよっていうのが、結局その、簿外のお金でね、何としても隠さなければならなかったっていう思いが強かったっていうのじゃないっていうのを伝えたいんですよ。
田	うん。うん。うん。うん。どうするかなー。まあー。
石	いやー、やっぱり、これ、在宅起訴でとられるわけですから、また裁判の時にね、その、な一んであなたこうやって、在宅起訴で、検事に、検事にこういつているでしょってなるのが、やっぱり嫌なんですよ。
田	え、でも今、4億は全く隠すつもりはありませんでしたって
石	いや、そういうことは、そういうことを言っているんじゃないんです。支出と収入を同じ、結局、あの…
田	だったらこうしようか。今までどおりの供述をした上で、最後のところで、

	調書を読み聞けた後に、最後に、その4億円についてね、不記載についてですけども、その土地を17年度に、土地の支出を移したことによって、でも収入はさ、17年度に書いていないんだよね。先生からの4億円の支出は。あ、収入は。だから、17年度にさらに小沢先生から、小沢先生から4億借り入れましたって書いてあれば、隠す気はなかったっていう弁解も立つけど、結局書いてないじゃんっていわれちゃうよね。はっはっは。
石	あー。なんていうか、ちょっと、うまく説明できないんですけど、あの、収支報告書に小沢一郎4億円と書いてありますよね、それをその、小沢さんからの4億円を隠したいがためっていうのがね、どうしてもひっかかるんですよ。
田	うんうんうん。うん。
石	土地登記の公表を、やっぱりずらすっていうことが主眼の中で、経理操作をしたっていうのが、実際の話なんで。
田	うんうん。うん。
石	だから、その後付けについてきて、結局、あの、戻さなきゃいけないお金ですよ、いずれ。
田	まあ、そここのところはあれなんだよね。あのー、簿外のお金、先生の、が貯めてきた簿外のお金とどの程度強く思ったかっていうのはみんな興味なくてさ、みんなそもそもそこはうそだと思っててさ、水谷建設の5000万だと、ゼネコンからの裏金に決まってるだと思われてるから。だから、書けないんだよ。
石	そういう意識は全くないんですよ。そういう意識は全くないんですよ。
02:38:16	石
	そら、常人、普通の常人からしたら、いきなり4億円って出てきて、ちょっとこれなんなんだと思うってね、見えるかもしれないですけど、私からすると、やっぱり小沢さんだから、4億持ってるんだっていう。
田	ま、ちょっととりあえずさ、そんなに項目としては4項目ぐらいしかないので、そここのところ、この点についてはああでしたこうでしたっていうのは、これまでの調書どおりちょっと作ってみて、
石	分かりました。
田	そここのところ、修正できる場所はするけれど、ただ、趣旨をね、要するに隠そうと思っはいてないんだっていうのはやっぱりちょっとまずいと思うから。
石	はい。
田	だから、まあ、そこをうまく、さっき言ってるように。あのー、まず4億円ありきではないんですよ。そういう形で修正していくしかないよね。
石	はい。はい。それを伝えたいんですよ、今日は。ま、それは、前の取り

	調べからも、それは従来言っていたところで、いつも検事に言われて、はい、分かりましたってなっちゃってんですけど。なんか。
02:39:16	田 だから、結局は結局は書いてないからさ、隠す気はありませんでしたっていうのが、すごくね、なんかね、弁解がましく聞こえちゃうんだよね。あの収支を、収入と支出の年度をあわせる、ないといけないと思ったんだっていうんだったら、やっぱり17年に書いてないとおかしいしさ。うん。はっはっは。
石	まあ、またこれで時間を使うとね。
田	はっはっは。
石	ま、どうせ、また罪を服して、おれも、おれの人生もうどうなんだ。
田	同じこと言ってるじゃん。何ヶ月か前と。でも…
石	吉田さんに言っといってくださいよ。まだ生きてるって。
田	意外と、あれだよ。やっていけるもんだってわかったでしょ。まだ3ヶ月だけど。
石	いやー。それでもやっぱりつらいもんですよー。
田	きつい？
石	それでもやっぱりつらいもんですよ。常に失職と戦わなければならないし、さっき言ったとおり、またなんか、その、個人の件と小沢さんの件で、またなんか国税が動いているっていう話も出てきたり、私は小沢さん個人の財産はタッチしてないから、なんか漠然とした不安ですよ。
田	うん。そうだね。あの、一新会の人々は、親切にしてくれるの。冷たいの。
石	いや、でも私、一新会は退会しましたので、個人的に松木さん、樋高さんと会うぐらいで、後はそんなに昔ほど、接触ってないです。いや、あの、周り向けば、もっとひどい人いますよ。いや、例えば、保釈されてね、初国会で、隣に話しかけてね、普通、初国会出たから大変だったなって声かけるかなと思ったら、一言も声かけないとかね。ありますよ。
田	はっはっは。あっそう。それは民主党の議員だよー。
石	そうです。
田	隣だからねー。うーん。
石	隣の人に話しかけてって。隣の…
田	あ、隣の人に話しかけてね。
石	隣は田名部さんって明るい人なんです。
田	冷たい奴だねー。それは。誰なんだ、そんなに冷たい奴は。
石	(聴き取り不能)冷たいのは、渡辺周です。や、常に、この、おそらく、初公判が一番わーっと集まって、小沢さんが、もう権力の座にないのであれば、もう終わりですよ。あと、みんな話聞けば、2回目からぐっと人が、

	傍聴人減って、記事の扱ひも減ってくるっていう。結局どんな事実が出てきても、ほとんど今、小出しにまた出てますけど、もうそんなこともないと思いつつ、なんか嫌ですよ。
田	うんうん。だけどあれだよ。覚悟してたほど、私生活のなんかスキャンダルとかは書かれなかったよね。
石	あ、それはそうですね。はい。
田	それはよかったよね。
石	はい。
田	どの女とつきあっていたとかさー。ソープに何回行ったとかさー。
石	はっはっは。そうそう。そこはね、そこは、ほんととありがたかったですね。金沢は、立ち上がれ日本から出たいみたいですから。
田	あー。うーん。立ち上がれ日本も、金沢公認したら終わりだなー。もーな一。
石	ま、そういう気持ちがあるってことだけ、ちょっと、話しをして。
田	ま、別にここでやってる話は確定で、一切変えないっていう話じゃないから。ま、そこについては、また、ちょっと考えましょう。そうだね。えーと。「また、」うーんと。
	(沈黙)
	えーと。「深沢八丁目の土地を、深沢八丁目の土地の購入にあたり」、「深沢八丁目の土地の購入にかかる支出を、平成16年度の支出として」、えー、「収支報告書に記載しなかったのは」えー「当時、平成18年9月に予定されていた民主党の定期代表選挙のことであり」点、「それ以前に実施されるかもしれない臨時代表選挙のことを考え」、えー「深沢八丁目の土地の」
石	取得時期をずらすですね。
田	「取得に関する」こういう動機だからそうよね。取得に関する取得に関する支出が記載された報告書の公表の時期を遅らせたっていうことだよ。
石	そうです。
田	「土地の取得に関する支出の記載された、収支報告書が公表されるのを、できるだけ遅くしたいと考えたからでした。」
	(沈黙)
02:48:58	田 「そして、私は、」えーと。「小沢先生から提供を受けた4億円の収入を」なんていうかね。「そして、私は、平成16年分の収支報告書に、小沢先生から提供を受けた4億円の収入と深沢八丁目の土地の購入にかかる支出などを」えー「記載しないことや」点、「土地」えーとね。「その土地の購入原資が銀行からの借入金であるという外形を整えるため」、整えるは1番だね。「整えるため」えー「りそな銀行衆議院支店から4億円の定

	<p>期預金担保貸付を」えー「受けることについて」整えるためになつてるよ、「受けることについて」えー、そこ点がない。「小沢先生に対し」、えーっと。これはあれだよ。10月の下旬ころだよ。日時については、</p> <p>石 そうですね。</p> <p>田 「平成16年10月下旬ころ」えー「チュリス赤坂の小沢事務所の小沢先生に対して」改行して、「次期代表選前に今年の収支報告書が公表される可能性があります。」「このままですと、3億4千万円の土地購入や先生からの4億円の借入が出てしまい」…</p>
02:52:36	<p>石 あの、検事、そこね、あの、その一、4億円の借入れがばれてしまっているのは言っていないんですね。実際、やっぱり収支報告書の一番最後に土地いくら、いくらじゃないか、土地、何平方メートル、って書きますよね？</p> <p>田 収支報告書</p> <p>石 あの、私の頭はそこにあるわけですよ。説明も。お金の出し入れが公表出るといっているのは、そこ、あの、頭の中、あの一、一番にあるわけじゃないんですよ。収支報告書の一番下の土地取得、あの、何月、何月何日まででないのかな、日にちは出ないのかな。あの、東京都世田谷区深沢…</p> <p>田 資産のところね。</p>
02:53:34	<p>石 資産のところ。経緯が明らか、結局セットになるっておっしゃるかもしれませんが、経緯が明らかになるっていいですけど、資産の報告書に載っている説明をしたはずですよ。</p> <p>田 だからさ、それはそれでいいんだけど、そこを強調したいことも分かるんだけど、で、たぶん意識としても、そうだったんだと思う。当時の、意識としてもそうだったんだと思う。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 だけど、その4億円について隠す気がなかったんですということは非常に言いづらいわけよ。だから、もし、それを言うとするば、やっぱり、定期預金担保貸付がなかったり、ないか、若しくは、定期預金担保貸付があっても、ちゃんと平成17年度の収支報告書の収入欄に小沢一郎、4億円。借入金って書いてあればいいんだけど、17年には書かず、かつ、その、経済的には不要だね、定期預金担保貸付を受けているということからすると、この4億円は意識していませんでしたっていうのは、説明がつかないんだよね。うん。</p> <p>石 この小沢さんに説明する時は、そういう、あの、4億円をっていうことはやっていない。</p> <p>田 でもしょうがないじゃん。今更、削るかー？でも。</p>

	<p>石 えー、だけど。</p> <p>田 うーん。けど先生は、これ一、も一、土地のことについても一切報告受けた記憶ないって言ってんだからさー。</p> <p>石 はい。ただ、資産報告書に載っている説明のはずです。</p> <p>田 うんうん。その一、じゃ、4億のところは、そうするとどうしますか？今更隠す気無かったっていうのは非常に言いづらいよね。</p> <p>石 いや、隠す気なかったっていうよりも、その、資産報告書に載って公表されると、あの一騒がれるので。で、あの一、翌年にずらすことを、あの一、提案して、報告して、了承されましたというであれば、しっくりくるんですけどね。</p> <p>田 いやー、今、前回取ったのは、そうやって分解すれば多分、それでいいし、別の時期だったらそれでいいんだけど、これさー、定期預金担保貸付を受けることの説明をまとめて書きちゃってるんだよ。だから今、いきなりねー、定期預金担保貸付、その外形を整えたいので、4億の定期預金担保貸付を組みますと言ったんじゃ、分かんないよねー。なんでそんなものを組む必要があるのかっていうのが。だからそこで入ってきちゃってるんだと思うんだ。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 一応ちょっと、そんなに長くないから、まとめて最後まで読むとね、えーっと、途中、「先生からの借入金が出てしまい、また、マスコミが騒ぎます」と。これも収支報告書に記載してしまいますとどうのこうのではなくてね、「マスコミが騒ぎます」と。「登記をずらして、土地の取得を来年に回した方がよいのではないのでしょうか。」「先生に用立てていただいた4億円が表に出ないように」点、「土地代金を銀行からの借入れで決済をしたという外形を整えたいので」えー「陸山会が、先生経由で、りそなから4億円の借入れをしたのですが。」「したいのですが」で丸で、「陸山会名義で定期預金を組み」で、「それを担保として、融資を受けたいと思います。」えー。「などと言ったところ」「小沢先生も」改行して、「そうか、それじゃあ」点、「そうしておいてくれなどと言って」「などと言って」点、「私の提案に賛成してくれたのでした。」となるんだけどもー。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 うーん。 (沈黙)</p>
02:59:23	<p>石 ちょっと、トイレ行ってきてもいいですか。</p> <p>田 うん。ちょっと待って。立ち入り禁止区域があるから。ドア閉まってたでしょ？</p> <p>石 そうなんですか。</p>

	<p>田 うん。石川さんのために。はっはっは。 なんでしょ？</p> <p>石 あ、そうなんですか。</p> <p>田 じゃあ、ちょっとトイレ行って、タバコ1本吸って、やるか。</p> <p>石 はい。吉田さんから見れば、威勢のいいやつだって、でも、生きるのだから一杯なんですよ。</p> <p>田 いや、そういう風に映ってんだ。やっぱり、それは。</p> <p>石 それぐらい、大目に見てくださいよ。</p> <p>田 だからさ。一言さ、入れとけばさ、今日の調審にね、最後にね。あの一言田さんには俺の方から説明しておきますから。石川さん、こう言っていましたからって。吉田さんのことはね、あの、非常にね、こういう風にしておこう。石川さんが、あの、吉田検事がね、あの、気分を害されてんじゃないかって心配してましたよって。自分の発言で。だけど、自分の真意はこうですからって。吉田検事に言っといてくれと…。</p> <p>石 それと、蛇なんて一言も言っても言っておいてください。あの青木さんがね、あの、弁護士が、木下さんが、私が毎日水谷聞かれてたでしょう。ほんとと執拗に聞かれていますっていうのを、木下さんがね、どうも、言ったらいいんだよね。</p> <p>田 あの、しつこく聞かれてて、蛇みたいに聞かれて。はっはっは。</p> <p>石 聞かれて。という、ところなんですよ、実際はね。</p> <p>田 飲みもの大丈夫ですか。ない。</p> <p>石 大丈夫です。</p> <p>事務官 じゃ。(聴き取り不能)</p> <p>田 どうぞ。</p> <p>石 吉田さんにヤメ検になってもらって、弁護してほしいよ。</p> <p>田 あの人に弁護してもらったら心強いよ。はっはっは。 (沈黙)</p>
03:02:30	<p>(ノック音)</p> <p>田 どうぞ。 (扉の開く音)</p> <p>田 じゃ、ちょっと、そこ入ってくれるかな。私、向こう行きますから。</p> <p>石 はい。 (扉の開く音)</p> <p>(沈黙)</p> <p>石 は一疲れたな一、は一。 だけど、ここで私が今日、全部否定したおもしろいことになるっていうこと</p>

	<p>は、それで小沢さんを起訴っていう道もあるっていうことですか。</p> <p>事務官 それは、起訴はできないですよ。やっぱり。どっちみち一、ま、ただ、やっぱそれで一、ただ、やっぱり、検審の方が、たぶん、二度めの起訴議決をする可能性が、たぶん、ね一。そしたら、やっぱ、ちょっとね一。</p> <p>石 ふうん。 (沈黙)</p>
03:05:00	<p>(扉の開く音)</p> <p>田 あっついね。ほんとね。よいしょっ。何思い詰めてるの。はっはっは。</p> <p>石 いやいや、またマスコミが政倫審だとか。石川議員どうなんですか、実際はって来ますよね。</p> <p>田 一切ノーコメントでいいじゃん。</p> <p>石 一切ノーコメントのつもりではいますけど、また、何日か追われるかと思うと憂鬱です。</p> <p>田 それかはったりで、はったりも含めてさ、今までどおりね、言っておけばいいんじゃない。報告・了承はしてませんと。ありませんって。</p> <p>石 ただ、私、報告・了承はありませんって、私は毎日新聞に答えてないはずなんですよ。</p> <p>田 だから、細かい報告・了承、報告・了承があったんですかって聞かれたことに対して、細かいことは言っていないって答えてるから、だから、かみ合っていないでしょ。うん。</p> <p>石 そうなんですよ。細かいこと、概要は説明したけど、細かいことについては説明していないっていうことですよ。</p>
03:05:55	<p>田 それでいいんじゃないですか。でも、あれをもって報告・了承というかどうかも分からないしね。</p> <p>石 小沢さん、ほんとに覚えてないところもあると思いますけどね。</p> <p>田 だからさ一。ま一、なんだろうな一。どこが一番、現状を踏まえて一番その一、なんだろうな一、軟着陸なのかね一。ま一それら、検察審査会で不起訴不当っていう議決が出るのはあれだよ。</p> <p>石 まあ、そうですね。望む着陸点ですけど…。</p> <p>田 一番の。強制起訴になった場合に、ま、どういう、まあ、そこは争わざるを得ないんだろうな、小沢先生としては。うん。</p> <p>石 それはもう、われわれ3人の公判にもかかってきますよね、やっぱり。</p> <p>田 うーん。うーん。小沢先生がもう不起訴になってしまえば、もう後は、自分の方はあれでしょ。ま、もちろん、いろんなパフォーマンスは必要だけど。後はもうできるだけ早く確定させたいってことじゃない。そうでもない？</p> <p>石 次の選挙の時期と、あとどういう量刑が出るかによりますよね。</p>

03:07:03	<p>田 でも、でもさ、そんなに馬鹿なことを言わない限りさ、実刑っていうのは考えづらいわけだから。馬鹿なことを言えばさ、裁判官も頭にきてさ、その、20億の巨悪のね、違反事件でね、こらもうね、実刑やむを得ずみたいだね、そんな馬鹿なこと言わなかったらそんなことにはならないですよ。普通はね。</p> <p>石 さっき言った論理はやっぱり伝えたいと思ってるんですよ。そら、副部長からすれば、不合理かもしれないですけど、私も、最初から、その、資産報告の公表をやっぱり、恐れて先生に報告を、あの一、ずらした方がいいっていうのが主眼なんで、その一、汚い金だから、4億円を何がなんでも露見したくないっていうのは、今でも…</p> <p>田 だから、汚い金とはいってないわけじゃない。</p> <p>石 それはそうですね。</p> <p>田 汚い金だっていうのは、検察が勝手に言ってるだけで、言ってるだけでね、そんなのは別に水掛け論になるから、相手にしないでいいのよ。証拠ないんだから。別に。</p> <p>石 ま、ただその一、その、4億円が、その4億を何がなんでも隠さなきゃ、小沢さんからの4億を何がなんでも隠さなきゃいけないっていうより、あの、もらったのを、やっぱり戻すっていうのが頭にあったっていうだけなんですよね。</p> <p>田 うんうん。うん。</p> <p>石 まーそうすると、じゃ、隠すってことだろって言われちゃうんですけど。</p> <p>田 そうなんだよ。戻すんでも戻さないんでもいいんだけど、だったら書けよって言われちゃうわけよ。</p> <p>石 ま、そうなんですけどね。</p> <p>田 じゃ、書けよ。はっはっは。</p> <p>石 でも、そう言われても、やっぱり公判では言わざるを得ないですよ。だって、罪状認否でね、完全に罪認めて、服しますなんていったら、そこで裁判終わっちゃうわけですから。</p>
03:08:37	<p>田 だから、公判ではいいよ。そこはだから言っとくよ。ただ、今、この重要な調書のところでは、やっぱりこの調書何が目的かっていったら、やっぱり、小沢先生を、検審の起訴相当っていうのを受けて、再度、再度彼らが、もちろん、上の、うちの上層部もそうだし、彼らが、起訴か不起訴かの判断を迫られるわけだよ。その時の、その材料としての調書だから、その中でさー、だから一番よくないのは、やっぱり小沢先生が、組織ぐるみで口裏合わせをしているとかっていうような印象は、絶対によくないわけだよ、これは。うん。</p>

石	<p>はい。ま、実際、弁護士とは、当たり前ですけど、会いますけど、小沢さんとは会ってないんで。何もしてないんで。まー、小沢さんだって、私に、お前そんなことするなよなんて言えないですよ。</p> <p>田 お前、おれに報告してないって言えとか。はっはっは。言えない？</p> <p>石 いやー言えないですよ。”</p> <p>田 極高なら言うんじゃないの。石川お前、がんばれよ、もうちょっとって。</p> <p>石 いやー、だって、預担がありますから。だって、検事も言ってたように。借入れの時、やっぱサインはしてるわけだから、それは。</p> <p>田 でも、先生もたしかにサインは別に認めているからね。</p> <p>石 サインは認めてるから…</p> <p>田 だから、石川が、その土地を買うのに必要だから、いうふうに言ってきて、えー、たんで、あの、サインしたんだけど、どんな説明受けたかよく覚えてませんみたいな。はっはっは。</p> <p>石 あー。小沢さんにとっては、あんまり重要なことじゃなかったのかもしれない。それは。</p> <p>田 だから、預担の話と17年にも記載していないっていうことからすると、やっぱり、隠す気ありませんでしたとはいえないと思うんだよねー。うーん。</p> <p>石 ま、あとは、もう確定するまで。まさか自分が犯罪者になるって思ってなかったんで。</p> <p>田 はっはっは。まだいいじゃん、政治資金規正法で。変な罪名じゃなくて。</p> <p>石 はい。まあそうですけど。東京地検特捜部の恐ろしさは、身をもって、わかりましたよ。</p> <p>田 なんて、そんなことないじゃん。</p> <p>(沈黙)</p> <p>石 中村喜四郎とかすごいですよ。ね。</p> <p>田 すごいパワーだよ。ほんとにね。</p> <p>石 刑務所入ってから受かってるんだもん。</p> <p>田 (聴き取り不能)争ってね。</p> <p>石 そんなのなれないじゃん。</p> <p>田 まあ、あの時は、茨城県ってほんとすごいよね。国会議員から町長って。</p> <p>石 いやー、ほんとに、人生、変わりました。さっき結婚の話もされましたけど、とてとても、そんな気にはならないですよ。</p> <p>田 ならない。えー。あの彼女はもう復活しないの。</p> <p>石 あ、もう全然復活しません。もう連絡も一切きません。</p> <p>田 えーあれだよあれ。ススキノのだよ。</p> <p>石 あ、もう全然。あの、うん。出所した後メールは来ましたが、でももう。</p>
---	--

	<p>田 うん。</p> <p>石 もうだって。結婚しました。はい、有罪確定失職ですって。</p> <p>田 はっはっは。ま、それもかっこいいじゃない。</p> <p>石 どこがかっこいいですか。</p> <p>田 それもかっこいいよ。でも今、こういうやっぱり、選挙制度になっていると、やっぱり大政党内に所属してないと、立候補できないよね。なかなか。</p> <p>石 そのままであれば、無所属でやっぱり出ろってことになるでしょうから。</p> <p>田 そうすると、民主党はそこに立てるのかね？</p> <p>石 いやー。今の民主党の十勝の状況じゃ、そういうことはやらないと思えますね。</p> <p>田 それと、あれ、中川、中川昭一の奥さんが立候補するのかな…</p> <p>石 まあ、そうじゃないですかね。あと、みんなの党とあいまつになるんじゃないですか。勝ったとしてもね、また失職みたいなの。</p> <p>田 はっはっは。ほんとに重荷だよな。</p> <p>石 鳩山さんの秘書の原さんですら公民権停止3年ついていますもんね。あの、勝場さんがどれぐらいの量刑でしたっけ。懲役…。</p> <p>田 勝場さん、どれぐらいだったろうね。</p> <p>事務官 あーちよっと。</p> <p>田 1年6か月とかじゃなかった？</p> <p>石 やっぱり、1年6か月、執行猶予3年っていうのが、常識の線なわけですよな？</p> <p>田 まあ、そのくらい。</p> <p>石 それで、執行猶予期間中は公民権停止になってたんで。</p> <p>田 うん。</p> <p>石 それを付けるか付けないかは裁判官の情状酌量ってなりましたけど、果たしてそれが付くかどうかですよな。</p> <p>田 うんうんうん。</p> <p>石 なんか、そこから先、自分がどうしていいかって、全く想像できないんですよな。</p>
03:13:44	<p>田 うーん。うん。そうだねー。</p> <p>石 だから、逮捕されてる時から、その、弁護士に伝えて、秘書の整理を考えていました。</p> <p>田 うん。じゃ、その再就職とか。</p> <p>石 やっぱりやっていけないと、彼らもかわいそうなんですね。</p> <p>田 そーだよな。</p> <p>みんな、それなりの腕はある人達なんだからね。</p>

	<p>石 ま、まあーそれは…</p> <p>田 あんまりないの？</p> <p>石 まあ、でも。みんな、みんなの人生、狂わしてしまったんで…。</p> <p>田 うんうん。うん。</p> <p>事務官 あの、禁固2年ですよ。</p> <p>田 あ、禁固2年か。懲役じゃなくてね。禁固2年。それで執行猶予3年。</p> <p>石 やっぱりそれぐらいの線なのかな。</p> <p>田 それで、公民権3年間停止とか。</p> <p>事務官 公民権は…</p> <p>石 執行猶予期間中に公民権停止なんですよな。</p> <p>田 うん。</p> <p>石 あの、政治資金規正法ですよな。私、そしたら懲役がないんですか。そうすると。</p> <p>田 禁固だね。懲役刑は、確かなかったかもしれないね。うん。</p> <p>石 いやー、これでも、実刑だったら、つらいですね。</p> <p>田 実刑はつらいよねえ。いくらなんでもね。でもねー、ほとんど禁固でもね、一応みんな懲役するらしいよ。やっぱ、何もしないのも…。</p> <p>事務官 公民権3年です。</p> <p>田 うん、3年。やっぱ猶予期間中ってことだな。</p> <p>事務官 そうですね。</p> <p>石 いや、私も、実刑は避けたいですけどね。</p> <p>田 いやそれはねー、避けられますよ。ちゃんとやれば。多少争ったって。うん。主張は主張としてね、やってね。で、後は、もう判断は裁判所にお任せしますっていう姿勢であれば。</p> <p>石 いやー、在宅起訴だと言われるのに、逮捕になったりしてるから、不安はありますよな。</p> <p>田 いやーそれはさー、やり方を間違ったからだよ。はっはっは。だってさあ。あの12月の…</p> <p>石 27ですね。</p> <p>田 27から、その逮捕までの間に、何かうちの方針が劇的に変わったわけじゃないからね。うん。</p> <p>石 で、1月13日の動きですよな。あのとき、ホテルで聴取されてて。</p> <p>田 で、すぐ来っていうね。</p> <p>石 はい。あそこから。もうあそこで逮捕状が出てたんですかね。</p> <p>田 …いつ出たのかっていうのはわかんないんだけど、たぶん出てなかったと思うよ。あの時点では。</p>
--	--

石	で14日、聴取受けて。15日休ませて下さいって言ったけどだめで、で、検事はほら、地元戻ったよって。でも、地元戻ったとしても追っかけられたでしょうねー。
田	うーん。どうかねー。東京にいなかったら、だけど、まーでもー、難しいところだな。
石	までもまだ16、17とまだ2日あるんで。
田	地元戻ってれば、じゃあ、いつ戻ってくるのって言って、まあ、16に戻ってくるということであれば、戻ってくるのを待ってたってこともあり得るしね。
石	それで逮捕ってことですね。
田	ま、その時点で逮捕の方針が決まっていたかというのはわかんないけども。ま、言ってるようにさ、ここでもあの日さん言っただけで、水谷の5000万を認めればね、逮捕しないっていうのもあったかもしれないし、そういう考えもね。うん。ま、でも、逮捕を免れるために、そんなうその供述したってしょうがないからー。うん。
石	はい。拘置所生活、田代さんも、特捜部に逮捕されて、得難い体験だよって言ってたけど、ほんとに得難い経験ですよ。田代さんが言ったように、得難い経験でしたよ本当に。…辞職かあ。
田	うーん。ここへ来るとあらためてそういうこと考えちゃうよね。
石	考えますね。
田	普通のこの一いろんなね、国会の政治活動してればね。忙しくてそんなことは一日。ま、ほっとした時に思い出したりするかもしれないけど。ま、普段は忙しさに追われるでしょ。改めてここへ来るとなんか現実味が帯びてくるよね。
石	ま、失職については、特にそうですね。覚悟はしてるんで、ただ、結果に至るまで、どういう主張をして、あの一支援者の人の気持ちをできるだけ酌んで…。でも、水谷建設、ほんとに許せないですね。
田	あの一。まー、僕は石川さんにはいろいろ言っているけど。
石	はい。
田	そらやっぱり、この捜査やってる検事だから、彼らの言うこと全部うそです、うそだと思いますということは、公にはなかなか言えないじゃない。
石	はい。
03:18:36	田 だからまー、そういうことは言わないけどもー。しかし、一方で、こういう、石川さんの話聞いてればさー、そらそういう事実がないとすれば、間違えるわけがないからね、意図的に嘘つくしかないわけだよ。
石	もしくは、ほんとに大久保さんが5000万もらってるか。

田	でも、それにしあって、石川さんと大久保さんをすり替えて言っているということでしょう。
石	うん。そうなんですよ。
田	だから、そんなことをなぜするのかね。
石	そこが分かんないんですよ。なぜ、私っていう人間をあえて登場させるのか…。
田	そこは本当になぞだよ。
石	なぞですね。ほんとに。野中が動いてんじゃないかって…
田	間違えるわけないからね。
石	はい。しかも、顔に特徴のない人が、みたいな…会った時にわかるかどうか分からないのって。はっはっは。だって、5000万。間違えたらどうすんだっていうね。5000万渡すのね。
田	はっはっは。ほんとだよ。
石	冒険で出るわけですよ。今のところ、やっぱり、水谷、あそこまで。
田	いや、どうかわかんないよ。そこも、いろいろ意見があるみたいだよ。やっぱり。書くべきなのか、書くべきじゃないのかっていうね。結局はさー、あの一、やっぱり最終的には、水掛け論になるじゃない。石川さんは否定して、向こうは絶対間違いないって言って。石川さんはいや、絶対にもらってないって言って。だから、どっちも言いつばなしになっちゃって、たぶん裁判所も、その5000万があるかどうかはともかくとか言って、あの4億の不記載は認められますって話になって、そこは認定しないみたいだね。
石	だから吉田さんがよく言ったのは、泥仕合になるよっていうのはそういうことですよ、証人連れてきて。
田	そうそう。
石	その時点で、私が頑強に5000万認めてないから。
田	そうそう。で、たぶん、川村だって、あれだけ調書取られてるわけだから、法廷呼んだって、多分、もともとどうそつづつもりでついでにだしたら、法廷だつてうそつぎますよ。
石	ま、そうですね。
田	だから、それを弁護士が、どれだけ弾劾できるかっていうのが腕の見せ所だよ。
田	じゃ、いこか。時間なんか、今日、何かニュースで3時間っていつてるけど、大丈夫？あんまり遅くならないようにしますけど。
石	そうですね。
田	でもね、でも、もう一回来るの嫌でしょう。

	石	もう一回来るのは嫌です。
	田	嫌でしょ。じゃ、今日終わらしちゃおうね。
	石	7時間とかには、かからないですよ。
	田	ならないならない。もう、そんな長くないから。 (沈黙)
03:21:40	田	えー「私は、小沢先生とこのようなやりとりをしたのが、平成」えー「16年10月下旬ころの」点、えー「りそな銀行衆議院支店の担当者に対して預金担保貸付の申込みをする前であり」「申込みをする前であり」えー一点、「場所がチュリス赤坂の小沢事務所であったことは覚えていますが、このころは、毎日のように、小沢先生と会って、いろいろなやりとりをしていたので、「やりとりをしていたので、先ほどお話ししたやりとりが」、「やりとりが」あー、(聴き取り不能) あっそっか。こういうやりとりはその、二人だけだったのかな。だれか同席者がいたかどうかというのもよく覚えてないんだっけ。
	石	覚えてません。
	田	覚えてない。で、チュリス赤坂の中のどこかというの。小沢先生の部屋。
	石	やっぱり部屋ですよ、やっぱり。朝の報告の時も、一人一人だいたい入るんで。それが大久保さんと一緒だったかというの、ちょっと覚えてないですね。
	田	うん。小沢先生は、毎日チュリス赤坂に来てたわけ。そのころ。
	石	うーんまあ…
	田	毎日っていうか、毎日のようにっていうか。
	石	まあ、そうですね。
	田	毎日のように・・毎日のように、チュリス赤坂の小沢事務所、「小沢事務所でお沢先生と会って、いろいろなやりとりをしていたので」だ。 「やりとりをしていたので」、「やりとりをしていたので」の後だ。 「やりとりをしていたので、小沢先生が、どのような用事でチュリス赤坂の小沢事務所に」えー、「来たときのことかということや、同席者がいたかどうかといった細かいことについては」あー「覚えていません」と。ごめん。「ついては」「細かいことについては、思い出すことができないのです」と。「ただ、以前にもお話ししたとおり、私が、小沢先生に無断で」
	石	そこ入りますか。やっぱり。
	田	これはいいんじゃない。そこは。だって、報告したこと自体は、そもそも、事実っていうふうに言うんですよ。だから無断でそういうことをすることはできないので、先ほどお話ししたような報告をしていることは間違いな

		いんですってことは、前の調査にもあるからいいと思うんだけどねー。
	石	はい。あらためてつとなるとやっぱドキッとします。
	田	はっはっは。「無断で」「私が小沢先生に無断で収支報告書の不記載を」、「などを決めたり、小沢先生を主債務者とする」ま「債務者」としようかな、「小沢先生を債務者とする借入れをすることを決めることなど出来るはずはありませんでしたので、これらの点について、私が」「点について」点だな。「私が、小沢先生に報告や相談をして、その了承を得たことに間違いありません」。終わり。あと1点だな。
	石	強い表現だとドキッとしますよね。
	田	はっはっは。でも前のあれは一個も出てないよ。はっはっは。
	石	そうだけどさー検事。もー…
	田	まあ、もうちょっとだけ、最後までいっちゃいませよ。最後の方だったな。
	石	はあー。生きてるってつらいですね。
	田	はっはっは。
	石	でもまたこんなこというと、また自殺、自殺のおそれありとかまた書かれるしー。あれ、もう参ったよなー、ほんとに。
	田	はっはっは。でもなんか言ってたじゃん。その一、自殺のおそれありとかいうことをでっち上げて、検察が逮捕したんじゃないかみたいなきー。
	石	ちゃんと冷静に答えてるでしょー、私。
	田	いやでも私もね、飛行機落ちたらいいとかってあちこちで言ってたから、検察は検察で、ほんとに心配したんじゃないんですか、みたいな。
	石	いやだから検察は、弱気な発言したのは事実なんで、あの一、それは検察の判断だと思いますって。そのことを、私がなんか強がっているつもりもないなって思った。だって、弱くなつたの事実だから。ただ、逮捕の事実として、自殺のおそれありっていうのはいき過ぎじゃないかっていうのは、マスコミの判断、周りの人の判断だから、元気な姿見て。
	田	だけどさ。実際さー、あの一、国会議員がもし自殺されたら、ほんとに大変だからさ。松岡さんもあったけど。ほんとに大変だから。
	石	はい。
	田	はっはっは。
	石	いや、でも、さすがにね自殺までとは、2人は、取調べしててね、落ち込んでると思ったとは思って、これから帰って首くくるなんていうのは全然。
	田	まあそれはね。まー、そういうぐらい報告はしないと。やっぱり、スポーツマンだしね。そんなことでね、あの一命を絶って現実逃避するなんていうことは考えがたいでしょーよ。うーん。

	石 はい。 (沈黙)
03:30:43	田 えーっと。 (沈黙) 田 えー「さらに、私は、平成17年3月下旬ころ」、えー「小沢先生に対し、陸山会とか、4団体の平成16年分の収支報告書の内容を説明するにあたり、小沢先生の面前に」、えー「陸山会ほか4団体の収支報告書案と」、えー「案と、各団体の収入総額」点、「支出総額及び翌年への繰越額などを記載した収支一覧表」、「一覧表とを」だ。な。「とを並べ」、等じゃない「とを」だ。な。何々と何々とをの「とを」。「とを並べその収支一覧表の記載に従って、各団体の収入総額」点、「収入総額」点、「支出総額及び翌年への繰越額を読み上げて報告」、「読み上げて報告したのですが」うーん。うーんと。 石 それは16年の年末ですね。 田 え、17年3月下旬ころでしょ。最後出す直前の時だよ。ってなってるよ。 石 あーでも、16年末ですよ。報告は。 田 で、じゃあ、できない、できてないじゃん。収支報告書が。 石 できてないですけど、あの一、その一、あれの日付ってどうなっていました。あの一、一覧表の日付って。ちょっと私記憶ないんですけど。 田 あれ3月何日じゃなかった。 石 いや、実際に作成したコンピューターの日付ですよ。 田 あれは3月何日だったよね。あの収支一覧表でしょ。 石 はい。 田 あ、あれだよ。あの一、そうじゃなくてエクセルのさ、一覧表は12月何日になってたって確認したじゃん。 石 エクセルのね。 田 で、収支一覧表は、分からなかったんだっけ。 石 結局、検事、その12月、その、提出直前に、あの一、そっか。結局大久保さんの・・
03:35:14	田 あ、そうそう、だからそれにあわせただ。ここは、で、その時は、なんにも具体的なことは説明しませんでしたって言ってんだから、いいんだよ。うん。説明しませんでしたと。で、なんとすれば、私はもう10月にね、一回説明して了解を得てるんだから、その既定路線として、当然先生も了解しているものだと思ってましたっていう石川さんの認識にしちゃおうよっていう風にしたんじゃない。 石 はい。でも、本当は12月なんですよ。 田 ほう。

	石 あの、収入、パーティー券、収入は12月、ま、もう20何日ぐらいから、もう入らなくなりますから、だいたい今年後、何件、これぐらい入ってこうですってやってるんですよね。だから、あの時、今更こんなこと言ってしまうのがないんですけど、大久保さんの供述にあわせただよ、西松事件の時の。実際3月なんてやらないですよ。提出前っていうのは。 田 うんうん。でも、そこは具体的な話してないから、あの一、12月だろうが3月だろうが変わんねーからさ、また変わると、なんでじゃあ変わったのってなっちゃうからさー。めんどくせーからさ。うん。 石 …分かりました。なんか、忸怩たる思いが…まあまあ、仕方ないです。
03:36:14	田 いや、ほんとそうだよ。その一むしろ12月にしたほうが、説明受けて1か月も経ってないんだから、先生だって分かんないわけねーだろってことになりがちだよ。うん。うん。 石 あー、はい。 (沈黙) 石 ま、概要を説明したってことですよ。 田 うん。だからいいんだよ。細かいことは報告してませんって。マスコミ向けには。えー、「報告したのですが」あー、「深沢八丁目の土地の購入資金として、小沢先生に用立ててもらった4億円の収入とその土地を買った」。ごめん。これは「その土地の購入にかかる支出」だ。な。「その土地の購入にかかる支出については、平成16年の10月に小沢先生に了承してもらった規定路線として、収支報告書に記載しないことを前提にして」、うーん。了承してもらったと、「了承してもらったと思っていましたので」点、「それを規定路線として収支報告書に記載しない」、「それを規定路線として収支報告書に記載しない」… 石 勝場さんとか原さんは、もう騒がれないからいいよな一。 田 はっはっは。あれやっぱキャラの違いなんかね。小沢先生と鳩山さんの。 石 そうですね。副部長にもよく言われましたよ、捕まっている時に、と言っといってください。 田 なんかね。ある一般人が言ったんだけどさ、ま、全く法律家でもなんでもないんだけどさ、やっぱ鳩山さんとこの小沢さんの違いはね、鳩山さんのお金はさ、 (電話音) 田 はい、田代でございます。はい。はい。あ、今、調音を口授してますので。 石 お怒りの…。 田 お怒りじゃない。あの、どうなってるのって。 石 なんか、すごい私が抵抗してるように思ってるんですか。

	田 うん。なんか、たぶん調書がとれなくて、と思ってるかもしれない。ま、もう（聴き取り不能）えーっと。（聴き取り不能） （沈黙）
03:40:23	石 小沢さんと同じ。あ、まだ3時間半か。小沢先生も同じか。 田 うん。そうだね。へっへっ。えっとね、「思っていましたので、それらについては、収支報告書に記載しないことを前提として」えー、「4億円の収入と土地の購入にかかる支出を除いた収入金額と支出金額などを」 事務官 （聴き取り不能） 田 「とを除いた」、「などを」だな。いやごめん。「とを」でいいな。「とを除いた収入金額と」うーん、「収入金額と」、ちょっと待って「収入総額」だな。「収入総額と支出総額などを説明したのです。」「問」。えーっと。小沢先生が昨日調べ受けたっていうのは、もう知ってるの？ 石 はい。一昨日ですよ。 田 15日か。えー「小沢代議士は平成22年5月15日の取調べにおいても」えー点、カギ括弧してね、「平成16年分の陸山会の」「陸山会の収支報告書の不記載」ナカボチ「虚偽記入について」点、「石川から報告を受けたり了承をしたことはなかったし」えー「4億円の定期預金に担保貸付についても、その必要性について説明を聞いたことはなかった」丸「旨供述しているが」うーんと。「しているが」あー、問いが、難しいな。「しているが」っていうんですよ。 石 略しますか。略しますか。そんな問、いらんじゃありませんか。 田 いや、これについてどう思うのかっていうことは、どういう、どういうふうにし川さんが答えるのかっていうのは、やっぱり検審は興味あるところなんだよ。 石 あー… 田 だから、それはさっきいったように、ちょっと逃げただけだよ、うん。 石 はい。 田 「供述しているが」 石 どう思うか、か。 田 「どう思うか」、「どう思うか」。「供述しているが、どう思うか」 石 いや、あの地獄の20日間を思い出されるな。 田 はっはっは。「供述しているが、どうか」にするか。「供述しているがどうか」。「答」。えー「私が、小沢先生に言ったことを」、「言ったことについて」だな。「ことについて」点、「小沢先生がどこまで記憶しているか、また」点、「またどこまで」あーごめん、「また、どのように解釈したかについて」、ついてついてになったな。「解釈したかは」えー「私にはわかりませんが、

	私は」、「私は、私の記憶に基づいて事実をお話しています。」と。えーっと、で、次のところ。え、「なお、私は保釈になった後」、「保釈された後」、んー「保釈された後」おー、「マスコミなどに対し」えーと、「マスコミなどに対し、収支報告書の記載などについての」、「私自身の犯意を」、あ「犯意や」点、「小沢先生に対する報告」点、「報告了承などを否定している」と解釈されかねない」 石 あ、ありがたいですね、そこ。 田 「解釈されかねない」うー「解釈されかねない発言を」おー「したこともありました、私も」 事務官 「私」 田 「私も」 事務官 「も」 田 「私も」、あー「私も」、「私は」主語があるから「私も」。「ありがとうございました、私も、国会議員として」えー「政治活動を行っている以上」うー「支援者に」、「支援者向けの」だな。「支援者向けの発言をせざるを得ないことをご理解ください」ぐらいにしようかな。 石 はい。 田 「ご理解ください」 石 吉田部長にまた怒られるかもしれませんが。吉田副部長に。 田 いや、大丈夫。こういうことをちゃんと分かって言っただったらいいのよ、彼は。 石 はい。 田 うん。じゃなくて気が変わってさ、俺は何も悪いことをしていないとか犯罪を犯してないとかいう気持ちになってると許せなくなっちゃうんだよ。 石 なるほど。だけど、吉田副部長にお伝えいただきたいのは、私も、その、ものすごいその、あの当時からわかっていたと思っていますけど、こんな犯罪を犯して俺大丈夫なのかと思ってやったようなことじゃないっていう、それが犯意がない、意図がないって、だから小沢さんから4億円預かってそれを記載しなかったなんていうことを、あの一、どっちの4億円かは別にしてね、その収支報告書の不記載を、全く記載してませんなんていうのを言ってるわけじゃないんで。 田 だからさ、あれをさ、ぼっと読むと、ぼっと思うのは、あ、また書き間違いですって言いたいのかっていうふうに読めるわけだよ。 石 はい。ま、後は、あの一弁護士に法廷戦術は任せますけどね。 田 うん。そりゃね。うーん。ちよつとりあえずこれ、印刷してくれる。 事務官 はい。（聴き取り不能）用紙でいいですか。
--	---

	田 用紙でいいよ。
	田 じゃ、ちょっと時間の節約のために、そんなに大幅には変わらないでしょ。うん。
	石 はい。
	田 うん。じゃ、俺、これでもう、本人おおまかに、これで多分OKですからって報告してくるから。
	石 はい。わかりました。ちょっとさらっと見してもらって。すみません。すぐあれしますから。
	田 だから、いいよ。読んでてもらって、おれ、その間に同じものを。
	石 ああ、わかりました。
	事務官 2、2枚…
	田 それよりもやっぱあれかな。読んでもらってからの方がいいか。で、時間大丈夫。
	石 大丈夫です。まだ。
	田 じゃ、読んでもらってからのいいや。で、ちょっと抜けてくるから。今、ちょっと内容確認してますって。
	石 あれ、もう副部長は直属の上司じゃなくなっちゃったんですね。
	田 ま、一応、形上はね。
	石 あ、だけどこの件に関しては…
	田 この件に関してはやっぱり、判決がでるまで。はっはっは。
	石 えー。もうヤメ検になって応援してくださいよって。
	田 はっはっは。
	(扉の開く音)
	田 ちょっと読んでください。
03:50:29	事務官 よいっしょ。じゃ、こちら、えーとこれで読んでください。
	石 また、この調書書くと思わなかったですよ。職業国会議員になってるのは、言田さんは氣にくわないだろうな。
	平成22年2月4日、政治資金規正法違反の事実で起訴されて被告人という立場にあり、したがって、取調べに応じる義務がないということは弁護士から説明を受けましたし、本日、検事からも同様の説明を受けて、その内容を理解しました。小沢一郎衆議院議員の政治資金規正法違反事件について、東京地検が行った不起訴処分に対し、先日、検察審査会が起訴相当の議決をしたようですので、本日、任意に、小沢先生の関与に関する点を中心に再度お話しいたします。これまで、検事に対し、陸山会の平成16年分の収支報告書に必要なことを記載しなかったり嘘を記入した理由、そのことについて小沢先生に報告して了承を得ていたこと、陸山会で深沢八

	丁目の土地を購入するに当たり、定期預金担保貸付を受けることについて小沢先生に説明して了解を得たこと、陸山会の平成16年分の収支報告書案が完成した段階で、その提出前に、小沢先生に対し、その概要を説明して決裁を受けたことなどについてお話してきました。私がこれまでお話ししてきたことは、全て、私の記憶に基づくことであり、その点については現在も変わりありません。まず、陸山会の平成16年分の収支報告書への不記載・虚偽記入の理由については、私は、深沢八丁目の土地を購入するに当たり、小沢先生から提供を受けた4億円につき、小沢先生が政治活動の中で何らかの形で蓄えた簿外の資金であり、表に出せない資金であると思ったため、これを平成16年分の収入として収支報告書に記載しませんでした。
03:52:05	石 ここが一番ひっかかるんだよね。はあー。ほんっと、ここが一番。 (沈黙)
03:54:20	石 はあー。いいです。はあー。 (沈黙)
03:56:12	石 いや、小沢先生も起訴されたら、大変なことなっちゃうわけですよー、事務官 そうですねー。やっぱ。 石 ここきて、これを目の前に見せられると氣力がなくなっちゃいますよ。戦う。 事務官 でも、どうなんですかね。仮にね、そうなった場合は。 石 はー。今日は泊まりだ。
03:57:03	(扉の開く音) 田 お、もう読みおわった？ 石 もう、抗う氣力が… 田 はっはっは。抗う氣力が無い。 石 抗う氣力が無い。 田 後1個ねー、なんかこれを入れておいてくれるっていうからさ、入れるけど、どうせ否定のあれだよ、要するに報告・了承では、実際は報告・了承ではなくて、小沢先生から指示をされてやったんじゃないかということ、もう一度聞いて、確認してくれるっていうの。 石 はい。 田 だからその間は入れるけど、いやー私は、あくまでね、報告して了承を受けているけども、指示は、先生の方からね、積極的な指示があったということはありませぬっていうの、ぐらいいいでしょう。 石 あーはい。それは結構です。 田 うん。

	石 いや、しかし、あの一。んー、この、なんらかの形で蓄えた海外の資金だとか表に出せない資金だと思ったとか…
	田 いや、これ、なかなかうまい表現だと思うよ。自分で、自分で言うのも何だけど、なんだが分かんないじゃない。結局。
	石 結局なんだか分かんないです。
	田 そう。はっはっは。
	石 いや、私自身は一、っていうか、言いたいのは、そういう疑問を持ってたってことは無いんでー。
03:58:08	田 っていうかさ、俺はね、そこ責められているのは、お前ね、こんなこと本当に言ってるのかって言うわけよ。いや、言ってますよって言ったらさ。
	石 はい。
	田 そんな漠然とした理由でね金隠すかって。はっはっは。
	石 あー。
	田 え、だって本人がそういうんだからしょうがないんじゃないですかって。はっはっは。それでだからさー、あれだよ。だからほんとに水谷建設じゃねーかとかいろいろ話になるんだけど。
	石 はい。
	田 この、要するに海外、なんだか分かんない海外のお金でね、ひょっとしたら別に隠して、隠す必要がない金かもしれないってことだろうっていうから、いや、本人は分かんないから、その可能性もあるし、表に出せないのかなーとも思ってるし、だから念のため隠したんじゃないですかねーという、お前、そんな理由で隠すかみたいな。はっはっは。
	石 しかし、それはほんつとに。何って言うんだろ。までもこれも、水掛け論になっちゃうんですけどね。
	田 うん。うん。えーっと。
	(沈黙)
03:59:25	田 じゃあ、もうちょっとだけやるから。もうちょい行こな。あと、報告・了承を得たことに間違いありませんで、その後だな。えー「実際は」えー「収支報告書の不記載」ナカボツ「虚偽記入」あ、「不記載など」でいいや。「不記載などについて、小沢代議士からの積極的な指示があったのではなかったか。答、さきほどからお話しているとおり」点、「私が」あー、「小沢先生に無断で」、えー「収支報告書の不記載に」、おー「不記載などを決めたり、小沢先生を債務者とする借入れをすることを決めることは出来ませんが」、「出来ませんので」、「出来ませんので、私が小沢先生に」、「私が」はちょっと重複だな。「私が」は撤回。「出来ませんので、小沢先生に報告して、その了承」、「了承は得ましたが」報告や相談をして、その了承は得

	ましたが、小沢先生の方から、積極的な指示があったということは、ありませんでした。」
石	検事、一点だけ。たまに私の主張も、一つだけ。
田	うん。
石	この報告のことね、本当にその短い時間なんですよ、ここが問われてるわけですよ。短時間でとか、極めて短い時間でとか、何分とかかは入れられないですかね。何文字かは。この4頁のこのところだね、あの一…。
田	あ、この3月のところ。
石	そう。それがほんとの話だし。検審もやっぱり、そこでそれだけだと、すごいじっくり小沢さんが見てるような印象を受けると思うんですよ。私も、報告や了承をしませんでしたなんてことは言わないで、公判でもそこを変えるなんてことはできないですけど、実際、小沢さん、こうやって椅子に座ってて、並べられて、あーあった、あったっていうのが実際にすから、そこはやっぱり入れてほしいっていうのはありますね。
田	うんうんうん。
	(沈黙)
田	そしたらね、4頁目の…
石	すみません。そこだけです。
田	そしたらさ、そこにいれよう。3月に小沢先生に対し、陸山会の収支報告書の内容を説明するにあたり、「短時間ではありましたが」と。
石	それで、入れてください。
田	こういうふうに入れればいいや。うん。うーん。
石	できればもう「3分ぐらいで」とか時間入れてもらえるとうれいなんですけど。
田	だけど、それは根拠がないんでしょ。2分か5分か10分かかってのは。
石	はい。
田	うん。だからまあ、「短時間ではありましたが」って。さらに「私は17年」、「短時間」、んー、「短時間でしたが」点、「小沢先生に報告しました」で一回切ろうか。が、が、になるから。「短時間でしたが」で、その、下へ並べ「報告しました」と。
04:04:40	石 提案に賛成してくれた。はっはっは。
田	賛成よって言うわけじゃないけどさー。で、「その際、私は」、「その際」点、じゃ、それで印刷して。あー聞き入れちゃったよ。「短時間で」を。ま、もともと短時間って言ったもんな。
石	はい。全然嘘言っていないですよ。それ。それこそ、こうやってそっくりかえってこんな感じで聞けるわけなんです。だから、だけど、やー、自分とし

	ては、ま、確かに同じ証拠とはいえ、またこれ読んで起訴議決かと思うと、やっぱり嫌な感じしますね。
04:05:30	<p>田 あの一。でもさ、逆にこれあれだよな、あの、例えば、報告・了承してませんと。しかも定期担保貸付、預金担保も自分でやりましたっていうふうに、もしなったら、さっき言ってるように、起訴決議、強制起訴の可能性が高くなるよね。</p> <p>石 やっぱそんなもんですかね。</p> <p>田 だってあんた、その一、あなたが審査員だったらどう思う。それ読んだら、もう絶対権力者の面目躍如ってふうには見えますよね。</p> <p>石 うーん。いや、否認はしないでですけど。</p> <p>田 だから、いや、俺はね、絶対強制起訴、例えば検察庁でできれば起訴したいとかね、それがかなわなくても必ず強制起訴をして、小沢一郎を裁判にかけたいと、僕は思っていないわけ、前から言っているようにね。だから今置かれた局面でどうするのがベストかっていうことなんだよ。やっぱり。はっはっは。</p> <p>石 そうですねー。</p> <p>田 はっはっは。</p> <p>石 いや、調書書くとは思わなかったですよ。は一。</p> <p>田 はっはっは。</p> <p>石 裁判どうなっちゃうんですかね。まあ今は、検察審査会の心配しないといけないですね。</p> <p>田 でもまあ、それはさあ、はっきりいって石川さんの問題じゃないからね、検審はね。</p> <p>石 いやでもまあ私の問題でもありますけどね。私の、やっぱり、供述がどうかってことです。この、嘘っていうのが本当にね、心にぐさっとくるんですよね。本当に。</p> <p>(沈黙)</p>
04:08:23	<p>田 ちょっと日本語おかしいところあったら言ってね。</p> <p>石 いや、全部否認したいですけど。できれば全部否認したいですけど。</p> <p>田 はっはっは。</p> <p>(沈黙)</p>
04:09:30	<p>石 はい。</p> <p>田 じゃ、いいですか。内容をもう一回(聴き取り不能)日本語変だと恥ずかしいから。</p> <p>石 私からしたら、全部変に思えるんですけど。</p> <p>田 え。うーん。</p>

	<p>石 小沢先生、不起訴になった時点で、ほっとしたんですけどね。</p> <p>田 それはだからさ、あの石川さんの供述がさ、やっぱり功を奏したんだよ。あれ完全に全員が本当に完全否認でいったらさ、本当に起訴されちゃう可能性があったからね。</p> <p>石 うーん。</p> <p>(沈黙)</p> <p>石 は一。</p> <p>(沈黙)</p>
04:12:01	<p>田 よしっ。はい。</p> <p>石 疲れたな。またこれを書くのかー。</p> <p>田 はっはっは。つらい。</p> <p>石 つらいですよ。またマスコミに追われるんですから。でもやっぱり全部加害するのは、小沢さんの方が先に。</p> <p>田 それはよかったよね。</p> <p>石 だから。はい。石川知裕ですっけ。忘れちゃった。</p> <p>事務官 1行空けないでください。</p> <p>田 空けないでね。あ、そうだ、署名をした後にあれだけど、ちょっと一点確認しておいてくれて言われたことがもう一点あって、その小沢先生自身とかさ、さっきのに関連しているんだけど、小沢先生の弁護士を通じてとか、石川さんのこれまでの供述について何かその指摘とか問い合わせとかって受けたことはないっていうのでいいんだよな。あった。つまり、あの、調書が開示されてるじゃない。身柄取ったときの調書が開示されて、それを当然小沢先生側の弁護士なり小沢先生が読むよね。で、まあ、普通、まあ、短絡的な予想をする人はさ、それで小沢先生が怒ってね、石川なんでこんな供述をしているんだ、と言って怒って、本人もしくは弁護人を通じてね、石川さんの方に圧力をかけているんじゃないか、ということをお心配している人がいるんだけど、それはないってことでよかったんだよな。</p> <p>石 いや、ありません。はい。</p> <p>田 うん。問い合わせもない。これはどういう意味だ、とか、調書の。</p> <p>石 ありません、もう、みんなプロですから弁護士。もう取られてしまったものは仕方ないと。</p> <p>田 うんうんうんうん。なるほどね、じゃあいいやいいやそこは。</p> <p>事務官 一応ご印鑑をお持ちですか。</p> <p>石 いや、もってないですよ。</p> <p>田 はっはっは。指印で、じゃあ。左手の人差し指で。指印を調べといて。</p> <p>事務官 こちらと、え、こちらですね。あと、この(聴き取り不能)ページです</p>

ね。

田 判子押すところ忘れちゃうね、しばらくやってないと。

石 いやもう思い出したくないですよ。吉田さんに言っといてくださいよ、続ける方が大変ですって。おっしゃってた通りですけど。

田 うん。そうだよな。

田 三ちゃん、ちょっとそれ一回しめてくれる？

事務官 はい。

田 でちよつと、また一、あともうちよつといい？時間。何点か確認をしてほしいことがあるっていうふうに言っている人がいるから。たぶん水谷建設のことだと思うんだけど。まあもうちよつとつきあって。

石 はい。え、別な検事が来るんですか？

田 いや、僕、僕。僕が。ここで吉田正喜登場したら嫌だろ。はっはっは。

石 ちょっと心理的に、心理的に重いですよな。

田 じゃあ一号室へ、とか。はっはっは。

石 そんなに長い時間にならないですよな。

田 ならないならない。だからもう、何時にしようか、6時には行かせてくれ、とかにしようか。あと一時間くらい。

石 はい。

田 うん。なんかないの。用事とか。

石 いや、あの、6時過ぎからちよつと用事ありますけど。

田 何か、もっともらしいこといえないの？

石 いや、あの、国会議員との待ち合わせですけど。

田 国会議員との打ち合わせのために、議員会館にしようか、戻らないといけない。ふうん。ええと、どうしようか。国会対応についての打ち合わせ、っていうのは、変。

石 いや、そんなこと。前から約束してるんで。

田 いや、何かだから、違う、僕の説明用に。

石 あ、いや、ちょっと言えないですけど、もともと国会議員さんと、あの、約束していたことなんで。

田 いや、だからいいんだよ。本当のことはどうでも。僕が、石川議員は6時まで、6時には地検を、こういう用事があるって議員会館に行かないといけないんで、6時にはもう出ないと行けないんで、と。

石 いや、議員会館じゃないんですけどね。ちよつと国会の近くのところなんですけど。

田 うんうんうん。いや、俺が説明して、じゃあ終了だ、といって了解をとるための説明を、何かもつともらしい説明を何か。

石 ええ、任意だからいいんじゃないんですか。

田 まあそうなんだけどね。何かもつともらしい説明を。だから他の国会議員と、もっと内容はそんな本当のことじゃなくていいし、抽象的でいいんだけど、何々についての打ち合わせをする約束をしてあると。

石 いや、参議院選ですね。

田 参議院選についての打ち合わせ。

石 はい、北海道の議員さんとの打ち合わせ。

田 じゃ、(聴き取り不能)

事務官 署名(聴き取り不能)

田 俺が署名許否したりして。

事務官 はっはっは。

田 どうぞ(聴き取り不能)

04:16:14 石 はい。水谷建設で私にまだなんか聞くことがあるんですか。

田 ね。何か聞くことがあるのかって感じだよな。

石 大久保さんについては、仕方ないっていうのがわかりました。やっつ、

田 はっはっは。だけどさ、ああいう事実っていうのはさ、金を渡した方も少なく言いたいんだよな、普通は。

石 うーん。

田 1億渡してたって1千万円って言いたいんだよ、普通は。

石 うん。でも、弁護士は大久保さんは、絶対に5千万円ないって言ってるって。ほか、もらってるけど。

田 うーん。だから、まあ、合計900万のところをなぜ1億なんていうね、ことを言うのかと、いうところがまた不可解なんだよ。

石 いや、野党時代の小沢さんにそんなの渡すのかなあ。

田 たださあ、小沢先生とか大久保さんとか高橋嘉信が、どういう風なゼネコンの発注について声を出したかっていうのは知らないけど、俺は。

石 私もそれは全くわかりません。だから、最初たとえ山本さんにしても、私に話してもわからないから結局。だから私も、もう記憶とんでたでしょ。私はもう、大久保さんから紹介されて一緒に飯にいったとばかり思ってたから。確かに言われてみたら、ソニーの盛田さんから電話かかってきて、それで結局引き合わしたただけだったから、記憶が飛んじゃってたと思うんですよ。

田 うん。その、まあ、そこは分からないんだけどさ。しかしね、あの一、各東北地方の、特に秋田県岩手県の大工工事については、やっぱり各色んな地元業者もそうだし、東京のサブコンもそうなんだけど、やっぱりゼネコンのどこに営業に行くじゃない。鹿島とか大成とか、西松とか清水とかね。そう

	<p>するとやっぱりさ、入りたければ、やっぱり小沢の事務所に行って、高橋や大久保の了解を得てこい、と。あいさつに行つてこい、と言われてるのは事実なのね。</p> <p>石 ええ、それは否定しません。それで、あの、まあ私もさすがに、マスコミにむかっつては、「そんなことはありません。」て言うしかないですけど、それは否定しません。そして、高橋さん実際もうものすごいゼネコンきてましたし、大久保さんにもきてましたよ。ただ、結局それが、あの、小沢事務所がどれだけ国交省に影響あつたかという、これはもう検察も、ないっていうのはわかっていると思うんですよ。結局、鹿島が民民でやっていることですよ。そこでとれなかったところに対しては、小沢さんが、事務所サイドが、駄目だって言っているから、お前のところ取れなかったよ、と。だから、ダシにされているのも事実ですよ。</p> <p>田 そうだね。それはあると思う。うん。</p> <p>石 それと同時に、あの、私は高橋さんと大久保さんがどういう裁定を下したかとか知らないですけど、あの、自分たちの意図しているところがいつもやれているとは限らないんじゃないでしょうか。</p> <p>田 うん、うん、うん。まああとは、その、小沢先生を、まあ、もう、虎の威を借りるじゃないけども、小沢先生を盾に、小沢先生の名前を使つてね、まあ、大久保さんですらあれで金もらっているんだから、高橋さんなんかもつともらつてるよ。</p> <p>石 高橋さんはもらっているでしょうね、やっぱ。あんな家建たないもんなあ。</p> <p>田 はっはっは。なんか今、なんかさ、正義のなんか、ヒーローみたいな形でさ、</p> <p>石 新潮にね。</p> <p>田 連載してるけどもね。私はすべて真実を語ります、みたいな。</p> <p>石 でも、ほんとにね、納得いかないのは、水谷に関してはいっぱいありますよ。だって、それだったら私の選挙応援、来てるでしょ。</p>
04:20:28	<p>田 そうだねー。うん。本当に検審で起訴不当に落ち着いてくれたらいいね。</p> <p>石 いいですよ。いやあでも、どうなんですかね。今日ので、どう判断されるのかがすごい心配ですよ。まあ、あの今までの供述の域を出てないですから。それについては、あの…。</p>
04:20:43	<p>田 だから僕はこういう風にやるしかないと思うよ。で、これでね、別に絶対的権力者じゃないでしょ。うん。あの、ちゃんと石川さんは、逮捕されているときだけじゃなくて、こうやって話してるんだから。あの、別にその小沢さんの影響を受けて話をしてることは一切ないと、いうところを示すしかないよね。逆に後退させるっていうのは火に油だし、まあ積極的にさらに</p>

	<p>進めるってことは、まあありえないだろうし。うん。で、何も調査取らないってわけにもいかないし。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 だからもうマスコミ向けには、まあ今までどおりでいいと思うけど。あとはまあ、検審の中でさ、やっぱり8人というハードルがかなり相当高いということも期待するしかないよね。で、本当に、だからね、やっぱり1回目の議決と2回目で違うと思うんだよ、検審も。だって本当にこれで強制起訴して、小沢一郎っていう政治家を葬つていいのかっていう判断を迫られるわけですよ。</p> <p>石 うん。</p> <p>石 まだ検察の中には、私が5,000万を受け取っていると思つていらつしやる方がいるんだろから、それはちょっと残念ですよ。</p>
04:22:02	<p>田 いいんだよ。それはもう、そっちの方がむしろ多いくらいで。やっぱね、やっぱりさあ、なんて言うかなあ。そのところは、ちゃんと理解しているのは、俺ど吉田正喜じゃないかと思うんだよ。</p> <p>石 じゃあ、吉田さんにそこはありがとうございます、とお伝えください。</p> <p>田 あはは、吉田正喜もずるいから、そういうところは絶対公には言わないんだけど。あの事実はありませんね、とかは言わないんだけど。はっはっは。</p> <p>石 ほんとになー。何か私が、何か頑張った、みたいに言われるのが何か、全然、頑張っていないのに…</p> <p>田 何、仲間から。よくがんばつたな、みたいな。あん時、話さずに、みたいな。</p> <p>石 いえいえ、仲間からじゃなくて。あの、マスコミでね、石川、ここだけは認められないか、ここは死守した、みたいな。</p> <p>田 あはは。</p> <p>石 いや、私の性格、2人はよく見ているから。</p> <p>田 うん。それはやっぱりね、あの、分かってますよ、そりゃ。うん。</p> <p>石 だから私、田代さんにもね、吉田さんの個人的な誹謗中傷なんて一つもしてないですからね。</p> <p>田 うん。うん。今もうあれなの。あの、法案がずっと強行採決に突入したんですよ。</p> <p>石 そうですね、はい。</p> <p>田 今週は国会、今止まっているんですか、少し。</p> <p>石 いや…でもちょっとわからないですね。政倫審受けてるからから、やっぱりちゃんとやるんじゃないですか。</p> <p>田 ふうん。で5月末はちょっと無理なんですよ。</p>

石 あー無理ですね。

田 5月末決着ってのは。はっはっは。

石 なんか、その、国会日程とか聞かれると、また呼ばれるんじゃないかと思
ってときどきしちやいます。

田 いやいやいや、そんなことはない。全然。個人的な興味で聞いているんだけ
ど。うん。

石 無理なんじゃないですかね。

田 うん。それで鳩山退陣というふうな可能性もあるの。それはないの。

石 いやあ、どうですか。鳩山さんが退陣したら、小沢さんも退陣ですからね。
そら二人で意思疎通しているんじゃないでしょうか。(聞き取り不能)あつ
たってことは、ありましたから。これ、説明の検事は誰が行くんですか、検
審に。

田 え、主任でしょ。木村検事でしょ。

石 ああ、木村主任検事ですか。

田 うん。木村さんもだいぶやりこめられたよって言ったよ、検審で。

石 あーそうなんですか。

田 (聞き取り不能)不起訴の方向で説明をするわけだからさ。

石 ああ。そうですね。

田 よし。ちょっと行ってくる。ああ、いい、まだ。ちょっと行って、あれし
てくるから。それ持って行って指示仰いでくれればいいな。

事務官 あ、はい。

石 いや、人生つらいですよ。本当に。

田 はっはっはっはっは。

田 どうした。

事務官 これ(聞き取り不能)。

田 (聞き取り不能)これ、誰のサイン。ムトウ。

事務官 キャ、キャップ用です。

田 ああ、キャップ用にね。

事務官 はい。

田 ああ、わかった。これがそうか。

石 これがマスコミに出ないように。

田 はっはっは。すぐにマスコミに流れたりして。はっはっは。大丈夫大丈夫。
(扉の開く音)

石 はあー。あの、基本的に検事が変わるってことはなかったんですね。

事務官 え。

石 私、誰かに変わるのかなって思ってたんですけど。弁護士さんもなんか、

普通変わるじゃないかって言ってたんですけど。池田が蜂須賀さんだって開
いたんで。

事務官 ええ。そうですね。たまたま…そうですね、はい。蜂須賀検事田代検
事も、去年が特捜部1年目だったんで、基本的に異動はないんですけど。
(電話の音)

事務官 はい。(聞き取り不能)です。あ、どうも。え、住居?あ、あ、そうな
んですか、はい。あ、え、え、議員宿舎の住居ですか。あ、この前伺ったと
ころですか。はい。はい。はい。あ、そうですね。はい。はい。はい。いや、
わからないです。そうですね、聞いて、はい。わかりました、はい。

事務官 すみません、あの、住居って議員会館に変わったんですか。住居。

石 議員宿舎に変わりました、はい。

事務官 それ知ってたら教えていただいていたいいですか。

石 いや、ちょっと住所わからないんですよ。

事務官 あ、そうなんですか。

石 ちょっと今事務所かけて聞いてもらえないですか、石川からだって言って、

事務官 あー、じゃ、ちょっと、検事が戻ってからで。すみません、はい。

石 はい。

事務官 あーそうだったのか。ちょっと、すみません。もう一度、あの一悪い
ことしちやったんで、もう一回ちょっと、やり直し。すみません、ちょっと。

石 はい。

石 出る前に、もうマスコミから追われるんで。

事務官 ええ。

事務官 それでは保釈の制限住居の方も、じゃ変更というか…そうですね。

事務官 なるほど。はあ。うーん。

石 はあー。

事務官 先生、あの、今日、次のお約束っていうのは、場所はどちらで。

石 ええ、言わなくてもいいでしょう。

事務官 いや、お帰りは、お送りする場所まで僕が行かないといけないんで。な
んかホテルだと、やっぱりちょっとよくないみたいなんですよ。なんか報
道によると、ホテルで聴取されていることになっているらしいんですよ。

石 あ、そうなんですか。そしたら、ここから近いところでどこにしようかな。
ここから、永田町から離れず、永田町から離れず、いいところっていったら。

事務官 東京駅とか、っていうのは。

石 東京駅でもいいですね、はい。

事務官 東京駅でもよろしいですか。

石 はい。

	<p>石 ここですよ、逮捕された場所ですよ。</p> <p>事務官 そうですね。</p> <p>石 もういつまでマスコミに追われるかと思うと。もう。起訴されてね。逮捕されて起訴されて、もう。</p> <p>(沈黙)</p>
04:30:55	<p>石 主任のところに行ったわけですか。</p> <p>事務官 まあ、そうですね、はい。</p> <p>石 えー、もう、もう4時間半だからもー。</p> <p>事務官 そうですね。先生より長くなっちゃいましたね。</p> <p>石 はー。</p> <p>(扉の開く音)</p> <p>事務官 すみません、議員会館の住所が分からないみたいで…</p> <p>田 石川さん、ごめん、これ制限住居違反になっちゃうから。ええと、電話すれば分かる？</p> <p>石 はい。</p> <p>田 じゃあちょっと確認してくれる。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 ああ、じゃあうちの電話でかけてもらっていい。</p> <p>事務官 そうですね。</p> <p>田 これもう閉めちゃってるから。これはなしにして。あの、もう一回最初から。もう一回署名とって。</p> <p>事務官 はい。</p> <p>石 あ、石川です。お疲れ様です。上垣さんいるかな。はい。(聴き取り不能)</p> <p>あ、今、もう終わるんですが、宿舎の住所って…</p> <p>田 まだ終わらないよ。はっはっは。</p> <p>石 いや、もう終わるでしょ。</p> <p>田 なんて、これ切れちゃったんだろう。切ってないよね。</p> <p>事務官 いや、私、切ってないです。</p> <p>田 なんて切れちゃうんだろう。</p> <p>石 はい、はい、はい、はい。はい。赤坂、はい。2の、はい。10、はい。</p> <p>あ、はい。402ですね。分かりました。もうちょっとで終わります。</p> <p>田 ちょっとごめんなさい。</p> <p>石 あ、ちょっと待ってください。</p> <p>田 正式にさー、二丁目17番10号でいいのかな。</p> <p>石 二丁目17番10号です、はい。すいません、はい。赤坂議員宿舎だよ。赤坂議員宿舎。はい。</p>

	<p>石 えー、郵便番号107。</p> <p>田 郵便番号は知らない。</p> <p>石 ごめんなさい。東京都港区赤坂二丁目17番10号。赤坂議員宿舎。</p> <p>事務官 はい。赤坂議員宿舎でいいんですか。国会議員とかいららないんですか。</p> <p>石 そこまではまあ、赤坂議員宿舎でいいと思います。あ、しかも、衆議院赤坂宿舎が、あの一番間違いないと思います。</p> <p>田 あ、そう。じゃあ衆議院赤坂宿舎。うん。</p> <p>石 衆議院赤坂宿舎402号です。</p> <p>事務官 衆議院赤坂宿舎402号室ね。失礼しました。</p> <p>田 申し訳ない。</p> <p>田 これじゃあ制限住居違反になっちゃうぞって。本当は帯広に帰ってるんだろう、とかいって、言われたんだけど。</p> <p>石 あ、いや、でも毎回裁判所に裏面に出してるんですよ。必ず親に言って帰ってるんですよ。</p> <p>田 やりづらいね、それもね。</p> <p>石 はい。あ、それは分からないんですか、裁判所に出してるっていうのは、検察では。</p> <p>田 いや、わかんない、たぶん分かってると思う。それは。</p> <p>石 そうですよ。</p> <p>田 いや、だから違う、僕は間違えたっていうか、嫌みを言われただけ、本当は帯広に帰ってんじゃないかって。</p> <p>石 ああ。</p> <p>田 いや、だから…。これ、項番とか、また打つといてね、同じように。</p> <p>事務官 はい、はい。</p> <p>田 まず名前をね。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 まあ、ちよつともうちよつとつきあってもらうことにして。どうする、今5時25分なんだけど。</p> <p>石 6時には。</p> <p>田 50分か55分がいいですか。</p> <p>石 はい。そんなに大事なことがまだ残ってるんですか。</p> <p>田 いや、違う違う。水谷がね、本当はどうなんだっけとかさ。そういうこと言っているわけだよ。うーん。そこはもう変わらないんでしょ、だって。</p> <p>石 いや、もう変わりません。私逮捕されるとき言ったじゃないですか、菅谷さんと同じで、そこだけは冤罪だって。</p> <p>田 うん。それでね、その、中にはさ、じゃあ川村を呼んできて、対質といっ</p>
--	--

	<p>てね、ここに二人並べてね、質問をしようと、というような意見もあったりして。</p> <p>石 いや、私それ吉田さんに言ったら吉田さんがえらい怒ったんですよ。</p> <p>田 そうそう、だから僕は、石川さんはね、身柄のときから「川村をここへ連れ来てください」と。で、「私の前でも本当に同じことを言えるのかどうか、確認したい」というふうに言ってたから、仮にその一、そういった形でじゃあ対質しようということになれば、石川さんはぜひやってくれて言うと思いますよ、というふうに言ったんだけど、それはそれでいいよね。</p> <p>石 はい。かまいません。</p> <p>田 まあ、たぶん、今日、川村呼んでないところを見ると、ま、そこまではやめようってことになったんだと思うけど。うん。</p> <p>石 はい。だいたい今、私、川村さんっていう方が入ってきてても顔が分かりません。</p> <p>田 分からない。</p> <p>石 はい。</p> <p>田 はっはっは。そうなんだよな一。</p>
04:36:43	<p>石 田代さんが言ってたように、逮捕される前にね、13日の強制捜査の前かな。早く認めないと、忘れてただけだって、ここはおそろしい組織なんだから、何するかわかんないんだぞって、論してくれたことあったじゃないですか。</p> <p>田 うんうん。</p> <p>石 あそこまで言われて、いろんな個人のことも、金沢の件だとかも、いろんなもの出てきて、それでもなおかつ、私が認めていないわけですよ。</p> <p>田 うんうん。</p> <p>石 それでもまだ言ってるっていうのは、私は信じられない。</p> <p>田 はっはっは。うんうん。ま、だから逆に言えば、吉田正喜や僕の言うことが信用されていないっていうことだよ。上層部にね。</p> <p>石 あ一。</p> <p>田 俺も忸怩たるものがあんだけどさ一。</p> <p>石 あそこまで吉田さんにね一、徹底的にね一、やられて。</p> <p>石 ただ、大久保さんが少額でも貰っているっていうのはびっくりしました。その小遣い程度じゃないでしょ。</p> <p>田 はっはっは。そうだよ。うん。そのことも大久保さんとは話したりしてないんですよ。その後ね。</p> <p>石 していません。していません。</p> <p>石 出所した後、あの一、出所した後、動向っていうのは聞いてますけども、</p>

	<p>あの一、3月の西松建設事件の後は弁護士と一緒に大久保さんと会いましたけど、でもこの事件からは、何も会っていません。</p> <p>田 金沢とかそういうのはなんか、また相変わらず、迷惑メールとか送ってきたりしてるの。</p> <p>石 いや、もう1回、2回ありましたけどもうないですね。もう彼は、私が逮捕されて、もう目的は果たしたでしょうから。</p> <p>田 あ〜はん、はん。あいつは、あれは。江藤は。</p> <p>石 江藤さんは、電話何回かあって、また金沢さんをつるみそうですけどね。</p> <p>田 あ、そうなの。だってさ、1回けんか別れしてさ。</p> <p>石 そうですね、江藤さんに、この前、論したんです。あんたが相手できるたまじゃないから。</p> <p>田 はっはっは。あ、そう。</p> <p>石 はい。だから、お金をまた、ぶらさげられて、生活に苦しいから、ぶらさげられて、なんかやってみたいですよ。</p> <p>田 う〜ん、なるほど。</p> <p>石 もう逮捕されて、私もお金払っているし、逮捕された時点でもう、あの一、彼としては、もうなんというのかな、ざまあみろってかんじなんですよ。なんかメールも、なんか、これから禁固5年くらいですわとか、あなたも改心してがんばりなさいとかいって、ふざけたメールを。</p> <p>田 あの一、ガサの当日に、ふざけたファックスを送ってきたもんね一、あいつね。石川さんが逃げているような内容をね一。そうかあ。</p> <p>石 ほんと、川村さんくるならいいですよ、別に</p> <p>田 うんうん。ま、そんなことやったってね、川村さんね、あの一、たぶん川村も、もうひけないと思うから、仮にそれが事実と違ってもね。</p> <p>石 私、検事、吉田さんにも、検事にも言ってたじゃないですか、小沢さんや大久保さんが仮に貰っていたとしても、自分は絶対ないって。</p> <p>田 あの一、例えばさ、その一、ま、小遣い程度じゃなくて…</p> <p>石 それも一切ない、水谷から。</p> <p>田 ちゃうちゃう、石川さん貰ってないのはいいんだけど。あの一、例えば、大久保さん、前にも聞いたかもしれないけど、大久保さんが貰ったお金って言うのはすべて石川さんのところを通るっていうっていう頭でいるわけ。</p> <p>石 そう、そうですね、そのとおりです。</p> <p>田 そうなの。それは。</p> <p>石 実際、政治資金は、間違いなく私のところを通ります。</p> <p>田 裏の金は。</p> <p>石 通りません。だってそんなことは、あの一、大久保さんが900万貰って</p>
--	--

いただなんて私知らなかったし。弁護士も私がいっている時、一言も言わなかったから。
 田 だからさ、僕は石川さんが金庫番じゃないと思っているのよ。
 石 あー、まあ、経理ですからね。
 田 金庫番、金庫番ってみんな思っているから、表も裏も全部石川さんを通るんだと、だからそれは石川さんが受け取ったんじゃないでなくて大久保だったとしてもね、石川さんところを通るんだから、先生とこ行くまでに、だからそれを知らないわけないって、思っているの。
 石 あーなるほど、それはもう大きな誤解で、ただ、私は、私は、5000万は絶対ない、1億は絶対ないって思っていますし、小沢先生がそんな危ないお金、あり得ないって思っています。
 田 その一、仮にさ、大久保さんが貰って、それが小沢先生のところに直に行っちゃうってことは、あり得ないことではない訳ね。
 石 要はあの一、物理的に言われると、これは否定できません、はい。
 田 ただ一方でさ、小沢先生のあの説明ね、4億の原資の説明って言うのは、やっぱりね、破綻しているんだよね。やっぱ供述が変遷しているし、例えば、このときのこの一、引き出した金ですっていうふうなこと言っていたのに、同じ日にね、同じ頃に奥さんの口座に同じような金額が入金されて、あ、これはやっぱりこっちでしてみたいなね、要するに、これはこのお金じゃないのっていうふうにかっちで聞くと、あーそうですねって供述を変えたりね。やっぱり、その真実をきちっと話していればさ、これがどうなのあれはどうなの、ここはおかしいんじゃないって変わらないはずなのよ。石川さんのようにさ、そこはね。だけどやっぱりそうじゃないっていうところを見ると、やっぱり本当のところは、原資について、真実の説明はしていないって言うのは、僕は感じちゃうんだよね、やっぱり調書を読むとね。
 石 4億の原資は、何度も言っているように、私には預かり知らないところなんだ。
 田 ただ一方でさ、その一、水谷建設の5000万円については、小沢先生も堂々と否定しているわけだよ。だから、そういうことを併せ考えると、それは公には絶対に言えないことだけど、あのお金というのは確かに、表にできない裏金なんだけども、やっぱりそれはゼネコンとは違うね、裏金なんじゃないかなあと、それでさっき言ったように、経世会のお金とか、その一なんか、週刊誌に一部書かれているよね、藤井さん経由で15億がどうかこうとか、確かにそのとおりのんだよ。物を見るとね。うん。で、そのうちに、金をこうやって追っていくと、説明のつくお金、説明のつか

ないお金があるけど、やっぱり説明のつかないお金というのは5億か6億かあるから一。うん。
 石 まあ、そこは、検事、私、本当に分かんないんですよ。ほんと、先生と八尋さんの世界だと思えます。
 田 まあねー先生も、そのへんを…
 石 だから、その17年の4億だって私分かんですしね、その記憶もない、定かじゃないですし、八尋さんからの電話で先生からだっていわれたのか、どうだったのか、阿曾さんから言われたのかっていうのも。そのあたりっていうのは先生から電話かかってきて、お前じゃあ、あのタワーに来いだったのか、それとも改竄だったのか、でも金庫入れるって言うのは、二つしかないはずですから。
 田 タワーの金庫ってのは見たことなかったんだよね。
 石 私はありません。
 田 なかったんだね、ないんだね。
 石 木の、木の、外に木の枠が何かを置いているんじゃないですか。
 田 なんか押入れみたいところに入っているとか何とか言っていたよ。ガサ行った人が。
 石 そこは、我々には見せません。紙袋で持ってきて、私は2回に分けて運んだんです。だからその、結局私が紙パック、ビニールパックで貰ったっていうのも供述が怪しいってなってるわけですよ。
 田 そうそうそう。
 石 もう、それは心外です。それは。
 田 だからさ、それはまあ、あんなだけ具体的に言っているんだから、あれは事実だって思いますよって言っているんだけど、やっぱさ、水谷の5000を否定しない人がさ、そこは紙パックじゃ困る訳ですよ。
 石 まあ、そうですね、ええ。それがもう、びっくりなんですよ。
 田 はっはっは。うん。
 石 そら、大久保さんは、川村さん隣り合わせで調書取られたら大変でしょうけど。
 田 はっはっは。そうだよ。まあ、あの一、じゃあ、その点についてどうなんだっていう、まあそういうことを求められないかなあ、別に。そういうふうに言ってみろって言われた訳ではないんでね、そういう意見がちよっと何日前に出てたんですよ、捜査会議でね。石川さんと川村を対質させたらどうなのかって、したらいずれにしても真実が見えてくるんじゃないかと、それについて石川さん拒否するかな、って言ったら、ぼくは拒否しないとしますよって・

石	堂々と受けて立ちます、っていっておいてください。ただ、あの、顔が分からないって言っておいてください。
田	はっはっは。そうそう、それは全然ね。
石	だいたい私と夜料亭で飯食ったなんて、いけしゃあいけしゃあとやっていること自体がね、とんでもない大間違いですよ。たしかに、じゃあ、いくつかね、例えば、さっきの八尋さんの口座に作りに行ったの忘れてる、その一、4億の金どうだったか忘れてるから、あなた、それも忘れてるんじゃないかと言われれば、それをじゃあ、否定するだけの証拠ってものはありません。でも、私は、山本さんと大久保さんと三人っていうのは、これは紛れもない事実です。
田	うんうんうん。でもさ、それは花泉かもしれないんだよね。
石	そうです。それは花泉かもしれません。ただ、私は、その時、たしか女性入っていないんですよ。飯食いに行って。山本さんも確か、その、女性が入ったかどうか分かりませんみたいな供述調書じゃありませんでした、たしか。
田	そうかもしれないね。
石	そこは本当のこと言っていると思ったんですけど、別のところで、そこに水谷、あの川村さんがいて、いたのが間違いない事実であり、それは間違いありませんって供述しているんです。だから、私、山本このやろうって思っているわけですよ。なんで、山本さんまで、その大久保さんとの人間関係あるから、あの一、それを言うのはしかたないと。だけでも、私、山本さんなんて、すごい？回なんですから、最初会ったときと、ご飯食べたときと。
田	それさ、最近、つかこの一、あれかな、逮捕された後にとつてる調書かな、
石	いや、あの一・・・
田	昔の調書。
石	昔の調書。
田	去年の7月とか。
石	だから、私、証拠開示。あ、ごめんなさい。あの証拠開示になってから私見るので、日付はわかりません。
田	あ、そうかそうか。なるほど。そうかそうか。で、川村も結構あれでしょ、具体的に言ってるでしょ。
石	言ってます。
田	それをいろいろ裏付けるようなのが開示されてんのかな。川村の供述が。
石	はい。あの一、新幹線のチケットだとか、運転手のチケットだとか、出動

	記録とかかな、でした。私からしたら、そんなことやってら誰でも罪に陥れられるなっと思って。
田	ま、そこは別に、仮に、仮にさ、石川さんじゃなくて、石川さんの畜っているやくざに渡したであっても、仮に大久保さんであっても、それはついてくるからね、そういう物は。これがあるから、石川さんなんだ、ってわけにはならないわけだね。
石	それは別に、何回も言っているように、もし大久保さんとね、小沢さんが腹合わせをしてやってたとしても、それはしょうがない。
田	う～ん、真実はどうなのかね～
石	だから、わたし、言っているじゃないですか、検察におもねる訳じゃなくて、最初に日刊ゲンダイ来たときも、その後も憎いのは、憎いのはね、川村、水谷なわけですよ。なんでそんなに、言っているのか。だからやっぱりね、漠然とした不安っていうのは、身の危険、感じる時ありますよね。やつらが私、消せば、そんな、やつらが言ってることが事実なっちゃうでしょ。
田	まあね、反論の機会がないしね。
石	それはすごい、不安はありますよ、いっつも。
田	しかも自殺に見せかけてね、ほらやっぱり、石川議員自殺じゃん、って。
石	そうそう。
田	うんうんうん。変な動きは、ないんでしょ、実際に、身の回りで。
石	それは、ありません。ただ、改めて、あの一、検察が呼んでるわけですよ、あの一、ゼネコン関係者、最近も。だから、そうすると、やっぱり私の主張が通って川村嘘ついているってなったら困るかなっていうのは、向こうも考えてもおかしくないですよ。
田	水谷建設として。
石	水谷建設として。
田	ただ、もう水谷功は会社から追い出されているし、川村も社長首になっているからね。水谷建設としてはもう、新しい社長の下で、やり直していきたいと、川村はまあ首にはできないけど、会社にはおいているけど、もうほぼ実権はないからね、なんにもね。
石	そのね、国税がね、動いているなんて噂も聞きますけどね、小沢先生。やっぱりって、何かしらやっぱり、検察もまだまだあきらめていないんじゃないでしょうか。
田	はっはっは。そりゃあ、何とも言えないけどね。それは、国税の動きは実際知らないし。うん。
石	川村呼んで対峙させようなんて言うのは、びっくりですね。まあ、いいで

	すけど別に。
田	ま、それは、あの一、でもなんて言うかなー、またそういうことが表に出ると問題になるし。問題になる、別にそれは法律上全然、法律違反じゃないんだけど、そういうやり方、やり方も法律で規定されているやり方、やり方なんだけど、滅多にやらないよね、普通はね。それでさ、仮にさ、そういうふうになってね、じゃあ事実はどうでしたなんて、引き出した供述がどんだけの任意性と信用性があるのかね。例えば殺人犯のところさ、否認している殺人犯とさー、被害者の遺族とを連れてきてね、おまえこんな遺族は悲しんでいるんだと、それで、お前それでも犯人であることを否認するのかって言っって自白を引き出したところさ、何の、証拠としてはほとんど意味がないよね、それと同じでね。だから、まあそういうことを考えているってことが表に出るってこと自体、ぼくはさ、非常に問題だと思うんで、これちょっとよそでは言っってほしくないんだけど。うん。
石	分かりました。
田	ただ、まあ、そういうことまでね、出てる、話に出てるってことが現実だし、で僕がそれを伝えても、石川さんは、予想どおりの答えだったし、だからそれはそれで私にとって、自信持っている。それでね、狼狽されちゃってさ、川村とは会うの勘弁してっ言われたら、俺もおやっと思うけど。はっはっは。
石	はっはっは。いつでも受けて立ちますねー。
田	それは安心したんで、ここだけのやりとりで。検事からそんな話聞いたんだなんて、弁護士に言わないでください。
石	分かりました。それは約束します。ただ、水谷建設の件は聞かれたかと聞われれば、ないかと聞かれて、ありませんと答えましたということにしておきます。
田	それはいいよ。 あと、調書のことについては、よく上にも言っってくださいということは言っ といたから。要するにね、石川議員がまた報告・了承認めて、小沢先生と 食い違っているとかね、その今までの発言が支援者向けだとかね、そうい うことを検察に言っているなんていうのはね、出るから署名したくない って本人が言っているんですよ、私は出ないように配慮するからと言っ て本人を説得して署名させているんだから、絶対にマスコミに出ないように 言っってくださいよと、ということは部長に言っといた。はっはっは。うん。
石	はい。しかし、今回のこの場面で、あの報告・了承の具体的な供述、でも、 あれ出てましたよね、一月の逮捕のころ、私もちょっと新聞みたくです けど、報告・了承を得ていたっていうのが、新聞に出ていましたから、もう

	そのときに、私、供述漏れているんだろうなって思っってましたけど。
田	逮捕・
石	した後勾留中に、やっぱり読売だとか報告・了承を得ていたとか載しているんですよ。だから、この間、読売新聞に出たときに、各社、追っつかね かったんですよ、それ。私に対して、
田	え、あの、あれじゃないの、勾留中に、だっってほら、読売が誤報だっって話 になって、その時じゃないの。
石	そうです、そうです。
田	だから逮捕直後は出てないでしょ、その話は。
石	逮捕直後はですね。
田	調書にもしてないしさ。だから、で、あれ2月、1月の何日かに読売が夕刊 で、石川議員なんか認めるみたいな、報告・了承認めるみたいになって、で もそれは、うちとしては誤報だっってつばねたやつなんだよ。要するに、そ んな事実はないと。で、別に、なんて言うのかな、報告・了承といってもさ、 がちがちに共謀で、認定、間違いなく認定できるような報告・了承の中身にな ってないわけだから。
石	要は4億円を載せるなどということは、全く指示されてませんし。
田	うんうん。だから、まあ、報告・了承という言葉がさ、一人歩きしている んだよね、実際はね。うん。だからマスコミの考えている報告・了承とい うのと、我々が使っている報告・了承っていうのと中身が違っうんだよ、うん。 うん。
石	(聴き取り不能)
田	まあ、でも、あの一、事実は事実として、あー、僕は、こんなことを言っ うのも失礼なんだけど、その100%ね、ありのまま事実を全部話している とは、実際思えないところもあるんだけど、まあそれはしょうがないよな。 でも7割くらいはね、7割くらいは話しているんだろうって思っってんだよ。 はっはっは。
石	はっはっは。ノーコメントです。
田	ノーコメント。
石	ちゃんとお話してますけども、ノーコメントです。
田	ちゃんとの中身の問題だろ、7割でちゃんと言っ場合とさ、100%じゃ ないとちゃんと言わない場合があるから。
石	ただ、その7、3割のなかに水谷は全く入っっておりません。
田	そこはね、僕も確信持っているんだけど。
石	しかし、なんで川村がそういう嘘言っのか。ただ、土壌として、大久保さ んとのそういう人間関係があったっっていうので、私、出た後、あ、だからこ

んなにしつこく聞いたのかっていうのは納得しているんですよ。

田 やあ、あれをね、本当に、川村調書みてね、それを裏付ける物証みてね、片っほの久保さんの供述をみてね、そしたら石川さんの話だって本当だって思っちゃうよ。うんうん。まあ、あれだな。後はもう、検査の結果を待つしかないよね。

石 そうですよ、いつぐらいですかね。

田 まあ、さすがに選挙直前にはやらないと思うんだけどね。うちのほうは、どっちにしてもそんなにかからないと思うよ、

石 もう今週ですかね、明日やって。

田 今週とか来週、今週中、とにかく、どんなに遅くても今月中には、処分するんだろうけど。たぶん、俺は不起訴にする公算が高いと思うけどね、今日のこの状況ね、踏まえてね。その場合後、検査の方がどうするのかね、参院選が終わった後に、判断するということになると思うんだけどね。そのときにだから、8人の関係でね、どうなるかね、うーん。

石 ほんとに、あの、元気でやってますけど、茨の道ですよ。初公判になると、やっぱり、あそこの法廷に立たなきゃならないかと思うと。

田 ものすごい負担だよ。うん。

石 はい。

田 マスコミもまた注目するだろうし、弁護士の打ち合わせだって、あれもかかるよね、あれね。うーん。ま、いいや、水谷建設はまた改めて相当追及しましたけど、本人は供述かわりませんと。そしたら後、たばこ一本くらい吸って、5分くらい時間つぶして終わりにしよう。

(聴き取り不能)、お前、ちくるなよ、こんなやりとりしているって。

事務官 いやあの・・・はっはっは。

田 なんか、ほとんど追及していませんでしたよねって。はっはっは。大丈夫だな。

事務官 はい

田 まああの一、あれですよ、なんかほんとに危険を感じるようなことが仮にあったら、いつでも私の方に来て。考えるから。

石 はい、本当ではまったくありません。ありませんけど、まだ、まだ検察庁として疑いがあり、そして水谷建設も執拗に呼ばれているようであれば、やっぱり、ただその状況としては水谷功もまた収監されるような状況であればね、やっぱり怖いんですけど、川村、水谷が逮捕されて収監されるような状況があればね、でも、それはないでしょうから。

田 でも、あの会社でいくらでもあるよ、材料は。はっはっは。逮捕する材料は。本人たちもそれを自覚しているから、自覚しているから、それはあのあ

まり、何といふかな、余計な動きはできないだけで。

石 そりゃー、やっぱり、無所属っていうのは針のむしろですよ。

田 席も替わるんでしょ。

石 一番はじの後ろです。

田 一番はじの後ろ。

石 だから、鈴木宗男さんとか佐藤優さんとか、ほんと強いなと思いますよね。鈴木さん、いつになるんですかね。

田 ちょっと長引いているよね、最高裁の方もねえ。選挙とのタイミングもあつるもんね、やっぱり難しいよね。

石 参院選前っていうことはないでしょうけどね。

田 もう引退するのかな、でもこれで。収監されたら。

石 あの、立候補禁止期間が5年間ついていますんで、そうすると実質6年ぐらいい出れないことになるんです。6年たつと鈴木先生も67、8ですから。小沢先生が68ですね、5月24日に。

田 5月24日にね。そうなんだよね。はっはっは。

石 はあー。

田 あとはもう、マスコミで食っていくしかないのかな、宗男先生は。

石 でしょうね。いや、だって、そりゃ、本は売れるし、あの一テレビ出たら人気者だし。私はそうはなれないじゃないですか。

田 はっはっは。やってみたら。はっはっは。

石 いやあ、だって鈴木先生は人生の終わりで捕まっていますから。

田 まあ、そうだよ。まあ、そんなことやってる、石川さんがそんなことやっているさー、ばかなことやっているよりも、もっと実質的なところでさ、貢献、国に貢献できることはあるんだから。

石 かんばりたいと思っています。

田 でもあの、保釈されるとき、結構顔が緊張していたね、松木さんと一緒に写っていたけどさ。

石 しかし、それでひげ剃ったから改心していないなんて、あれはですね、上垣から、一生使われる映像だから、支援者の人見たら、ひげぼうぼうづら見たら、悲しみますよっていうから、岩井さんはひげ伸ばして出るべきだ、こんなに大変だって、私もそう言ってたでしょ。だからそう言われたから、保釈って、いきなり2月5日の午後言われたんですよ。それで急遽ひげ剃り頼んだら、1回の充電が切れちゃって、もう一回。

田 そりゃそうだろうな、あんだけひげが伸びてれば。結構詰まっちゃうでしょ、あれでやると。

石 そうなんですよ。だから、ひげそりのとこ、こういうのがついている理由

が初めて分かりました。これをつけてこう、遠くから、こう剃れるようになってるんですよ。

田 あーなるほどね。

石 今日はホテル泊まりますんで。宿舎戻っても大変でしょうし。

田 外、マスコミいるのかな。

事務官 どうですかねー。

田 送りはどこに送ってくの。

石 東京駅にしてもらいます。それが、タクシーもありますし。もう別に今日眼鏡かけてきてませんしね、また眼鏡かけて来ていると言われるとまた、変装なのかなんか、言われるんじゃないかと。

田 (聴き取り不能)に「変装」って出るからね。はっはっは。

石 ただ、失職した後、もう1回カムバックできるのかどうかって非常に不安ですよ。その5年になったら、2回本ちゃん出れないことになったときに、2回は見逃してくれないですよ、民主党も。

田 だから、そこ本当に3年にするっていうかどうかってのは大きいよね。

石 だから、一番でどういう判決出るかで、その先戦っていくかというの、すごい、迷いありますよね。今やっぱり、もう出るときはね、私、安田さんに、私一番で丸めてくださいと。

田 うんうん。でも、そうも今やっぱりいかないの。今、やっぱり。その今の弁護団の方針が。

石 うーん。いや、あの、検察審査会次第ですよ。だって、小沢先生ずっとやっていくつたら、それとあと私も、あの補欠選挙の関係あるんで。はっきり言って一番出て、控訴と言ってももう国民の関心ものすごく薄いですよ。鈴木さんもそうですけど、おそらく来年の今頃ですよ。判決出るとしたら。

田 一番判決。

石 はい。

田 まあ秋からやって、あの、争い方によるけど。

石 でも、それでなんぼ争ったって収支報告書に記載していたかどうか。

田 まあ、それはね、それはそうだよ。勝場さんだってすぐ出ちゃったもんね。

石 だから、それ考えると、一番で例えば執行猶予で公民権停止なしだったら、もうそこで、あの一、もう丸めますってことに、二番でね、今度やっぱり公民権停止つけるなんてなったら大変でしょう。

田 そりゃそうだね。

石 ただ、公民権停止5年ついたときに、最高裁までやったってその後2回出

られないですよ。ただ一方で最高裁までやらないと、全部、水谷の件も含めて確かにはいえ、世間はそうじゃないでしょ。世間はやっぱり、争ったけど勝てなかったという外形を作るべきだっていう人も。あの、宗男さんなんか絶対そうですからね。と、吉田さんに伝えておいてください。毎日悩みながら生きていますと。

田 はっはっは。そうだね。

石 毎日、本当にこんな世間に騒がれるだけの、大罪を犯したのかなって。

田 そうなんだよな。まあ、やりようがもつと、いくらでもあったと思うし、呼び出されたときの対応についてももっとやり方があったと思うよね。そうすればこんなことになってなかった可能性あるよね。でもまあ、それをなげいてもしょうがないよな。

石 そうですね。ただ、本当にものすごい罪であれば、3月の時に、もうだつて特捜部の力であれば、あの1ヵ月、2ヵ月でこんな事件は、できちゃってたでしょうから。やっぱり、私は、検事、これは言えないかもしれないですけど、どうしようかっていう、立件に対するね、悩んで言うのは、いろんな意見あったと思うんですね。

田 うんうん。そりゃそうだよ。やっぱりこんな立件したってしーんがないだろうって思ってたって当然であらう。そりゃいろいろだよ。

石 しかも、大久保事件から数えたら約10ヶ月経ってからの逮捕ですよ。

田 なんか、大久保さんの方も、訴因変更を認めるかとか、だいぶ揉めているらしいからね。

石 そうですね。私もよく分かっていないんですけど、それどうなんですか、要は検察の方は認めてくれてことなわけなんですよ。

田 そうそう、ほんとにはさ、追起訴、事実が違えば最初に起訴したのに追起訴して、二つの事実を裁判するんだろうけど、大久保さんの16年に限っては、16年の不記載だから、西松建設のも入っているし今回ののも両方入っているわけよ。で、それは一つの罪なんだよね、だからその追起訴っていうのはもう起訴しているから、またさらに別の事実を追起訴して形はできないのよ。一つの実事だから。だから、最初に起訴している内容を変えたいと、この4億円も付け加えたいと、前の起訴に、っていうふうに検察は主張しているんだけど、弁護側は、もうそれはすでにそれは起訴して審理は大詰めなんだから、もっと早くやるんだつたらやるべきでしょ、それを今更なんだ、だからそれはもう時機に遅れていると言って、訴因変更を許可しないでほしいと、裁判所に言っても、まあ争っているんだけど、ま、最終的には裁判所も認めざるを得ないと思ってるんだけど。だって、それだけの時間がかかった理由っていうのは、捜査の経過を検察は説明できるから、だからこれはやむ

	<p>を得なかったんだという結論に最後はたぶんならざるをえないんだけど。でも、やっぱり、弁護士もメンツとかいろいろあると思うんだよね。うん。</p> <p>石 またここに来て、検事とタバコ吸うとは思わなかったですよ。</p> <p>田 はっはっは。</p> <p>田 さてじゃあ、報告してきて、あれにしようか。許可もらってくるわ。</p> <p>石 分かりました。</p> <p>田 「水谷厳しく追及しましたけどだめでした」って。ちょっと、待ってて。</p> <p>石 はい、分かりました。</p> <p>田 ちょっと待ってね。三ちゃん、だめだぞ、ちくっちゃ。</p> <p>事務官 いや、僕は…</p> <p>(沈黙)</p>
05:06:42	<p>石 はー、やなもんですね。はー。でも、説明責任を果たす立場にいるって言うのはほんとつらいですよ。</p> <p>事務官 そうですね。ほんとに。</p> <p>石 そら、辞めた方が楽ですよ。でも何やってんだらう。辞めたら…。</p> <p>(沈黙)</p> <p>石 あ、そこ連動しているんだ。あー。</p> <p>事務官 あ、見えましたか。見えますか。</p> <p>石 いやいやそんな、隠さなくていいですよ。なんかしようと思っていないです。そんな視力5.0あるわけではないですから。</p> <p>事務官 あっはっは。</p> <p>石 ふー。</p> <p>(沈黙)</p>
05:09:04	<p>(扉の開く音)</p> <p>田 あれ、調書の写しと、原本ある。</p> <p>事務官 はい、あります。</p> <p>田 じゃ、ちょっとそれ持って行ってください。で、いま連絡あるから、おれも一緒に乗って行って言うから。</p> <p>事務官 あ、そうですか。</p> <p>田 マスコミがだいぶ囲んでいるらしいんだわ。</p> <p>石 そうですか。</p> <p>田 車はとられるけど、もう仕方がねえよな、カーテン付の車だから。</p> <p>石 わかりました。</p> <p>田 カーテン付の車だから、もう仕方ないよね、東京駅でいいの。</p> <p>石 いいですよ。追ってきますかね、バイクそこまで。</p> <p>田 どうかねー。分かんないけど。</p>

	<p>石 もし追って来られたら、全日空ホテルの方がさっとう行きやすいですよ。どっかホテルの方が。</p> <p>田 そしたら、乗ってから、様子見て行き先変えるかだな、連絡してね。これごと渡しちゃっていい。</p> <p>事務官 はい、いいですよ。</p> <p>田 で、連絡ちょっと待っててくれる。</p> <p>事務官 はい。</p> <p>石 車追われますかね。</p> <p>事務官 どうですかねー。ま、そこまでは。うーん。そこまではないと思いますけどね。</p> <p>石 車も撮られるかな。そこで</p> <p>事務官 ま、とりあえず撮るでしょうね。撮影はするでしょうけど。ま、多分出てくる車怪しいのはみんな撮って、あれじゃないですか。</p> <p>石 でも長岡さんが助手席乗ったら、分かっちゃうでしょ、長岡さんの顔で。</p> <p>事務官 どうかねー。分かりますかねー。私、そんなでも、まあたぶん、顔は…</p> <p>石 社会部は分かるでしょう。</p> <p>事務官 分かりますかねー。</p> <p>(沈黙)</p> <p>石 うん。ほんととまた、あの護送車に乗せられると、イメージ悪いんですけどね。</p> <p>事務官 ははは。</p> <p>(沈黙)</p> <p>(扉の開く音)</p> <p>田 連絡ない。</p> <p>事務官 まだです。</p> <p>田 じゃ、連絡あったら準備して。</p> <p>石 護送車、分かりますかね。私が乗っている護送車って。</p> <p>田 ま、護送車ってわけでもないんだけど、ま、そりゃ分かるでしょう。今日だって、そりゃ石川さん来ているのばれているし、ばれてるでしょ。</p> <p>石 ばれてます。私もう、地検だって言ってます。</p> <p>田 で、あの車が出れば当然、まず撮るだろうし、あとついてくる人がいるかどうかね。今日あれ、弁護士さんからはさ、あの一、行って全部否定してこいとか言われなかった。</p> <p>石 いや、全然、そんなことは言われませんよ。</p> <p>田 行ってどう対応してこいって言われるの。</p> <p>石 いや、ちゃんと。</p>
--	---

	田 事実をちゃんと。
	石 ま、そうですね。
	田 そうだよな、今さら否定しても、火に油ってことは弁護士さんも思うだろうからね。
	石 はい。
	田 ただまあ、余計なことを言って、供述は進展させるなよっていうのはあるでしょ。あっはっは。
	石 あー、それはありますよね。
	田 余計なことは言うなよと。今までの範囲でと。
	石 はい。
	田 じゃあ、まあ別に弁護士に怒られる話じゃないね。
	石 うんまあ。別に。だってもう、抗えないでしょう。
	田 言ってた話だしね。あっはっは。
	石 え、まあ、抗えないでしょう。
	田 まあでも、進展もさせず、今までの否定もしないっていうのが今とれる最善の策だよ。うん。
	石 はい。
	田 つい否定したくなるけどね。
	石 はい。
	田 あ、そうだ。ごめん。連絡なくていいんだ。武藤ちゃんがもう下へ降りてくれていうことだったんだ。ごめんごめん。
	事務官 あ、そうだったんですか。そうですか。
	田 B3 ね。
	事務官 はい。
	石 困まれてるか…お願いします。
05:13:56	以降、省略